番　　号	調　査		平成28年11月30日						設　計　者	検　査　者
七産第16-457号	町長		副町長		財政課長		課長			

施工場所　七ヶ浜町花渕浜字館下　地内　　地 内

平成 28 年度　花渕浜地区被災施設復旧整備事業(公衆用トイレ)建設工事　　実施設計仕様書

事業費	「仕様概要・その他」
一金　　円也 内消費税　　円也	1)新築工事 公衆用トイレ(木造平屋) 建築面積　40.99　㎡ 床面積　27.32　㎡ 上記に係る建築・電気・設備工事　1　式
期間 自 至　平成29年3月31日	

起　工　理　由

積　算　総　括　表			
工 事 名	平成２８年度 花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ）建設工事		
工 事 費	金　　円(消費税を含む)		
工事日数			
項　目	名　　称	金　額（円）	摘　　要
A	直接工事費		
B	共通仮設費		
C	純工事費		
D	現場管理費		
E	工事原価		
F	一般管理費等		
G	契約保証費		
H	工事価格合計		
	改め		
	消費税等相当額		
	工 事 価 格		

平成28年度

花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ）建設工事

公　開　数　量　内　訳　書

＜取扱上の注意事項＞

1　本内訳書に記載されている数量は参考数量であり，本内訳書は工事請負契約書に記載される設計図書には含まれない。

2　公開数量は，設計変更や出来高計算等の対象数量となるものではない。

3　公開数量は，平成27年基準国土交通省建築工事積算基準及び建築数量積算基準に準拠している。

4　本内訳書に疑義があるときは，公開数量に関する質問書に入札参加予定者が自ら作成した内訳及びその根拠（部位別及び階別の集計表）を明示した数量見積書を添付して質問することができる。（細目は，工事担当に問い合わせのこと。）

七ヶ浜町

（数量公開用）

共　通　費

主たる工事の種別	工事種目		直接工事費(A)	共通仮設費(B)			純工事費(C)
				共通仮設費率	補正率	共通仮設費	
建築工事（新営）	一般工事	新営 改修					
	鉄骨工事	新営 改修					
	その他工事	家具・書架等 造園 舗装 取壊し 外構					
	共通仮設費(積上分)	新営 改修					
	現場管理費(積上分)	新営 改修					
	小計						
	発生材処分費						
	合計						

工事種目			現場管理費(D)			工事原価(E)
			現場管理費率	補正率	現場管理費	
一般工事	新営 改修					
鉄骨工事	新営 改修					
その他工事	家具・書架等 造園 舗装 取壊し その他					
共通仮設費(積上分)	新営 改修					
現場管理費(積上分)	新営 改修					
小計						
発生材処分費						
合計						

工事番号	七産第16-457号
工事名称	平成28年度花渕浜地区災害復旧整備事業(公衆用トイレ)建設工事
発注者	七ヶ浜町

工期	
監督員事務所の有無	
前払金支出割合による一般管理費の補正	有り
前払い金支出割合	50%
契約保証費の有無	有り
消費税率	8.0%

一般管理費等(F)		
一般管理費等率	補正率	一般管理費
契約保証費(G)		
工事価格(H)=(E)+(F)+(G)（税抜き）		
	改め	
消費税相当額		
8.00%		
工事価格(税込み)		
（税込み）		

項　目　別　内　訳　書

項目					名称	金額（円）	摘要	
		A			指定仮設工事			
		B			直接工事費			
					建築工事			
					電気設備工事			
					機械設備工事			
					（小計）			
		C			発生材処分費			
		D						
		E						
							共通仮設費（積上げ）	
					（合計　A＋B＋C＋D＋E）		建＋電＋機（処分費抜き）	
					（合計　B＋C＋D＋E）			

項　目　別　内　訳　書

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
					（円）	（円）	
A							
	指定仮設工事						
	成型鋼板	H=3.0m　在置3か月	64.7	m			
	キャスターゲート	W＝6.0、H=1.8m　在置3か月	1.0	か所			
	交通誘導員B			日人			
	（合計）						

項　目　別　内　訳　書

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価 (円)	金　額 (円)	備　　考
B							
	建築工事						
	1.直接仮設工事		1.0	式			
	2.土工事		1.0	式			
	3地業工事		1.0	式			
	4.鉄筋工事		1.0	式			
	5.ｺﾝｸﾘｰﾄ工事		1.0	式			
	6.型枠工事		1.0	式			
	7.防水工事		1.0	式			
	8.ﾀｲﾙ工事		1.0	式			
	9.木工事		1.0	式			
	10.屋根工事		1.0	式			
	11.金属工事		1.0	式			
	12.左官工事		1.0	式			
	13建具工事		1.0	式			
	14.塗装工事		1.0	式			
	15.内装工事		1.0	式			
	16.ﾕﾆｯﾄ及びその他工事		1.0	式			
	17.外構工事		1.0	式			
	（合計）						

項　目　別　内　訳　書

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価	金　額	備　　考
					（円）	（円）	
B							
	建築工事						
	1.直接仮設工事						
	遣り方	一般	41.0	㎡			
	墨出し	一般　地上階	27.3	㎡			
	養生	一般　地上階	27.3	㎡			
	整理清掃後片付け	一搬	27.3	㎡			
	外部足場　くさび緊結式足場	手すり先行型　W900　高さ10m未満 存置3か月　掛払い手間、運搬費含	138.0	㎡			
	垂直ネット状養生シート張り	防炎Ｉ類 架払い手間・運搬含む	138.0	㎡			
	安全手摺	手すり先行方式 架払い手間・運搬含む	36.2	m			
	内部仕上足場	脚立足場　架払い手間・運搬含む 階高4.0m以下　在置1か月	41.0	㎡			
	（小計）						

項　目　別　内　訳　書

	名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価 （円）	金　額 （円）	備　　考
	2.土工事						
	根切り	つぼ、布堀り	55.1	m3			
	床付け	つぼ、布堀り	84.8	㎡			
	埋戻し	B種	24.1	m3			
	敷き均し	転圧共	10.6	m3			
	発生土　積み込み		20.4	m3			
	発生土運搬費	10tダンプ　5.5km以下	20.4	m3			
	土工機械運搬	根切り、埋戻し	2.0	往復			
	（小計）						

項　目　別　内　訳　書

名　称		摘　要	数 量	単位	単 価（円）	金 額（円）	備　考
	3.地業工事						
	砂利地業	再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ 基礎下・土間下	12.7	m3			
	床下防湿層敷き	ポリエチレンフィルム t=0.15	41.0	㎡			
	（小計）						

項　目　別　内　訳　書

名　称		摘　要	数 量	単位	単 価（円）	金 額（円）	備　考
	4.鉄筋工事						
	異形棒鋼　SD295A	D13	1.1	t			
	異形棒鋼　SD295A	D10	0.2	t			
	加工組立費		1.3	t			
	運搬費	4t車	1.3	t			
	スクラップ	H2	550.0	Kg			
	（小計）						

項　目　別　内　訳　書

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価 (円)	金　額 (円)	備　　考
	5.ｺﾝｸﾘｰﾄ工事						
	・材料						
	捨てコンクリート	FC18、S=15	1.1	m3			
	躯体ｽﾗﾌﾞコンクリート	FC24+6、S=15	10.5	m3			
	立上りコンクリート	FC24+6、S=18	1.6	m3			
	外部土間コンクリート	FC24、S=15	5.1	m3			
	・打設手間						
	コンクリート打設手間	捨てコン	1.1	m3			
	コンクリート打設手間	躯体ｽﾗﾌﾞコン	10.5	m3			
	コンクリート打設手間	立上コン	1.3	m3			
	コンクリート打設手間	外部土間コン	5.1	m3			
	ポンプ圧送	基本料金	4.0	回			
	ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ圧送		18.0	m3			
	(小計)						

項　目　別　内　訳　書

	名　　称	摘　　要	数 量	単位	単 価 （円）	金 額 （円）	備　　考
	6.型枠工事						
	打ち放し型枠	B種	48.5	㎡			
	型枠運搬費	4t車　30km程度往復	48.5	㎡			
	（小計）						

項　目　別　内　訳　書

	名　　称	摘　　要	数 量	単位	単 価 （円）	金 額 （円）	備　　考
	7.防水工事						
	シーリング	建具　変成シリコーン系 MS-2　10×10	51.5	m			
		外壁　変成シリコーン系 MS-2　20×10	24.3	m			
	（小計）						

項　目　別　内　訳　書

名　称		摘　要	数 量	単位	単 価（円）	金 額（円）	備　考
	8.ﾀｲﾙ工事						
	外装床タイル	300角　磁器質　無釉	6.6	㎡			
	汚垂石	ｾﾗﾐｯｸ製 W600,L2600	1.0	か所			
	（小計）						

項　目　別　内　訳　書

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価 (円)	金　額 (円)	備　　考
	9.木工事						
	木材(構造材)		1.0	式			
	木材(羽柄材)		1.0	式			
	木材(補足材)		1.0	式			
	工場加工費	構造材、羽柄材	1.0	式			
	運搬費		1.0	式			
	建方費		1.0	式			
	天井下地	施工手間　吊り木共	26.1	㎡			
	(小計)						

項　目　別　内　訳　書

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価 (円)	金　額 (円)	備　　考
	10.屋根工事						
	嵌合式立平葺	ﾌｯ素ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t0.45	64.1	㎡			
	ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ	940品	64.1	㎡			
	棟納め	ﾌｯ素ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t0.45、下地ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t=0.8共	11.2	m			
	軒先唐草・鼻隠	ﾌｯ素ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t0.45	22.4	m			
	ｹﾗﾊﾞ唐草・破風	ﾌｯ素ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t0.45	11.4	m			
	雪止金具	焼付塗装、単体ﾀｲﾌﾟ	22.4	m			
	軒樋	高耐候樹脂製　W135	22.4	m			
	竪樋	高耐候樹脂製　□40	6.0	m			
	落し口	角樋落し口	4.0	か所			
	鎖樋	SUS製	4.4	m			
	（小計）						

項　目　別　内　訳　書

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価 (円)	金　額 (円)	備　　考
	11.金属工事						
	・外部						
	土台水切り	ｱﾙﾐ製　既製品	23.1	m			
	外壁上部見切り	ｱﾙﾐ製　既製品	33.9	m			
	・内部						
	壁点検口	300角　鍵付	5.0	か所			
	ｱﾙﾐ製見切	壁部	29.0	m			
	L型手摺		5.0	か所			
	小便器用手摺		1.0	か所			
	跳上手摺		1.0	か所			
	ﾗｲﾆﾝｸﾞ下地	LGS50型	12.8	㎡			
	換気ｶﾞﾗﾘ	ｱﾙﾐ製 W0.60×H0.375　ﾚｼﾞｽﾀｰ付	3.0	か所			
	ｶﾞﾗﾘ取付		3.0	か所			
	鋼製ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ	W150	2.3	m			
	（小計）						

項　目　別　内　訳　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価 (円)	金 額 (円)	備　　考
	12.左官工事						
	・外部						
	基礎コンクリート天端均し	モルタル　t20	35.4	m			
	基礎ｽﾗﾌ・土間ｺﾝ金ｺﾞﾃ均し	直均し仕上げ	66.5	㎡			
	巾木　弾性モルタル薄塗り	高さ　300	29.2	m			
	無機質系耐摩耗性床材	ｺﾝｸﾘｰﾄ同時散布 ｾﾗﾐｯｸ系骨材配合非磁性強靭床仕上げ材	27.3	㎡			
	ｽﾀﾝﾌﾟｺﾝｸﾘｰﾄ	ｺﾝｸﾘｰﾄ同時散布工法	28.1	㎡			
	一般ﾀｲﾙ下地	モルタル　t37	6.6	㎡			
	（小計）						

項　目　別　内　訳　書

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価 （円）	金　額 （円）	備　　考
	13.建具工事						
	(1)ｱﾙﾐ製建具		1.0	式			
	(2)鋼製軽量建具		1.0	式			
	(3)ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ		1.0	式			
	（小計）						

項　目　別　内　訳　書

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価 (円)	金　額 (円)	備　　考
	(1)ｱﾙﾐ製建具						
	(住宅用ｻｯｼ)						
	AW-1 内倒し窓 開閉用フック棒　L=2400込	W740×H500　網戸込 FL3+A12+合わせｶﾞﾗｽ(FL3+中間膜+FL3)含む	5.0	か所			
	AW-2 FIX窓	W740×H500 FL3+A12+合わせｶﾞﾗｽ(FL3+中間膜+FL3)含む	5.0	か所			
	AW-3 FIX窓	W275×H500 FL3+A12+合わせｶﾞﾗｽ(FL3+中間膜+FL3)含む	5.0	か所			
	組立搬入費	組立加工、配送代、仕上調整代含む	1.0	式			
	窓額縁	120×25 MDF化粧ｼｰﾄ貼	25.6	m			
	(小計)						

項　目　別　内　訳　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価 (円)	金 額 (円)	備　　考
	(2)鋼製軽量建具						
	LSD-1 上吊片引き戸	有効開口800、H1950 外用　鍵付　枠込	1.0	か所			
	LSD-2　上吊片引き戸	有効開口800、H1950 外用　鍵付　枠込	1.0	か所			
	LSD-3　上吊片引き戸	有効開口1050、H1950 外用　鍵付　枠込	1.0	か所			
	運搬費		1.0	式			
	取付調整費		1.0	式			
	ﾎﾟﾘｶｰﾎﾞﾈｰﾄ板	型ｶﾞﾗｽ調　t3.0	0.4	㎡			
	枠DP塗装	枠塗装　1級　素地共	14.4	m			
	(小計)						

項　目　別　内　訳　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価 (円)	金 額 (円)	備　　考
	(3)ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ						
	TB-1	W885、D1750、H2000 面材ﾒﾗﾐﾝ化粧板、芯材ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ	1.0	か所			
	TB-2	W885、D1035、H2000 面材ﾒﾗﾐﾝ化粧板、芯材ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ	1.0	か所			
	TB-3	W2595、D1750、H2000 面材ﾒﾗﾐﾝ化粧板、芯材ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ	1.0	か所			
	運搬費		1.0	式			
	取付調整費		1.0	式			
	(小計)						

項　目　別　内　訳　書

名　称		摘　要	数 量	単位	単 価（円）	金 額（円）	備　考
	14.塗装工事						
	木材保護塗料	木部　A種	31.1	㎡			
	素地ごしらえ	木部　A種	31.1	㎡			
	EP塗装	ｹｲｶﾙ板　B種　素地ごしらえ共	41.4	㎡			
	（小計）						

項　目　別　内　訳　書

	名　　称	摘　　要	数　量	単位	単　価 （円）	金　額 （円）	備　　考
	15.内外装工事						
	(1)外部		1.0	式			
	(2)内部		1.0	式			
	（小計）						

項　目　別　内　訳　書

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価 (円)	金　額 (円)	備　　考
	(1)外部						
	外壁 窯業系ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ	t-16.0 寒冷地仕様	66.4	㎡			
	外壁 窯業系ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ出隅役物	t-16.0 寒冷地仕様	10.8	m			
	外壁 透湿防水ｼｰﾄ		66.4	㎡			
	外壁 構造用合板	t-9.0	66.4	㎡			
	軒天 ケイカル板	t-6.0　突き付け	15.3	㎡			
	基礎 気密ﾊﾟｯｷﾝ	W=120	22.4	m			
	合成木材ルーバー	W2950×H2100　小口ｷｬｯﾌﾟ込	2.0	か所			
	〃	W2050×H2100　小口ｷｬｯﾌﾟ込	1.0	か所			
	(小計)						

項　目　別　内　訳　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価 (円)	金 額 (円)	備　　考
	(2)内部						
	壁 耐水合板	t-9.0	94.4	㎡			
	壁 化粧ｹｲｶﾙ版	t-6.0 ｼﾞｮｲﾅｰ共	94.4	㎡			
	壁 防水ｼｰﾄ	ﾗｲﾆﾝｸﾞﾀｲﾙ部	4.1	㎡			
	天井 有孔FK t-6.0	t-6.0 突付	26.1	㎡			
	廻縁 塩ﾋﾞ製		46.7	m			
	遮音材：壁 ｸﾞﾗｽｳｰﾙ	16K t-50	15.0	㎡			
	遮音材：天井 ｸﾞﾗｽｳｰﾙ	16K t-100	27.2	㎡			
	(小計)						

項　目　別　内　訳　書

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価 （円）	金　額 （円）	備　　考
	16.ユニット及びその他の工事						
	トイレサイン	ｱｸﾘﾙ板　ｼｰﾄ貼 150×150	3.0	か所			
	ﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑ	W350、L2600、t20	4.0	か所			
	〃	W350、L2140、t20	1.0	か所			
	〃	W150、L1000、t20	1.0	か所			
	棚板	W300、L850	1.0	か所			
	（小計）						

項　目　別　内　訳　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価 （円）	金 額 （円）	備　　考
	17.外構工事						
	雨水枡	ｺﾝｸﾘｰﾄ製　A種　350角	4.0	か所			
	雨水枡用ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋	ﾝｸﾘｰﾄ製　A種　350角用 ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ15mm T-6	4.0	か所			
	雨水用暗渠管	VP管　100φ 道路側溝接続含む	20.8	m			
	鎖樋部割栗石	茶系 100mm～150mm程度	0.1	m3			
	（小計）						

七ヶ浜町

項　目　別　内　訳　書

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価 (円)	金　額 (円)	備　　考
	【別紙明細1】						
・	木材（構造材）						
	土台	唐松注入　4000×105×105 5本	0.2205	m3			
	〃	唐松注入　3000×105×105 2本	0.0662	m3			
	管柱	杉修正　3000×105×105 38本	1.2578	m3			
	桁・梁	米松修正　5000×300×105 1本	0.1575	m3			
	〃	米松修正　4000×300×105 2本	0.2520	m3			
	〃	米松修正　4000×150×105 4本	0.2520	m3			
	〃	米松修正　3000×150×105 8本	0.3784	m3			
	母屋	米松KD　4000×105×105 6本	0.2646	m3			
	〃	米松KD　3000×105×105 2本	0.0662	m3			
	棟木	米松KD　5000×300×105 2本	0.3150	m3			
	〃	米松KD　3000×300×105 2本	0.0945	m3			
	火打ち梁	米松修正　4000×90×90 4本	0.1296	m3			
	小屋束	杉KD　4000×105×105　6本	0.2646	m3			
	（小計）						

項　目　別　内　訳　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価 (円)	金 額 (円)	備　　考
	【別紙明細2】						
・	木材（羽柄材）						
	垂木	杉KD　4000×105×60　27本	0.6804	m3			
	”	杉KD　3000×105×60　27本	0.5103	m3			
	筋違	米松KD　3000×300×45　4本	0.0488	m3			
	間柱	杉KD　3000×30×105　11本	0.1045	m3			
	”	杉KD　3000×45×105　4本	0.0568	m3			
	窓台・まぐさ	杉KD　4000×45×105　8本	0.1512	m3			
	破風・鼻隠し	杉GRN　4000×180×24　12本	0.2076	m3			
	小屋筋違	杉GRN　4000×90×15　10本	0.0540	m3			
	仮筋違	杉GRN　4000×90×15　18本	0.0972	m3			
	野地合板	3×6　t12	39.0000	枚			
	”	3×6　t12	8.0000	枚			
	（小計）						

項　目　別　内　訳　書

名　　称		摘　　要	数　量	単位	単　価 (円)	金　額 (円)	備　　考
	【別紙明細3】						
・	建方費						
	建方費	構造材・羽柄材	12.4	坪			
	金物費		12.4	坪			
	ﾎﾟｰﾁ柱脚金物	SUS　装飾	11.0	か所			
	建方ﾚｯｶｰ費	杉KD　3000×30×105　11本	1.0	台			
	現場調整費		1.0	式			
	（小計）						

項　目　別　内　訳　書

項　目					名　称	金　額（円）	摘　要
		A			指定仮設工事		
		B			直接工事費		
					電気設備工事		
					（合計）		
		C			発生材処分費		

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価 (円)	金 額 (円)	備　　考
B							
1	電気設備工事						
	1.電灯分岐		1.0	式			
	2.ｺﾝｾﾝﾄ分岐		1.0	式			
	3.誘導支援設備		1.0	式			
	4.構内配電線路設備		1.0	式			
	5.構内通信線路設備		1.0	式			
	（合計）						

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価 (円)	金 額 (円)	備　　考
B							
1	電気設備工事						
	1.電灯分岐						
	照明器具	A	5.0	台			
	照明器具	B	16.0	台			
	照明器具	C	4.0	台			
	照明器具	D	1.0	台			
	電灯分電盤	L-1	1.0	面			
	人感センサー	親機	3.0	個			
	人感センサー	子機	1.0	個			
	人感センサー	操作ｽｲｯﾁ	3.0	個			
	埋込ｽｲｯﾁ	1P(PL付)	3.0	個			
	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P15A×1　EE付	3.0	個			
	自動点滅器	100V　3A　電子式	1.0	個			
	EM-IE電線	5.5　管内	9.0	m			
	EM-EEFｹｰﾌﾞﾙ	2.0-3C　ころがし	17.0	m			
	EM-EEFｹｰﾌﾞﾙ	2.0-3C　PF管内	5.0	m			
	EM-EEFｹｰﾌﾞﾙ	1.6-2C　ころがし	8.0	m			
	EM-EEFｹｰﾌﾞﾙ	1.6-2C　PF管内	8.0	m			
	EM-EEFｹｰﾌﾞﾙ	1.6-3C　ころがし	45.0	m			
	EM-EEFｹｰﾌﾞﾙ	1.6-3C　PF管内	18.0	m			
	電線管	VE16　露出	2.0	m			
	電線管	VE16　地中	1.0	m			
	電線管	PF16　隠ぺい	9.0	m			
	電線管	PF22　隠ぺい	22.0	m			
	ｱｳﾄﾚｯﾄﾎﾞｯｸｽ	四角中浅	16.0	個			
	ｱｳﾄﾚｯﾄﾎﾞｯｸｽ	四角大浅	3.0	個			
	ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ	5個用	1.0	個			
	接地工事	ED	2.0	箇所			
	接地極埋設標		2.0	枚			
	(小計)						

明　細　書

名　称		摘　要	数 量	単位	単 価 （円）	金 額 （円）	備　考
	2.ｺﾝｾﾝﾄ分岐						
	埋込ｺﾝｾﾝﾄ	2P15A×2　EET付	10.0	個			
	埋込ｺﾝｾﾝﾄ(WP)	2P15A×2　EET付　扉付	1.0	個			
	ﾉｽﾞﾙﾌﾟﾚｰﾄ		3.0	枚			
	EM-EEFｹｰﾌﾞﾙ	2.0-3C　ころがし	51.0	ｍ			
	EM-EEFｹｰﾌﾞﾙ	2.0-3C　PF管内	78.0	ｍ			
	電線管	PF22　隠ぺい	78.0	ｍ			
	ｱｳﾄﾚｯﾄﾎﾞｯｸｽ	四角中浅	17.0	個			
	（小計）						

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価 (円)	金 額 (円)	備　　考
	3.誘導支援設備						
	電源ｱﾀﾞﾌﾟﾀｰ		1.0	個			
	ﾄｲﾚ呼出表示器	1窓　移報接点付	1.0	個			
	呼出ﾎﾞﾀﾝ	引きひも付	1.0	個			
	ﾌﾞｻﾞｰ付廊下灯		1.0	個			
	EM-AEｹｰﾌﾞﾙ	1.2-2C	10.0	m			
	EM-AEｹｰﾌﾞﾙ	1.2-2C　PF管内	8.0	m			
	EM-AEｹｰﾌﾞﾙ	1.2-3C	2.0	m			
	EM-AEｹｰﾌﾞﾙ	1.2-3C　PF管内	5.0	m			
	導入線	PF管内	12.0	m			
	電線管	PF16　隠ぺい	25.0	m			
	ｱｳﾄﾚｯﾄﾎﾞｯｸｽ	四角中浅	3.0	個			
	ｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ	3個用	1.0	個			
	（小計）						

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価 (円)	金 額 (円)	備　　考
	4.構内配電線路						
	EM-CEｹｰﾌﾞﾙ	14-3C　管内	1.0	m			
	電線管	G36　露出塗装	1.0	m			
	ｴﾝﾄﾗﾝｽｷｬｯﾌﾟ	G36	1.0	個			
	（小計）						

七ヶ浜町

明　細　書

	名　称	摘　要	数 量	単位	単 価 (円)	金 額 (円)	備　考
	5.構内通信線路						
	端子盤	T-1	1.0	面			
	EM-IE電線	5.5　管内	5.0	m			
	導入線	管内	1.0	m			
	電線管	VE16　露出	2.0	m			
	電線管	VE16　地中	1.0	m			
	電線管	G22　露出塗装	1.0	m			
	ｴﾝﾄﾗﾝｽｷｬｯﾌﾟ	G22	1.0	個			
	接地工事	Edt	1.0	箇所			
	接地極埋設標		1.0	枚			
	(小計)						
	(合計)						

七ヶ浜町

項　目　別　内　訳　書

項　　目					名　　称	金　　額 （円）	摘　　要
		B			直接工事費		
					機械設備工事		
					（合計）		

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価 (円)	金 額 (円)	備　　考
Ⅰ	機械設備工事						
1	暖房設備		1.0	式			
2	換気設備		1.0	式			
3	衛生器具設備		1.0	式			
4	給水設備		1.0	式			
5	排水設備		1.0	式			
6	屋外		1.0	式			
	(小計)						

七ヶ浜町

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価 (円)	金 額 (円)	備　　考
Ⅰ	屋外便所						
1	暖房設備						
	(1) 機器設備		1.0	式			
	計						
2	換気設備						
	(1) 機器設備		1.0	式			
	計						
3	衛生器具設備						
	(1) 衛生器具設備		1.0	式			
	計						
4	給水設備						
	(1) 給水設備		1.0	式			
	計						
5	排水設備						
	(1) 排水設備		1.0	式			
	計						
6	屋外						
	(1) 給水設備		1.0	式			
	(2) 排水設備		1.0	式			
	計						

明　細　書

名　　称		摘　　要	数 量	単位	単 価 (円)	金 額 (円)	備　　考
1	暖房設備						
	(1) 機器設備						
	EPH-1 パネルヒーター	ステンレス製 壁掛 1.0KW	2.0	台			
	EPH-2 パネルヒーター	ステンレス製 壁掛 0.5KW	1.0	台			
	小計						
2	換気設備						
	(1) 機器設備						
	FC-1 有圧扇	25cm 400CMH	2.0	台			
	FC-2 有圧扇	20cm 200CMH	1.0	台			
	小計						
3	衛生器具設備						
	(1) 衛生器具設備						
	洋風大便器	ロータンク、温水洗浄便座	5.0	組			
	小便器	低リップ、壁掛形	3.0	組			
	洗面器	壁掛、自動水栓	4.0	組			
	洗面器	壁掛、自動水栓	1.0				
	掃除流し	バック付き	1.0				
	化粧鏡	450x600 耐食 盗難防止	4.0				
	化粧鏡	600x800 耐食 盗難防止	1.0				
	表記板		8.0				
	ベビーチェア		1.0	台			
	ベビーシート		1.0	台			
	伸縮式不凍水栓柱	SUS製BOX、桝	1.0	組			
	小計						
4	給水設備						
	(1) 給水設備						
	ポリエチレン管	PP 20A 土中	8.0	m			
	ポリ紛体ライニング鋼管	PB 20A 屋内一般	22.0	m			
	硬質ポリ塩化ビニル管	VP 75 土中	5.0	m			
	保温工事		1.0	式			

七ヶ浜町

明　細　書

	名　　称	摘　　要	数 量	単位	単 価 (円)	金 額 (円)	備　　考
	土工事		1.0	式			
	小計						
5	排水設備						
	汚水						
	硬質ポリ塩化ビニル管	VP 100 土中	4.0	m			
	硬質ポリ塩化ビニル管	VP 75 土中	5.0	m			
	硬質ポリ塩化ビニル管	VP 50 土中	2.0	m			
	硬質ポリ塩化ビニル管	VP 75 屋内一般	5.0	m			
	雑排水						
	硬質ポリ塩化ビニル管	VP 100 土中	7.0	m			
	硬質ポリ塩化ビニル管	VP 50 土中	9.0	m			
	硬質ポリ塩化ビニル管	VP 100 屋内一般	2.0	m			
	硬質ポリ塩化ビニル管	VP 65 屋内一般	2.0	m			
	硬質ポリ塩化ビニル管	VP 40 屋内一般	3.0	m			
	通気						
	硬質ポリ塩化ビニル管	VP 50 屋内一般	1.0	m			
	保温工事		1.0	式			
	床排水トラップ	T5A-50	2.0	個			
	床下掃除口	CO 100	4.0	個			
	通気金物	屋内用 50	4.0	個			
	土工事		1.0	式			
	小計						
6	屋外						
	(1) 給水設備						
	ポリエチレン管	PP 20A 土中	26.0	m			
	硬質ポリ塩化ビニル管	VP 75 土中	1.0	m			
	量水器	20A 貸与	1.0	個			
	量水器桝	20A用 MC-1 450H	1.0	個			
	逆止弁	CV 20A 10K	1.0	個			
	止水栓	GV 20A 10K	1.0	個			
	水抜栓	20A 0.4m	1.0	個			
	水抜栓筐	20A B5-1	1.0	個			

明　細　書

名　　称	摘　　要	数 量	単位	単 価 (円)	金 額 (円)	備　　考
埋設シート	W折り 150幅	26.0	m			
埋設標	RC製	5.0	個			
土工事		1.0	式			
小計						
(2) 排水設備						
硬質ポリ塩化ビニル管	VP 100 土中	7.0	m			
汚水桝 小口径塩ビ桝	100-200 500H 90L 塩ビ蓋	1.0	個			
汚水桝 小口径塩ビ桝	100-200 520H 90Y 塩ビ蓋	1.0	個			
汚水桝 小口径塩ビ桝	100-200 570H 45YS 塩ビ蓋	1.0	個			
汚水桝 小口径塩ビ桝	100-200 580H 90Y 塩ビ蓋	1.0	個			
汚水桝 小口径塩ビ桝	100-200 600H 90Y 塩ビ蓋	1.0	個			
汚水桝 小口径塩ビ桝	100-200 640H 45YS 塩ビ蓋	1.0	個			
汚水桝 小口径塩ビ桝	100-200 680H 45YS 塩ビ蓋	1.0	個			
汚水桝 小口径塩ビ桝	100-200 710H 90Y 塩ビ蓋	1.0	個			
汚水桝 小口径塩ビ桝	100-200 730H 90Y 塩ビ蓋	1.0	個			
汚水桝 小口径塩ビ桝	100-200 830H 45L 塩ビ蓋	1.0	個			
汚水桝 小口径塩ビ桝	100-200 850H 45L 塩ビ蓋	1.0	個			
汚水桝 小口径塩ビ桝	100-200 870-1490H DR 塩ビ蓋	1.0	個			
土工事		1.0	式			
既存桝へ接続		1.0	式			
小計						

代 価 表

名　　称	摘　　要	数 量	単位	単 価 (円)	金 額 (円)	備　　考
(別紙明細-1)						
給水設備						
給水管保温	20A 屋内一般	22.0	m			
小計						
(別紙明細-2)						
給水設備						
土工事	掘削 バックホウ0.13m3	2.0	m3			
土工事	埋戻 バックホウ0.13m3	1.0	m3			
土工事	山砂	1.0	m3			
土工事	残土処理 場内敷き均し	1.0	m3			
バックホウ運搬	バックホウ0.13m3	1.0	往復			
小計						
(別紙明細-3)						
排水設備						
排水管保温	VP 75 屋内一般	5.0	m			
排水管保温	VP 100 屋内一般	2.0	m			
排水管保温	VP 65 屋内一般	2.0	m			
排水管保温	VP 40 屋内一般	3.0	m			
小計						
(別紙明細-4)						
土工事	掘削 バックホウ0.13m3	6.0	m3			
土工事	埋戻 バックホウ0.13m3	4.0	m3			
土工事	山砂	2.0	m3			
土工事	残土処理 場内敷き均し	2.0	m3			
小計						
(別紙明細-5)						
土工事	掘削 バックホウ0.13m3	8.0	m3			
土工事	埋戻 バックホウ0.13m3	6.0	m3			
土工事	山砂	2.0	m3			
土工事	残土処理 場内敷き均し	2.0	m3			
小計						

代 価 表

名　　称	摘　　要	数 量	単位	単 価 (円)	金 額 (円)	備　　考
(別紙明細-6)						
土工事	掘削　バックホウ0.13m3	10.0	m3			
土工事	埋戻　バックホウ0.13m3	7.0	m3			
土工事	山砂	4.0	m3			
土工事	残土処理　場内敷き均し	4.0	m3			
小計						
(別紙明細-7)						
インバード改修	600φ	1.0	箇所			
はつり補修	125φ　150L以下	1.0	箇所			
小計						

七ヶ浜町

現 場 説 明 書

1．工事概要等

本工事は、花渕浜地区に複数設置されていた公衆用トイレを集約再設置するものとなりますが、
併せて周辺集客施設等のイベント参加者の利便に寄与する施設としております。

2．施設概要

本施設は、木造平屋建て約30m2となり、女子便所及び男子便所並びに多目的便所を併設し
既存の商業施設に隣接した緑道（通路部）部分による一体性を確保するものとして計画されています。

3．発注図書概要

工事名　　花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ）建設工事

図面確認

建　築　図	表　　紙 Ａ－01からＡ－13 Ｓ－01からＳ－09	1枚 13枚 9枚	設計図書の仕様については、各項目も含め精査のうえ 積算を実施してください
電気設備図	Ｅ－01からＥ－05	5枚	
機械設備図	Ｍ－01からＭ－04	4枚	

建築概要
①外部及び内部仕上表による
②外部LSD建具は、いたずら防止並びに強度確保のため下部ガイド付きとなります
③外部ルーバーについては、視覚調整機能を持つため割り付け寸法に注意のこと
④犬走りはスタンプコンクリート仕上げとなります 【Ａ－12詳細図】
⑤アンカーボルト割り付注意のこと
⑥内部火打ちは表しとなります
⑦内部天井部は、断熱材充填とし天井材は通気確保のため有効板となります
他詳細は設計図書による

電気設備概要
①建築工事との取り合い調整を十分に行ってください
②人感センサー付き器具等設置位置に注意のこと
③いたずら防止のため、照明器具の取付位置については十分な協議を行うこと
他詳細は設計図書による

機械設備概要
①建築工事との取り合い調整を十分に行ってください
②上下水道接続については、水道事業所、産業課との事前協議を密に行うこと
③給排水配管はライニング部分内にて施工となります
④⑤配水配管は基礎部分にさや管設置となります 【Ｓ－06詳細図】
他詳細は設計図書による

4．その他
①契約後、速やかに着工届等の関連書類の提出を行うこと
②契約後、速やかに担当者との協議を実施し施工計画書等を提出のうえ工事準備を整えること
③契約後、速やかに発注主管課（産業課）の担当窓口者を確認してください
③仮囲いは、強風地域であるため成形鋼板　Ｈ＝2ｍ　にて速やかに施工のこと
④施工計画においては、最大限の工期短縮に努めた計画を作成してください

花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ）建設工事

設 計 図

図面番号	意　匠　図	図面番号	構　造　図	図面番号	電　気　設　備　図	図面番号	機　械　設　備　図
Ａ　－　０１	特記仕様書（１）	Ｓ　－　０１	木造（軸組工法）特記仕様書（１）	Ｅ　－　０１	電気設備工事特記仕様書	Ｍ　－　０１	機械設備工事特記仕様書
Ａ　－　０２	特記仕様書（２）	Ｓ　－　０２	木造（軸組工法）特記仕様書（２）	Ｅ　－　０２	盤結線図・照明器具姿図	Ｍ　－　０２	機器表・器具表・桝表
Ａ　－　０３	特記仕様書（３）	Ｓ　－　０３	木造（軸組工法）特記仕様書（３）	Ｅ　－　０３	電灯設備図	Ｍ　－　０３	給排水衛生設備　配置図
Ａ　－　０４	特記仕様書（４）	Ｓ　－　０４	木造（軸組工法）特記仕様書（４）	Ｅ　－　０４	コンセント設備図	Ｍ　－　０４	換気・給排水衛生設備　平面詳細図
Ａ　－　０５	案内図、配置図、敷地求積図	Ｓ　－　０５	木造（軸組工法）特記仕様書（５）	Ｅ　－　０５	誘導支援設備図		
Ａ　－　０６	外部・内部仕上表、面積求積図・求積表	Ｓ　－　０６	基礎伏図、基礎詳細図、土台伏図、小屋伏図				
Ａ　－　０７	平面詳細図兼建具キープラン、建具表	Ｓ　－　０７	母屋伏図、軸組図				
Ａ　－　０８	屋根伏図、天井伏図	Ｓ　－　０８	壁量計算図(1)				
Ａ　－　０９	立面図	Ｓ　－　０９	壁量計算図(2)				
Ａ　－　１０	矩計図						
Ａ　－　１１	展開図						
Ａ　－　１２	雑詳細図						
Ａ　－　１３	ＬＳＤ（外部用）詳細図【参考図】						

七 ヶ 浜 町

特　記　仕　様　書

Ⅰ　工　事　概　要

1　工事番号・名称　　花渕浜地区被災施設復旧整備事業(公衆用トイレ)　新築工事
2　工　事　場　所　　七ヶ浜町花渕浜字舘下75-19, 75-23, 75-25, 75-85, 75-56, 75-12の各一部
3　用途地域等
　都市計画区域（⊙　内　・　外）　用途地域（市街化調整区域）
　防火地域等（・　防火　・　準防火　・　指定なし　⊙　２２条　）
　その他の地域・地区（景観条例：名勝松島第2種保護地区）
4　主　要　用　途　　公衆用便所
5　敷　地　面　積　　599.24㎡
6　工 事 の 概 要

建物	構造	規模	建築面積(㎡)	延床面積(㎡)
公衆用便所(新築)	木造	平屋	40.99	27.32

7　別 途 工 事

8　そ　の　他
　工事完了後、周囲2m程度整地し周囲の整地面とすりつけをする事。

9　特記仕様書の範囲
　特記仕様書は、本特記仕様書のほか以下の○印もで構成する。
　・　構造特記仕様書　　・　外構工事特記仕様書　　・　植栽工事特記仕様書
　・　解体工事特記仕様書　　⊙　電気設備工事特記仕様書　　⊙　機械設備工事特記仕様書
　⊙　木工事特記仕様書

Ⅱ　建　築　工　事　仕　様

1．共通仕様
　図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書(平成28年版)［平成28年6月改定］」（以下、「標準仕様書」という。）による。ただし，標準仕様書に記載されていない事項は，「公共建築改修工事標準仕様書（平成25年版）［平成26年3月改定］」（以下「改修標準仕様書」という。）及び「建築物解体工事共通仕様書（平成24年版）」(以下「解体共通仕様書」という。）による。
　なお、施工条件明示書は、特記仕様書に含める。
2．特記仕様
　1）項目は、番号に○印のついたものを適用する。
　2）特記事項は、⊙印のついたものを適用する。⊙印のつかない場合は※印のついたものを適用する。⊙印と※印のついた場合は、共に適用する。
　3）特記事項に記載の（　）、＜　＞及び［　］内の表示番号は、それぞれ「標準仕様書」、「改修標準仕様書」及び「解体共通仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章	項　目	特　記　事　項
一般事項	①．一般事項	⊙　工事施工中に予期せぬ事態や疑義が生じた場合は、監督職員に報告の上，指示に従うこと。 ⊙　請負業者は、監督職員と随時打合せを行い、工程の確認・調整及び工事の円滑な進捗をはかること。 ⊙　施工体系図を現場に掲示すること。 ・　工事着手前及び完成時に，以下に示す調査範囲の近隣家屋等の内外の状況（地盤，擁壁，内外壁，床，建具等）を調査・記録し，報告書を監督職員に提出すること。 調査範囲　　※　敷地に接している隣地・道路・公園
一般事項	②．適用基準等	⊙　建設工事執行規則(昭和39年3月宮城県規則第9号) ⊙　宮城県建設工事元請・下請関係適正化要綱（平成25年9月1日施行） ⊙　建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　平成22年版） ⊙　宮城県建築ﾃﾞ事写真撮影要領（宮城県土木部制定 平成12年版）及び工事写真の撮り方<建築編> 第２編 工事写真の撮り方（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修） ・　建築構造設計基準（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 平成25年版）
共通事項	3．概成工期	工事工期より　　日前　(1.2.1)
	④．工事実績情報(CORINS)の登録	※　適用する（請負積算額が500万円以上の場合）　(1.1.4) 受注時、変更時及び工事完成時にあらかじめ監督職員の確認を受け、契約締結後及び工事完成後の10日以内に登録手続きを行い、工事カルテの受領書を、監督職員に提出すること。 ・　適用しない
	5．発生材の処理等	発生材の処理　(1.3.8) ・引渡しを要するもの（　　） ・特別管理産業廃棄物（　　） 受入れ施設名・所在地(km) ・再生資源化を図るもの 種　類 ／ 受入施設名 ／ 所在地(Km) ／ 備考 ・　セメントコンクリート塊 ・　アスファルトコンクリート塊 ・　建設発生木材 ・　建設汚泥 ・現場において再利用を図るもの（　　） ・その他の廃棄物（安定型)(　　) 受入れ施設名・所在地(km) ・その他の廃棄物（管理型)(　　) 受入れ施設名・所在地(km) 上記の処理、処分は設計積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。なお、上記によらない場合は、監督職員と協議すること。 また、処理、処分に先立ち処分場等の受入の可否を確認すること。
	⑥　電気保安技術者	・　適用する　　※　適用しない　(1.3.3)

1 一般共通事項

⑦．事故報告　(1.3.10)
　工事の施工中に事故が発生した場合は，直ちに監督職員に通報するとともに，別に指示する「事故報告書」を指示する期日までに監督職員に提出する。

⑧．建築材料等　(1.4.2)
　本工事に使用する材料は，設計図書に定める品質及び性能を有するものとし，その材料にJIS又はJASのマークの表示のある場合を除いて監督職員の承諾を受ける。
　特定のものが特記された場合は，設計図書に規定するもの又は，これらと同等のものとする。ただし，同等のものとする場合は，監督職員の承諾を受ける。

環境への配慮　(1.4.1)
　本工事に使用する材料の選定及び施工に当たっては，「県有施設のシックハウスマニュアル」に留意し，揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。

ホルムアルデヒド仕様
　使用する材料のホルムアルデヒド放散量は、次のとおりとする。
　ホルムアルデヒド放散量　規制対象外　の場合の該当する建築材料
　　1）ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆☆品
　　2）建築基準法施行令第２０条の７第４項による国土交通大臣認定品
　　3）次の表示のあるＪＡＳ適合品
　　ａ．非ホルムアルデヒド系接着剤使用
　　ｂ．接着剤等不使用
　　ｃ．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用
　　ｄ．ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用
　　ｅ．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用

9．室内の空気中の化学物質濃度の測定
※　ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の測定　(1.5.9)
　試料採取及び測定は，厚生労働省の「室内空気中化学物質の採取方法と測定方法」の新築住宅の例に準拠するほか，拡散方式ではサンプラー製造所の定める仕様により行う。

測定対象物質　※ ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ（濃度指針値　100μg/m3　・　0.08ppm）
　※ ｽﾁﾚﾝ（濃度指針値　220μg/m3　・　0.05ppm）
　※ ﾄﾙｴﾝ（濃度指針値　260μg/m3　・　0.07ppm）
　※ ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ（濃度指針値 3,800μg/m3　・　0.88ppm）
　※ ｷｼﾚﾝ（濃度指針値　870μg/m3　・　0.20ppm）

測定する室等：（　　）
採取方法：吸引方式又は拡散方式とし，拡散方式では８時間採取する。

測定結果等報告書の提出
　次の事項を記載した報告書を２部提出する。
　ａ測定結果
　ｂ試料採取時の状況（気温・湿度（室外・室内），天候，風の状況，日射進入状況，測定年月日・時間，窓の開閉状況，機械換気量，工事完成時から測定日までの日数）
　ｃ試料採取方法，測定方法，使用した測定機器

測定対象物質が指針値を超える濃度で検出された場合は，引渡は受けない。

・　総揮発性有機化合物の測定
　測定方法，測定物質及び測定か所等については，この仕様書の末尾に定める総揮発性有機化合物測定仕様書による。

※　室内ＶＯＣ濃度の測定結果に関する書面の当該施設への掲示については，施設管理者に依頼する。

10．特別な材料の工法
「標準仕様書」及び「改修標準仕様書」に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法とする。

11．建築基準法による風圧力等の指定

(8.4.3)(8.5.3)(13.2.3)(13.3.3)(13.4.3)(14.7.3)(16.11～13.2)(16.14.5) 適用工事		建築基準法の指定	
⊙　長尺金属板葺	・　折板葺	風速(V0)　※３０	
・　粘土瓦葺	・　アルミニウム笠木	地表面粗度区分	・Ⅱ　⊙Ⅲ
・　カラスブロック	・　ＡＬＣ外壁パネル	多雪地域の指定	・有　⊙無
・　押出成形セメント板外壁パネル			
・　重量シャッター	・　軽量シャッター		
・　オーバーヘッドドア			

12．設計G.L.
※　図　示　　・　現状平均地盤高
※　但し再度ﾚﾍﾞﾙ調査を行い、設計図と比較精査の上承認後ＧＬを決定する事　(1.5.2)
・　下表で技能士を適用することとした職種に、１級又は単一級技能士を配置する。
※　下表で技能士を適用することとした職種に、１級、２級又は単一級技能士を配置する。
・　下表で技能士を適用しないとした職種でも、技能士の配置に努めること。

13．技　能　士

工事種目	技能検定職種（技能検定作業）
以下の該当工事	・該当する作業がある以下の職種（作業）の全て
仮設工事	・とび（とび作業）
鉄筋工事	⊙鉄筋施工（鉄筋組立作業）
コンクリート工事	⊙型枠施工（型枠工事作業）
	⊙コンクリート圧送施工（コンクリート圧送工事作業）
鉄骨工事	・鉄工（構造物鉄工作業）
	・とび（とび作業）
ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ・乾式ﾊﾟﾈﾙ・押出成形セメント板工事	・ブロック建築（コンクリートブロック工事作業）
	・ＡＬＣパネル施工（ＡＬＣパネル工事作業）
防水工事	・防水施工（・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ﾋﾞﾆﾙ系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング防水工事作業 ・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄﾄｰﾁ防水工事作業 ・ＦＲＰ防水工事作業　　）
石Ｔ事	・石材施Ｔ（石張り作業）
タイル工事	⊙タイル張り（タイル張り作業）
木工事	⊙建築大工（大工工事作業）
屋根及びとい工事	⊙建築板金（内外装板金作業）
	・スレート施工（スレート工事作業）
金属工事	⊙内装仕上施工（鋼製下地工事作業）
	・建築板金（内外装板金作業）
左官工事	⊙左官（左官作業）
建具工事	・サッシ施工（ビル用サッシ施工作業）
	・ガラス施工（ガラス工事作業）
	・自動ドア施工（自動ドア施工作業）
ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事	・カーテンウォール施工（金属製ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事作業）
	・サッシ施工（ビル用サッシ施工作業）
	・ガラス施工（ガラス工事作業）
塗装工事	・塗装（建築塗装作業）
内装工事	⊙内装仕上施工（・プラスチック系床仕上工事作業 ・カーペット系床仕上作業 ・ボード仕上工事作業　　）
	・表装（壁装作業）
排水工事	⊙配管（建築配管作業）
舗装工事	・路面表示施工（・溶融ﾍﾟｲﾝﾄﾊﾝﾄﾞﾏｰｶｰ工事作業 ・加熱ﾍﾟｲﾝﾄﾏｼﾝﾏｰｶｰ作業　　）
植栽工事	・造園（造園工事作業）

⑭．完成図等
　営繕工事完成引渡要領（平成13年4月1日宮城県土木部営繕課・設備室策定）により作成する。
※　完成原図　　０部
※　マイクロフィルム（県指定様式）　　０部
※　白焼２つ折製本　　３部
※　白焼Ａ４版折製本（黒表紙金文字入）　　１部
※　白焼縮小（Ａ３版）２つ折製本　　２部
※　完成図面電子データJWW形式又はDXF形式若しくはTIFF形式（解像度300DPI程度）　CD1枚

⑮．完成写真
※　作成する　　・　作成しない
　宮城県建築工事写真撮影要領により，完成届に添付する完成写真とは別に次のものを原版（ネガ又は電子媒体）とともに監督職員に提出する。
　なお，原版を電子媒体とする場合は，CD等で提出すること。

分　類	サイズ	撮影箇所数	部　数	提出様式
※カラー ・白黒	※Ｌ ・２Ｌ ・六切り	※完成写真 各室　１枚 外部4面以上　１枚	※１部 ・　部	※工事用アルバムA4版 ポケット式程度 ・フリーアルバム （台紙寸法323×270程度）

⑯．設備工事との取合い
施工範囲　各工事の区分表による。
施 工 図　設備機器の位置，取り合い等が検討できる施工図を提出して監督職員の承諾を受ける。

⑰．火災保険等
工事目的物及び工事材料等について，次により保険に付す。
　保険の種類　※　火災保険　　※　建設工事保険
　保険期間　　※　工事着手から工事目的物引き渡しまで

18．住宅瑕疵担保責任
住宅瑕疵担保履行法に基づく保険の加入又は保証金の供託の義務付け
・あり（新築住宅の場合）　　・なし（新築住宅以外の場合）

2 仮設工事

①．仮囲い
※　設ける　　・　設けない
　仮囲いの位置及び延長は図示による。

②．危害防止
※　シート張り　　・　金網養生

③．交通誘導員
⊙　配置する（4日　×　1人　＝　4人日）　　※　配置しない

4．監督職員事務所
※　設けない（請負者事務所に打合せ会議室を確保する）
・　設ける（規模　　㎡程度　請負者事務所と同棟　・可　・否）
　備品（　　）

⑤．工事表示板
※　設置する（設置枚数　１枚）　　・　設置しない
　営繕工事における工事及びコスト表示要領（平成１４年２月６日宮城県土木部営繕課・設備室制定）による。

6．事業コスト表示板
・　設置する（設置枚数　　※　１枚　・　枚）　※　設置しない
　営繕工事における工事及びコスト表示要領（平成１４年２月６日宮城県土木部営繕課・設備室制定）による。

⑦．工事用水　構内既存の施設　・　利用できる（※有償　・無償）　※　利用できない

⑧．工事用電力　構内既存の施設　・　利用できる（※有償　・無償）　※　利用できない

⑨．工事用通路
※　指定しない　　・　指定する（図示）

⑩．足場等
・図面に記入　(2.2.4)
　足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成21年4月策定）」によるものとし、設置については「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」及び「働きやすい安心感のある足場に関する基準」によること。

11．その他の仮設

3 土工事

①．埋戻し及び盛土の種別　種別　・Ａ種　⊙B種　・Ｃ種　・Ｄ種　(3.2.3)(表3.2.1)
　Ｃ種の場合　建設発生土受入数量　　㎥
　発生場所

②．建設発生土の処理
・　構外に搬出し適切に処理する。　(3.2.5)
⊙　構外指示の場所に搬出する。
　受入れ施設名・所在地（km）　5km
・　構内指示の場所に敷きならす。
・　構内指示の場所にたい積する。

3．山　留　め
・　設置する　　・設置しない　(3.3.1)
・　存置する　　・存置しない　(3.3.3)

4 地業工事

1．既製コンクリート杭・鋼杭地業
杭の種類　(4.3.2)(4.4.2)
・　プレストレストコンクリート杭（JIS表示承認製品）
　・Ａ種　　・Ｂ種　　・Ｃ種

(4.3.2)

	記号	杭径（mm）	長さ(m)及び種別	設計支持力	セット数	備　考
試験杭	⊗					
本　杭	○					

継　手　※　アーク溶接継手又は建築基準法の規定に基づき認定された無溶接継手　(4.3.6)(4.4.5)

先端部形状　・閉塞平坦型　・開放型　(4.3.2)(4.4.2)(表4.4.2)(図4.4.1)

杭の施工法
・　掘削打撃併用工法　　プレボーリングの掘削深さ　(4.3.3)(4.4.3)
　杭先端予定レベルの上方　　mのレベルまで
　オーガー径　　杭径－５０mm程度
・　セメントミルク工法　(4.4.3)(4.4.3)
・　特定埋込杭工法　(4.3.5)(4.4.4)
　（旧建築基準法第３８条の規定に基づき認定された工法）

杭打機の種類
　ハンマーの種別　※　油圧パイルハンマー　　・　ドロップハンマー
　パイルドライバー　※　三点支持式クローラークレーン

騒音・振動の測定　・　行う　　※　行わない

2．場所打ちコンクリート杭地業
コンクリートの種別　・　Ａ種　　・　Ｂ種　(4.5.3)(表4.5.1)
掘削工法　・　アースドリル工法　※　安定液使用　(4.5.4)
　・　リバース工法
　・　オールケーシング工法
　孔内の水張り　　※　行う　・　行わない

3．地盤改良
工　法（・　柱状改良　　）
　※構造特記仕様書による

④．床下防湿層　(4.6.5)
※　設ける　ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ厚0.15mm重ね幅縦横とも250mm以上とし、地中梁がある場合は、250mmのみ込みとする。
・　設けない

5．土間スラブ（土間コン）下断熱材
※　設ける　　Ａ種ポリスチレンフォーム３種b　厚25mm敷き込み（玄関）
・　設けない

⑥．砂利地業　※　再生クラッシャラン　・　（　　）(4.6.2～3)

5 鉄筋工事

①．鉄筋の種別　(5.2.1)(表5.2.1)

規格名称	種類の記号	径（mm）
鉄筋コンクリート用棒鋼	※　ＳＤ２９５Ａ	※　Ｄ１６以下
	※　ＳＤ３４５	※　Ｄ１９以上

2．溶接金網
※　JIS G 3551のJIS表示認証製品　(5.2.2)
　線径(mm)　6.0　×　網目(mm)　100
　使用箇所（　外構ｺﾝｸﾘｰﾄ平板舗装　　）

③．鉄筋の継手　(5.3.4)

接合方法	径(mm)	施工箇所
※　重ね継手	Ｄ１６以下	
※　ガス圧接	Ｄ１９以上	はり　柱の主筋

4．耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ　(5.3.5)

施工箇所等	表5.3.6の値に加える寸法(mm)

⑤．各部配筋
　各部の配筋は，図示、S02-S04の順による。図示がなければ，標準仕様書 末尾 資料の「各部配筋　参考図」による。　(5.3.7)

6．柱の帯筋　※　Ｈ形　・　Ｗ－Ｉ形　・Ｓ形　(参考図 図2.2)

7．耐震壁を除く壁の開口部補強
・　Ａ形　※　Ｂ形　(参考図 表4.3～4.4)

⑧．はり貫通孔の補強　補強形式　※Ｈ３形以上　・Ｍ型　・ＭＨ型　(参考図 表7.1～7.3)

9．圧接完了後の抜取試験　試験方法　※　超音波探傷試験　・　引張り試験　(5.4.9)

6 コンクリート工事

①．レディーミクスコンクリート
種　別　※　Ⅰ類　・　Ⅱ類　(6.2.1)(表6.2.1)
・コンクリート用骨材の品質試験を実施する。(構造体コンクリートのみ)
　(アルカリシリカ反応試験(化学法)、密度試験、吸水率試験)
・コンクリート単位水量測定を実施する。
※構造特記仕様書による

②．設計基準強度
普通コンクリート（JIS A5308のJIS表示認証製品）　(6.2.2)

Ｆｃ（N/mm2）	適用箇所
⊙　２４	基礎構造躯体、外構工事(土間ｽﾗﾌﾞ)
⊙　１８	捨てｺﾝ

③．スランプ
基礎耐圧盤，土間スラブ　⊙　１５cm　・　１８cm　(6.2.4)(表6.2.2)
基礎梁　⊙　１８cm

④．打放し仕上げの種類　(6.2.5)(表6.2.4)

種別	施工箇所
⊙　Ａ　種	基礎巾木、外構
※　Ｂ　種	
・　Ｃ　種	

⑤．セメントの種類　※　普通ポルトランドセメント又は混合セメントのＡ種　(6.3.1)

工事名	花渕浜地区被災施設復旧整備事業(公衆用トイレ)　建設工事		図面番号
図面名	特記仕様書(1)	縮尺　A2：NS	A－01

6 コンクリート工事

⑥. 型枠 (6.8.3)

せき板の種類	板厚(mm)	適用箇所	備考
※ 合板	※ １２ ・	木造基礎	・宮城県グリーン製品
・ 床型枠用鋼製デッキプレート			
・ 断熱材兼用型枠			

ＭＣＲ工法用シート　※　適用しない　・　適用する

・ ひび割れ誘発目地 (6.8.2)
目地寸法　※　図示　玄関ﾎﾟｰﾁ・渡り廊下
位　置　※　図示

7. 軽量コンクリート (6.10.1)(表6.10.1)

種別	適用箇所	所要気乾単位容積質量（ｔ／m3）

8. 寒中コンクリート (6.11.2～4)

初期養生期間　コンクリート圧縮強度が５N/mm２に達するまで行うこと。

9. 無筋コンクリート

適用箇所は(6.14.1)による他、下記による。 (6.14.1)

適用範囲

10. 流動化コンクリート (6.15.1)(6.15.3)

種別	ベースコンクリートのスランプ(cm)	流動化コンクリートのスランプ(cm)	使用箇所
普通コンクリート	・１０ ・１２ ・１５	・１８ ・２１	

7 鉄骨工事

1. 鉄骨の製作工場 (7.1.3)

※　指定性能評価機関の性能評価を受けて、国土交通大臣の認定を受けた下記のグレード以上の工場
・ Ｓ　・ Ｈ　・ Ｍ　・ Ｒ　・ Ｊ

・ 本物件と同等規模構造の施工実績を有している工場で、監督職員の承諾する工場

2. 施工管理技術者

※　適用する　・　適用しない (7.1.3)

3. 鋼材の種別 (7.2.1)(表7.2.1)

材質	規格
・SS400　・SSC400　・STK400　・STKR400	JIS表示認証製品
・SN400B,C　・SN490B,C　・SM400　・SM490	

4. 高力ボルト (7.2.2)

※　トルシア形高力ボルト　セットの種類　※　２種(S10T)　・
・　ＪＩＳ形高力ボルト　セットの種類　※　２種(F10T)　・
・　溶融亜鉛めっき高力ボルト　セットの種類　※１種(F8T相当)　・

5. 溶接部の試験

完全溶込溶接部の試験は超音波探傷試験とし、下表による。 (7.6.11)

溶接の区分	AOQL(%)	検査水準	備考
工場溶接	・2.5　※4.0	※６　・	
現場溶接			

6. 錆止め塗装

※　適用する (7.8.3)(7.8.4)(表18.3.1)(表18.3.2)
（標準仕様書18章3節による）
・　適用しない

7. 耐火被覆 (7.9.2)(7.9.4～7)

種別	材料及び工法製造所	備考
・ラス張モルタル	標準仕様書15章2節による	
・耐火材吹付け	建築基準法に基づき定められたもの又は認定を受けたもの	※半乾式　・湿式
・耐火板張り		
・耐火材巻付け		

8. アンカーボルトの保持及び埋込み工法 (7.2.4)(7.10.3)(表7.10.1)

種別	適用箇所
・ Ａ 種	
※ Ｂ 種	柱部
・ Ｃ 種	

9. 柱底均しモルタル (7.2.9)(7.10.3)(表7.10.2)

種別	適用箇所	柱底均しモルタル
※ Ａ 種	柱脚部	※無収縮モルタル
・ Ｂ 種		※無収縮モルタル

10. 溶融亜鉛めっき (7.12.3)(14.2.3)

亜鉛めっき	適用箇所
※ Ａ 種	渡り廊下鉄骨部、ルーバー支持材

8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成型セメント板工事

1. 補強コンクリートブロック造

ブロックの種類 (8.2.2)
※　空洞ブロック　１６　・

2. コンクリートブロック帳壁及び塀

ブロックの種類 (8.3.2)(表8.3.1)
※　空洞ブロック　１６（ただし、設備配管用裏積等は空洞ブロック　０８とすることができる）

3. ＡＬＣパネル (8.4.2)(8.4.3～5)

工法	パネル種類	厚さ	幅	取付工法種別	施工箇所	耐火性能(時間)
・外壁パネル工法				・Ａ種 ・Ｂ種		・ １
・間仕切壁パネル工法				・Ｃ種 ・Ｄ種 ・Ｅ種		・ １
・屋根及び床パネル工法				※Ｆ種		屋根 ・ 0.5 床 ・１ ・２

4. 押出成形セメント板 (8.5.2～4)(表8.5.1)(表8.5.2)

工法	パネル種類	厚さ	幅	取付工法種別	施工箇所	耐火性能
・外壁パネル工法				・Ａ種 ・Ｂ種		建築基準法施行令第107条の規定に基づく技術基準
・間仕切壁パネル工法				・Ｂ種 ・Ｃ種		

9 防水工事

1. アスファルト防水 (9.2.2)(9.2.3)(表9.2.3～9)

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・ Ａ－		・ ＡＩ－	
・ Ｂ－		・ ＢＩ－	
・ Ｄ－		・ ＤＩ－	
・ Ｅ－１	屋内(便所・浴室)		

アスファルトの種類　JIS K2207のJIS表示認証製品　※　３種
・　押さえ金物　(※アルミ製Ｌ－30×15×2.0　・　)
・　断熱材　※　Ａ種押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温板３種ｂ(スキンあり)
・　脱気装置　(種類・数量：ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ製装造所の指定とする)
・　溶接金網　(規格　)
・　伸縮調整目地　(※成形伸縮目地　・　) (表9.2.1)

2. 改質アスファルトシート防水 (9.3.2)(9.3.3)(表9.3.1～3)

種別	施工箇所	シートの厚さ
・ AS－T		
・ AS－J		(表9.3.1～3)による
・ ASI－T		
・ ASI－J		

改質アスファルトシートの種類　JIS A6013のJIS表示認証製品
・　押さえ金物　(材質及び形状：　)
・　断熱材　※　Ａ種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温板２種１号又は２号(透湿係数を除く規格に適合するもの)
・　脱気装置　(種類・数量：改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄ製造所の指定とする)

3. 合成高分子系ルーフィングシート防水 (9.4.2)(9.4.3)(表9.4.1)

種別	厚さ (mm)	施工箇所	保護塗料(露出)
・Ｓ－Ｆ１	※1.2		※カラー　・シルバー
・Ｓ－Ｆ２	※2.0		
・Ｓ－Ｍ１	※1.5		※カラー　・シルバー
・Ｓ－Ｍ２	※1.5		
・Ｓ－Ｍ３	※1.2		

ルーフィングシートの種類　JIS A6008のJIS表示認証製品
・　脱気装置　(材質：　数量：　)
・　絶縁シート　(※発泡ポリエチレンシート　)
・　その他の材料（　）

4. 塗膜防水 (9.5.3)(表9.5.1)(表9.5.2)

	種別	施工箇所	保護塗料(露出)
・ウレタンゴム系	・Ｘ－１	バルコニー	※カラー　・シルバー
	・Ｘ－２	ひさし	※カラー　・シルバー
・ゴムアスファルト系	・Ｙ－１	地下外壁	
	・Ｙ－２	室内（便所・浴室）	

・　脱気装置（材質：ステンレス製又はアルミ製　・　）
（設置数量：　箇所）

5. ケイ酸質系塗布防水 (9.6.2)(9.6.3)(表9.6.2)

種別	施工箇所
※Ｃ－ＵＩ ・Ｃ－ＵＰ	(表9.6.1)による

⑥. シーリング

※　被着体との組み合わせは（表9.7.1）による。 (9.7.2)

7. 防水保証

アスファルト防水、改質アスファルトシート防水及び合成高分子系ルーフィングシート防水の保証期間は、引渡し日より１０年間とし、メーカー・施工業者との連名の上、保証書を提出する。
塗膜防水及びケイ酸質系塗布防水については、メーカー・施工業者が通常定めている期間とし、保証書を作成し提出する。

10 石工事

1. 石材 (10.2.1)(表10.1.1)(表10.2.1)(表10.2.2)

石材の種類	品質	施工箇所	工法	産地・名称	仕上の種類

2. 清掃

床のワックスかけ　・　行う　・行わない (10.1.5)

11 タイル工事

①. 陶磁器質タイルの品質 (11.2.2)(11.3.2)(11.4.2)

施工箇所	形状寸法(mm)	うわ薬 無釉	うわ薬 施釉	役物 あり	役物 なし	色 標準	色 注文
巾木	300×300	○			○	○	

タイルの見本焼き　※　行わない　・　行う
タイルの試験張り　※　行わない　・　行う

2. タイル下地コンクリート

あと張りエ法の下地コンクリート素地面の処理 (11.2.7)(11.3.7)
・　行う（下記のいずれかとする）　・　行わない

素地表面処理の工法	下地モルタル	適用箇所
ＭＣＲ工法	(15.2.5(c)) による	
ＭＣＲ工法	ポリマーセメントモルタル	
目荒し工法（高圧水洗）	(15.2.5(c)) による	
目荒し工法（高圧水洗）	ポリマーセメントモルタル	

ＭＣＲ工法はせき板面にＭＣＲ工法用シート張りとし(6.8.3(e))による。
目荒し工法の高圧水洗は(15.2.4(c))による。
ポリマーセメントモルタルの調合は(15.2.3(d))による。

③ セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り

内装タイルの工法 (11.2.7)(表11.2.3)
※　改良積上げ張り　施工箇所（　）
外装タイルの工法
※　密着張り　施工箇所（　）
・　改良圧着張り　施Ｔ箇所（　）
ユニットタイルの工法
※　マスク張り

4. 接着剤による陶磁器質タイル張り

内装タイルの工法 (11.3.7)(表11.3.2)
・　接着剤張り　施工箇所（　）
接着剤はJIS A 5548のJIS表示認証製品 (11.3.3)

5. 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

※　(表11.1.1)による　・図示 (11.1.3)

6. 接着力試験

※　(表11.1.2)による (11.1.5)

12 木工事

①. 木材

表面仕上げの程度　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種 (12.1.4)(表12.1.1)
含水率　下地材　※　Ａ種　・　Ｂ種 (12.2.1)(表12.2.1)
造作材　※　Ａ種　・　Ｂ種
造作材の材面の品質　※　Ａ種　・　Ｂ種 (12.2.1)(表12.2.2)
代用樹種を使用しない箇所 (12.2.1)(表12.2.3)
※　なし　・　あり（　）

②. 造作用集成材

造作用集成材12.2.1.(c)による (12.2.1)

見付け材面等級	ＪＡＳによる集成材	その他
	※　１等　・　２等	※　ＪＡＳ集成材１等同等
単材の樹種		
単材の厚さ(mm)	１０～１５	１０～１５

3. 床張り用合板等

床下貼り用合板 (12.2.1)
※　JASの構造用合板　特類　２等以上　C－D以上
・（　）

④. 防腐・防蟻・防虫処理

薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理 (12.3.1)
適用部位（建築基準法施行令第49条2項の範囲）
保存処理性能区分　⊙Ｋ２　・Ｋ３　・Ｋ４
薬剤の加圧注入処理を行ったのち、現場における加工、切断、孔あけ等を行った箇所は、現場にて薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理を行う。 (12.3.2)
防虫処理
ラワン材　保存処理性能区分　※Ｋ１

13 屋根及びといい工事

①. 長尺金属板葺 (13.2.2)(表13.2.1)

材種	規格	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
・カラー亜鉛鉄板（※片面塗装　・両面塗装）	JIS G 3312	※0.4		
・ガルバリウム鋼板（※無塗装）	JIS G 3321	※0.4		AL55%
※カラーガルバリウム鋼板（※カラー　フッ素）	JIS G 3322	※0.45	※立平葺(嵌合式) 裏貼t-2.0	AL55%

※監督員の承諾する業者とする。

2. 折板葺

JIS A 6514のJIS表示認証製品 (13.3.2)

材種	規格	厚さ	山高及びピッチの区分	断熱材	耐火性能
・カラー亜鉛鉄板（屋根用規格品）	JIS G 3312	※0.6	・ 0920	・有	・有
・カラーガルバリウム鋼板（屋根用規格品）	JIS G 3322		・ 1525	(mm) ・無	(30分耐火) ・無
・ポリ塩化ビニル被覆（SGのA種規格品）	JIS K 6744		・ 1730		

・形　式　（・　重ね形　・　はぜ締め形）
・軒先面戸　（ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板　）

3. 粘土瓦葺

JIS A 5208の表示認証製品 (13.4.2)

種類	大きさ	産地	役物瓦の種類	耐凍害性資料
				・ 提出する ・ 提出しない

④. といい

といの材質 (13.5.2)(13.5.3)(表13.5.1)(表13.5.3)(表13.5.4)

材種	防露
・配管用鋼管（ＳＧＰ）	※　(表13.5.4) により行う　・　行わない
⊙仕上げ表による	

鋼管製といの防露巻き工法
※　(表13.5.5)による

・　樋受石（材質・規格　）
※　第一桝まで接続

5. ルーフドレン

※　鋳鉄製 (表13.5.2)
※　縦型　・　横型

14 金属工事

1. あと施工アンカー

引抜き耐力の確認試験　・　行う　※　行わない (14.1.3)

②. ステンレス表面処理

※　ＨＬ　・　NO.2B (14.2.1)

3. アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 (14.2.2)(表14.2.1)

種類	施工箇所	色合
・　－　種		
・　－　種		

4. 鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.3)(表14.2.2)

種類	施工箇所
・　種	
・　種	

溶融亜鉛めっきの付着量試験　※　行わない　・　行う
電気亜鉛めっきの被膜厚さ及び塩水噴霧試験　※　行わない　・　行う

5. 軽量鉄骨天井下地

野縁などの種類 (14.4.2)(表14.4.1)
屋内　※　１９型　・　２５型（室名：　）
屋外　・　１９型　※　２５型

耐震性を考慮した補強 (14.4.3)(14.4.4)
※　行わない　・　行う（下屋部）

耐風圧性を考慮した補強（ピロティ、屋外軒天井等）
※　行わない　・　行う（補強方法と補強箇所は図示による）

床版の断熱材打込部分は断熱用インサートを使用する。

⑥. 軽量鉄骨壁下地(ﾗｲﾆﾝｸﾞ部) (14.5.3)(表14.5.1)

スタッド、ランナーなどの種類は、(表14.5.1)による。

7. 金属成形板張り

種　別（　ｱﾙﾐ製角波　） (14.6.2)(14.6.3)
表面処理　（木目調　）
※　割付図を作成し監督職員の承諾を受ける。
伸縮調整継手　・　設ける　・　設けない

8. アルミニウム製笠木

表面処理　※　B-1種　・　B-2種 (14.7.2)(表14.7.1)
隅角部及び突当り部の役物の使用
※　使用する（笠木本体製作所の仕様による。）

⑨. 手すり (14.8.2)(14.8.3)

	材料の種別	表面処理の種別
手すり	⊙ 図面による	樹脂被覆
タラップ	ステンレスSUS304	外部HL仕上程度，内部No.2B仕上程度

10. 体育館の鋼製床下地材

※　JIS A 6519のJIS表示認証製品

15 左官工事

①. モルタル塗り

既製目地材　・　設ける（施工箇所：　形状：図示による） (15.2.2)
⊙ 設けない
床目地　・　設ける（押し目地工法）　・設けない (15.2.5)

2. セルフレベリング材

種別　・　石こう系　・　セメント系 (15.4.2)(表15.4.1)
塗厚　※　玄関土間部

③. 仕上げ塗材仕上げ

※仕上げ表による (15.5.2)(表15.5.1～2)

規格名称	種類(呼び名)	仕上の形状	工法	上塗り材
・薄付け仕上げ塗材	・外装薄塗材 Ｅ ・内装薄塗材 Ｅ ・可とう形外装薄塗り材 Ｅ	・砂壁状 ・砂壁状 じゅらく ・ゆず肌	・吹付け ・ローラー	
・厚付け仕上げ塗材	・外装厚塗材 Ｃ ・内装厚塗材 Ｃ ・外装厚塗材 Ｅ		※吹付け ・こて	
※複層仕上塗材	・複層塗材 ＣＥ ※複層塗材 Ｅ ・複層塗材 ＲＳ ・複層塗材 ＲＥ ・複層塗材 Ｓｉ ・防水形複層塗材 Ｅ ・防水形複層塗材 ＲＳ	※ゆず肌 ・凸部処理 ・凸凹模様	・吹付け ※ローラー	溶剤 ※水系・溶剤系 ・弱溶剤系 外観 ※つやあり ・メタリック 樹脂 ※アクリル系 ・シリカ系 ・ポリウレタン系 ・アクリルシリコン系 ・フッ素系
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材 ・こて塗用軽量塗材	・砂壁状 ・平たん状	・吹付け ・こて塗り	

複装仕上塗材の耐候性　・　１種　・　２種　※　３種
吹付け厚さ (mm)　※　図示による　・ (15.8.3)

4. ロックウール吹付け（耐火被覆は、７章による）

16 建具工事

①. 一般事項

防火戸の指定 (16.1.3)
・　適用する（適用範囲は図示及び建具表による）
※　建築基準法第２条第九号の二の規定に定められたもの又は認定を受けたもの(監督員の承認を受ける。)
※　適用しない

防火戸との連動 (16.1.3)
・　適用する(適用箇所は建具表及び図示による)
・　自動閉鎖機構　・　ヒューズ装置　・　熱感知器　・　煙感知器
※　適用しない

見本の作成等 (16.1.4)
製　作　※　行わない　・　行う（建具表による）
仮　組　※　行わない　・　行う（建具表による）

防犯建物部品　※　使用しない　・　使用する（建具表による） (16.1.6)

②. アルミニウム製建具

外部に面する建具性能等級等 (16.2.2)(16.2.4)(表16.2.1)(表14.2.1)

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法(mm)
・ Ａ 種	Ｓ－４	Ａ－３	Ｗ－４	７０（引違い，片引き，上げ下げ窓で複層ガラスを使用する時で性能が確保できない場合は、１００）
・ Ｂ 種	Ｓ－５			
⊙ 住宅用	Ｓ－３	Ａ－４	Ｗ－４	７０

※　適用箇所は図示による

表面処理		
	外部に面する建具	※　Ｂ－１種　・　Ｂ－２種
	内部建具	※　Ｃ－１種　・　Ｃ－２種

Ｂ－２種，Ｃ－２種の場合　・ブロンズカラー（※標準色　・濃色）
⊙ステンカラー

防音ドアセット，防音サッシ　・　適用する（適用範囲は図示による）
※　適用しない
適用する場合の遮音性の等級　・　Ｔ－１　・　Ｔ－２　・　Ｔ－３

断熱ドアセット，断熱サッシ　・　適用する（適用範囲は図示による）
※　適用しない
適用する場合の断熱性の等級　・　Ｈ－２　・　Ｈ－３

耐震ドアセット，耐震サッシ　・　適用する（適用範囲は図示による）
※　適用しない
適用する場合の面内変形追随性の等級　・　Ｄ－１　・　Ｄ－２

③. 網戸

※住宅用既製品

使用方法による区分　※外面納まりの可動式　・内部納まりの開き式 (16.2.3)

⊙防虫網（線径0.25mm　網目16-18メッシュ）
⊙ガラス繊維入り合成樹脂　・ｽﾃﾝﾚｽ(SUS 316)　・合成樹脂

・防鳥網
※ステンレス（SUS304）線径1.5mm　ピッチ15mm

工事名	花渕浜地区被災施設復旧整備事業(公衆用トイレ)　建設工事		図面番号
図面名	特記仕様書(2)	縮尺 A2：NS	A －０２

16 建具工事

4．樹脂製建具

外部に面する建具性能等級等 (16.3.2)(表16.3.1)

種　別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法(mm)
・Ａ　種	Ｓ－４	Ａ－４	Ｗ－４	※建具表による
・Ｂ　種	Ｓ－５		Ｗ－５	
・Ｃ　種	Ｓ－６			

※　適用箇所には図示による

防音ドアセット，防音サッシ (表16.3.2)
・　適用する（適用範囲は図示による）　※　適用しない
適用する場合の遮音性の等級　・　Ｔ－Ａ種　・　Ｔ－Ｂ種

断熱ドアセット，断熱サッシ (表16.3.3)
・　適用する（適用範囲は図示による）　※　適用しない
適用する場合の断熱性の等級　・　Ｈ－Ａ種　・　Ｈ－Ｂ種

表面色 (16.3.4)
・標準色（白）　・特注色（・黒　・ブラウン　・シルバー）

5．鋼製建具

簡易気密型ドアセット (16.4.2)(16.4.4)(表16.4.1)(表16.4.2)
※　使用する（適用箇所は図示とする）
気密性　※　Ａ－３
水密性　※　Ｗ－１
・　使用しない

外部に面する建具の耐風圧性　※　Ｓ－４　・　Ｓ－５　・　Ｓ－６

鋼　板 (16.4.3～4)
※溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302)
・溶融亜鉛－５％アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317)

建具寸法が(16.4.4(a))を超える又は図示された建具に使用する鋼板類の厚さ

区　分		使用箇所	厚さ　(mm)
窓	枠類	枠，方立，無目	(表16.4.2)に同じ
出入口	枠類	一般部分	2.3
	戸	中骨	2.3
上記以外			(表16.4.2)に同じ

標準型鋼製建具　※　使用する　・　使用しない (16.4.6)

⑥．鋼製軽量建具(外部用)

簡易気密型ドアセット (16.5.2～4)(表16.5.1)
※　使用する(適用箇所は図示による)
気密性　※　Ａ－３
・　使用しない

戸の鋼板　※　表面処理亜鉛めっき鋼板
・　ビニル被覆鋼板
・　カラー鋼板

標準型鋼製軽量建具　※　使用する　・　使用しない (16.5.6)

標準型鋼製軽量建具の小窓枠，がらり　※　鋼製　・　アルミ製

7．ステンレス製建具

簡易気密型ドアセット (16.6.2～5)
※　使用する（適用箇所は図示とする）
気密性　※　Ａ－３
水密性　※　Ｗ－１
・　使用しない

外部に面する建具の耐風圧性　※　Ｓ－４　・　Ｓ－５　・　Ｓ－６

表面処理　※　ＨＬ
鋼板の曲げ加工　※　普通曲げ　・　かど出し曲げ

8．木製建具 (16.7.2～4)

建具材の加工、組立時の含水率　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種
かまち戸の樹種　かまちは杉上小節程度　桟，鏡板は杉無節程度
ふすまの上張り　※　新鳥の子程度又はビニル紙程度
ふすまの種類　※　戸ぶすま　工法（・　在来型　・　チップ型）

⑨．建具用金物
※詳細は建具表による

(16.8.2)(表16.8.1)

金　物　の　種　類	型　　式	製　造　所
シリンダー箱錠		
本締り付きモノロック		
モノロック		
シリンダー本締り錠	既製品ﾄﾞｱ等はﾒｰｶｰ仕様による。	
グレモン錠		
ドアクローザー		
フロアヒンジ		
ヒンジクローザー	ピボット形	
ピボットヒンジ		JIS表示認証製品
レバーハンドル	レバー長さ　L=130程度	錠前類と同一製造所
戸あたり	あおり止め付き	

標準型鋼製建具及び標準型軽量鋼製建具(準標準型共)のドアクローザー、シリンダー箱錠は公共工事標準型とする。
握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセント取付位置は、建具表による。

マスターキーの作成　⊙　要　・　不要 (16.8.4)
キーの作成　⊙　必要(各３本)

10．自動ドア開閉装置

性能　・　スライディングドア (16.9.2)(表16.9.1～2)
・　スイングドア

センサーの種類　・　光線（反射）スイッチ (16.9.3)(表16.9.3)
・　マットスイッチ式
・　タッチスイッチ

※センサーの種類によらず補助センサー併用とする

凍結防止装置　・　要　※　不要
全半開装置　※　設ける（半開幅＝　　）
・　設けない

16 建具工事

11．重量シャッター

(16.11.2)(表16.11.1)

種　類	シャッターケース	耐風圧強度	開閉方式	保護装置
・一般シャッター	※　設ける ・　設けない	建具表及び図示による	※　上部電動式(手動併用) ・　上部手動式	障害物感知装置(自動閉鎖型) ※　設ける ・　設けない
・防火シャッター ・外壁用 ・屋内用	※　設ける		※　上部電動式(手動併用)	障害物感知装置(自動閉鎖型)を設ける。
・防煙シャッター				

スラット及びシャッターケース用鋼板 (16.11.3)
※溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302)
・塗装溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3312)

12．軽量シャッター

(16.12.2～4)(表16.12.1)

開閉形式	シャッターケース	耐風圧強度	スラットの形状	保護装置
※　手動式 ・　上部電動式(手動併用)	※　設ける ・　設けない	建具表及び図示による	※　インターロッキング型 ※　オーバーラッピング型	障害物感知装置(自動閉鎖型) ※　設ける ・　設けない

スラットの材質 (16.12.3)
※塗装溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3312)
・塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3322)

13．オーバーヘッドドア

(16.13.2)(16.13.3)

材　質	開閉方式	収納形式	耐風圧性能	ガイドレール
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	※　バランス式 ・　チェーン式 ・　電動式	※　スタンダード形 ・　ローヘッド形 ・　ハイリフト形 ・　バーチカル形	・　５０ ・　７５ ・１００ ・１２５ (JIS A4715による強さの区分)	※　溶融亜鉛メッキ鋼板 ・　ステンレス鋼板

保護装置
障害物感知装置　※　設ける　・　設けない

14．ガラス

(16.14.2)(16.14.3)(表16.14.1)
※　外部の建具に使用するガラスは、建築基準法に基づく耐風圧性能を有すること。

※　ガラスの材料、厚さ、それぞれの種類等は建具表及び図示による。

合わせガラスの特性
・　Ⅰ類　・　Ⅱ－１類　・　Ⅱ－２類　・　Ⅲ類

強化ガラスの特性
・　Ⅰ類　・　Ⅲ類

熱線吸収板ガラス
性能　・　１類　・　２類
色調　・　ブルー　・　グレー　・　ブロンズ

複層ガラス
性能　・　１種　・　２種
・　３種　（・　Ｕ３－１　・Ｕ３－２）
・　４種　・　５種
封止の加速耐久性による区分
※　Ⅲ類

熱線反射ガラス
日射遮へい性　・　１種　・　２種　・　３種
耐久性　・　Ａ類　・　Ｂ類
色調　・　ブルー　・　グレー　・　ブロンズ
・　シルバー
反射皮膜　・　内側　・　外側
映像調整　・　行う　・　行わない

ガラスの留め材
※　シーリング　・　ガスケット（可動アルミ製建具に限る）

防火戸のガラスの留め材は建築基準法の認定を受けたシーリング材とする。

ガラスの溝幅については、(表16.14.1)による。ただし強化ガラス、合わせガラス及び倍強度ガラスの溝幅は図示による。

複層ガラスの保証期間は引き渡し日から１０年間とし、メーカー保証書を提出する。

15．ガラスブロック（中空）

(16.14.5)

表面形状(JIS A5212)	モジュール呼び寸法による区分（長さ×高さ）	厚さによる区分
正方形	・　１２５×１２５　・　１６０×１６０ ・　２００×２００　・　３２０×３２０	・　８０ ・　９５
長方形	・　２５０×１２５　・　３２０×１６０	・　１２５

品質等

ガラスの種別	柄	目地色	金　属　枠	耐火性能
・一般ガラス ・乳白ガラス ・カラーガラス ・熱線反射ガラス	・　無 ・　有	・　白 ・　グレー	・　アルミニウム製（表面処理　　） ・　ステンレス製（表面仕上　　）	・　規定しない ・　有（　　分間）

17 カーテンウォール工事

1．カーテンウォールの種別

カーテンウォール種別
・　メタルカーテンウォール
・　ＰＣカーテンウォール

17 カーテンウォール工事

2．カーテンウォールの性能等

(17.1.2～3)(17.2.2～3)(17.3.2～3)

材　種	
耐風圧性	
耐震性	
水密性	
気密性	
耐火性	
耐温度差性	
遮音性	
断熱性	
材質等性能の確認方法	適切な資料により、監督員の承諾を受ける
層間変異追従性	
シーリング材	
構造ガスケット	
ガラス	
断熱材	
摩擦低減材・取付金物	カーテンウォール製作所の仕様による
表面仕上げ	

18 塗装工事

①．一般事項

屋内の壁及び天井の塗装の仕上げは、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする。 (18.1.3)

②．素地ごしらえ

各部の素地ごしらえ (18.2.2～7)

木　部	※Ａ種（不透明塗料塗）	※Ｂ種（透明塗料塗）
鉄鋼面	・Ａ種　・Ｂ種	※Ｃ種
亜鉛めっき鋼面	・Ａ種　※Ｂ種	・Ｃ種
モルタル・プラスター面	・Ａ種　※Ｂ種	
コンクリート・ALC面	・Ａ種　※Ｂ種	
ボード面	※Ａ種（繊目処理工法）	※Ｂ種（その他）

3．錆止め塗料塗り

塗料の種別 (18.3.2)

鉄鋼面	※Ａ種　※Ｂ種（標準仕様書8節の場合）	
亜鉛めっき鋼面	※Ａ種　・Ｂ種　※Ｃ種(標準仕様書8節の場合)	

錆止め塗料塗り (18.3.3)

鉄鋼面	※Ａ種（見え掛り）	※Ｂ種（見え隠れ）
亜鉛めっき鋼面	※Ａ種（鋼製建具等）	・Ｂ種　※Ｃ種(その他)

4．合成調合樹脂ペイント塗り（ＳＯＰ）

塗料の種別　※１種　・２種 (18.4.2)
合成樹脂調合ペイント塗り (18.4.3～5)

鉄鋼面	・Ａ種	※Ｂ種
木部	※Ａ種（屋外）	※Ｂ種（屋内）

5．クリアラッカー塗り（ＣＬ）

木部　・Ａ種　※Ｂ種 (18.5.2)

6．アクリル樹脂非分散系塗料塗り(屋内)（ＮＡＤ）

コンクリート・モルタル面　・Ａ種　※Ｂ種 (18.6.2)

7．耐候性塗料塗り(屋外)（ＤＰ）

上塗りの等級 (18.7.2～4)(表18.7.1～3)

鉄鋼面	※１級	・２級	・３級
亜鉛めっき鋼面	※１級	・２級	・３級

コンクリート面及び押出成形セメント板面の種別

	※Ａ種	・Ｂ種　・Ｃ種

8．つや有り合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ－Ｇ）

コンクリート・モルタル・プラスター・石こうボード・その他のボード面　・Ａ種　※Ｂ種 (18.8.2～4)
鉄鋼面（屋内）　・Ａ種　※Ｂ種

⑨．合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ）

コンクリート・モルタル・プラスター・石こうボード・その他のボード面　・Ａ種　※Ｂ種 (18.9.2)

10．合成樹脂エマルション模様塗料塗り（ＥＰ－Ｔ）

コンクリート・モルタル・プラスター・石こうボード・その他のボード面(屋内)　・Ａ種　※Ｂ種 (18.10.2)

11．ウレタン樹脂ワニス塗り（ＵＣ）

木部　⊙Ａ種　※Ｂ種 (18.11.2)

12．ラッカーエナメル塗り（ＬＥ）

木部　・Ａ種　※Ｂ種 (18.12.2)

⑬．ＷＰ

自然素材健康塗料（水性）　2回塗

19 内装工事

1．ビニル床シート

JIS A5705のJIS表示認証製品 (19.2.2)(19.2.3)

種　類	記号	色　柄	厚さ(mm)	特殊機能	工法
※　発泡層のないもの	※ＦＳ ・ＴＳ	※無地 ・マーブル	※　2.0 ⊙　2.5	・帯電防止 ・耐動荷重	※熱溶接 ・突付け
・　発泡層のあるもの	・ＨＳ ・ＫＳ				

2．化粧ビニル床シート

JIS A5705のJIS表示認証製品で，表面は印刷シートに透明表層を有した木目又は石目調のもの

種類の記号	色　柄	厚さ(mm)	特殊機能	工　法
ＦＳ	※　木目調 ・　石目調	※　2.0 ・　2.5	・帯電防止 ・耐動荷重	※熱溶接 ・突付け

上記以外はすべてビニル床シートに同じ

3．ビニル床タイル

JIS A5705のJIS表示認証製品 (19.2.2)(19.2.3)

種　類	記号	寸法	暑さ(mm)	特殊機能
※　コンポジションビニル床タイル	※ＫＴ	※300×300	※　2.0	・帯電防止 ・耐動荷重
ホモジニアスビニル床タイル	・ＦＴ	・300×300 ・450×450	・　2.0	・帯電防止 ・耐動荷重

19 内装工事

4．ビニル床シート・ビニル床タイルの特殊機能

帯電防止
・　帯電防止性能評価（JIS A 1455）1.2～3.1程度
又は耐電圧（JIS L 1023)3kV以下
・　帯電防止性能評価（JIS A 1455）3.2～5.1程度
又は漏えい抵抗値(JIS A 1454) 1×100オーム未満
・　帯電防止性能評価（JIS A 1455）5.2以上
又は漏えい抵抗値(JIS A 1454) 1×10オーム未満

耐動荷重
JIS A 1454によるへこみ試験、残留へこみ試験、滑り性試験、層間剥離強度試験(発泡層のあるビニルシートのみ)およびキャスター性試験等の試験後異常がないこと。

5．視覚障害者用床タイル

(19.2.2)

材　質		寸　法 (mm)
・　塩化ビニル系	・　せっ器質タイル系	３００×３００

※場所は図面による

6．ビニル幅木

材　種　※　軟質　・　硬質　・　溶接 (19.2.2)
高　さ (mm)　・　６０　※　７５　・　１００
厚　さ (mm)　・　１．５　※　２．０

7．カーペット敷き

・　タフテッドカーペット (19.3.3)(19.3.4)(表19.3.2)

施工箇所	パイル形状	パイル長さ(mm)	工　法	品　質	帯電性
			※　全面接着工法 ・　グリッパー工法		(19.3.3)による

品質は参考商品名である

・　タイルカーペット (19.3.3)(19.3.4)(表19.3.2)

施工箇所	種　類	パイル形状	寸　法	総厚さ	帯電性
	※第１種 ・第２種	※ループパイル ・カットパイル	※500×500	※　6.5	製造所の仕様による

8．合成樹脂塗床

材料の種類 (19.4.2)
・　厚膜型塗床材
・　弾性ウレタン樹脂系塗床材
・　エポキシ樹脂系塗床材
・　薄膜型塗床材（エポキシ樹脂系塗床材）

仕上の種類 (19.4.3)
・　平滑仕上げ　・　防滑仕上げ

9．フローリング張り

・単層フローリング (19.5.2～3)(19.5.5～7)(表19.5.3～4)

種　別	樹種	厚さ(mm)	上法	塗装
・　フローリングボード	※ナラ	※１５　幅　７５ 長さ500以上	・釘止め工法 ・接着工法	※ウレタン樹脂ワニス塗り
・　フローリングブロック	※ナラ	※１５　303×303	・モルタル埋込み工法 ・接着工法	・オイルステン塗りの上ワックス
・　モザイクパーケット	※ナラ	・６　・８　・９	・接着工法	・生地のままワックス ・既塗装品

・複合フローリング

種　別	樹種	種別	防湿処理	工法	塗装
※　複合１種フローリング ・　複合２種フローリング ・　複合３種フローリング	※ナラ ・サクラ ・ヒノキ ・カバ	・Ａ種 ・Ｂ種 ※Ｃ種	・行う ※行わない	・釘止め工法 ・接着工法	※ウレタン樹脂ワニス塗り ・オイルステン塗りの上ワックス ・生地のままワックス ・既塗装品
・　大型積層フローリング	・ナラ ・サクラ ・カバ		・行う ・行わない	・特殊張り工法(体育館床)	

10．畳敷き

畳の種別　・　Ａ種　・　Ｂ種 (19.6.2)(表19.6.1)
・　Ｃ種　・　Ｄ種（　　）
・　樹脂製

⑪．石こうボードその他ボード及び合板張り

(19.7.2～3)(表19.7.1)(表19.7.5)

種類又は記号	種別など	厚　さ (mm)		規格番号
けい酸カルシウム板(繊維強化セメント板)0.8ＦＫ又は1.0ＦＫ		壁	・　8(不燃) ・　10(不燃) ・　12(不燃)	JIS A 5430(タイプ2)
		天井	⊙　6(不燃) ・　12(不燃)	
グラスウール吸音ボード(吸音材料) ＧＷ－Ｂ	ガラスクロス(JIS A 3414 EP18程度)額縁張り品		25(不燃)	JIS A 6301(32K)
ロックウール化粧吸音板(吸音材料) ＤＲ	※　内部用 ・　軒天用	普通	※　9(不燃) ・　12(不燃)	JIS A 6301
		立体模様	・　12(不燃) ・　15(不燃) ・　19(不燃)	
せっこうボード(せっこうボード製品) ＧＢ－Ｒ		壁	・9.5(準不燃) ※12.5(不燃) ・　15(不燃)	JIS A 6901
		天井	・9.5(準不燃) ※12.5(不燃)	
シージングせっこうボード(せっこうボード製品) ＧＢ－Ｓ		壁	・12.5(準不燃)	JIS A 6901
		天井	・9.5(準不燃)	
化粧せっこうボード(せっこうボード製品) ＧＢ－ＮＣ	トラバーチン模様 色　※白 ・黄		・　9.5(不燃)	JIS A 6901
化粧せっこうボード(せっこうボード製品) ＧＢ－Ｄ	木目模様 木目模様(裏桟付き) 特殊模様	壁	・9.5(準不燃) ※12.5(不燃)	JIS A 6901
		天井	・9.5(準不燃) ※12.5(不燃)	

せっこうボードの目地処理　※　継目処理工法　・　突き付けＶ目地工法
⊙　突き付け工法　・　目透し工法

工事名	花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ）　建設工事		図面番号
図面名	特記仕様書(3)	縮尺　Ａ2：ＮＳ	Ａ－０３

19 内装工事

12. 遮音シール材　・ アクリル系シーリング材　※　ジョイントコンパウンド　(19.7.2)

13. 壁紙張り　(19.8.2)

施工箇所	品質	防火種別
仕上表参照	表面強化（1000番代）	・不燃　⊙準不燃　・その他
		・不燃　・準不燃　・その他
		・不燃　・準不燃　・その他
		・不燃　・準不燃　・その他

品質は参考商品名である。

⑭. 断熱材　断熱材の打込み及び現場発泡工法　(19.9.2)(19.9.3)

種類		箇所	厚さ(mm)	備考
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・Ａ種ビーズ法 ※Ａ種押出法２種ｂ		・ 25	JIS A 9511のJIS表示認証製品
※ 押出法ポリスチレンフォーム保温材（Ａ種）	・２種ｂ ・３種ｂ	下記以外 床下	・ 45	
・ 硬質ウレタンフォーム保温材	※Ａ種			
・ フェノールフォーム保温材	※Ａ種		※ 50	JIS A 9511のJIS表示認証製品
・ 吹付け硬質ウレタンフォーム保温材	※Ａ種１		※ 50	JIS A 9526による難燃性・２級　※３級

※　施工範囲は建築工事標準詳細図(図7-01-1)による。

上記以外に用いる断熱材

種類		箇所	厚さ(mm)	備考
・ ＪＩＳＡ発泡プラスチック保温材	・Ａ種ビーズ法 ※Ａ種押出法２種ｂ	下記以外	※ 25	JIS表示認証製品
	※Ａ種押出法３種ｂ（スキン層あり）	接地部分及び屋根防水部分ピット内部		
⊙ グラスウール保温材	※16Ｋ品	・外壁 ⊙屋根	・ 120 ※ 100	JIS表示認証製品

※　グラスウール使用部分の室内側防湿シート
　※　被覆品　　・防湿層ポリエチレンフィルム(t0.15)張り　(重ね100)

20 ユニット及びその他の工事

1. フリーアクセスフロア　(20.2.2)

施工場所	工法	仕上り高(mm)	適用地震時水平力(Ks)	耐荷重性能(N)	表面仕上げ
	・溝工法（置敷工法）		・ 1.0G ※ 0.6G	・ 3,000 ・ 5,000	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット
	・支柱一体型パネル工法（置敷工法）				
	・支柱分離型パネル工法（独立支柱工法）				

ボーダー部　※　一般部分の仕様に準ずる　・　図示による
床表面仕上げ材の品質は標準仕様書19章による。
配線取出し用切り欠きパネルは１枚／㎡以上とする。
空調用吹き出し(吸い込み)パネル　※　なし
　・　有り（※固定式　・可変式）
　施工箇所は図示

2. 可動間仕切（パーテーション）　(20.2.3)

構造形式による種類　スタッド式（内蔵）
構成材の種類　アルミニウム合金系又はスチール系
パネル表面材　焼付塗装鋼板（標準色）ｔ＝０．５以上
遮音性　３６dB/500Hz以上
防火性能　不燃

3. 移動間仕切（スライディングドア）　(20.2.4)
※詳細は建具表による

パネルの操作方法による種類　規定しない
パネル表面材の材質及び仕上げ　製造所仕様の化粧鋼板（標準色）ｔ＝０．５以上
パネル圧接装置の操作方法　ハンドル回転式又はワンタッチ上下式
遮音性　３６dB/500Hz以上
防火性能　不燃
取り付け用あと施工アンカー　材質，寸法等は図示又は製造所の仕様による

④. トイレブース　(20.2.5)
※詳細は建具表による

※建具表による
表面材　ﾒﾗﾐﾝ化粧板（標準色）
幅　木　ステンレス製 H=60　ｱｼﾞｬｽﾀｰｻﾎﾟｰﾄH=60
フレーム　アルミ製
扉　厚４０中心吊りアール形アルミ製エッジ，帽子掛け戸当たり付き

5. 階段滑り止め（ノンスリップ）　(20.2.6)

材　種　ステンレス（SUS304）
　ビニールタイヤ入り（幅約35mm）
取り付け方法　※　接着工法　　・　埋込み工法

6. 床目地棒　(20.2.7)

ステンレスＦＢ（SUS304）　ｔ５～６×Ｈ１２
（床仕上げが異なる場合に設ける。但し、建具部は建具表による。）

7. 黒板及びホワイトボード　(20.2.8)

形式　・　平面　　・　曲面
　W3600、H1200

8. 鏡　(20.2.9)

耐湿鏡　ｔ＝５　　ステンレスフレーム付き

⑨. 表示　便所サイン　シート切文字アクリル板貼　3か所　(20.2.10)
※(株)ナスタ同等品
※デザイン、設置位置は監督員の承認を持って決定とする。

10. 煙突ライニング材　(20.2.11)
煙突用成形ライニング材　安全使用温度　４００℃

11. ブラインド　(20.2.12)

形式			
	※ 横型ブラインド	・ 縦型ブラインド	
スラット	※ アルミニウム合金	・ クロススラット	
開閉方式	・ ギヤ式	⊙コード式	・ ２本操作コード方式
スラットの成形（mm）	※ ２５	・ ８０	・ １００

12. ロールスクリーン　(20.2.13)

操作方式　・　スプリング式　※　チェーン式　・電動式
スクリーンの生地　無地で製造所仕様の標準タイプ

13. カーテン　(20.2.14)(表20.2.1)

名称・品質など	ひだの種類	形式	引分け装置
ﾄﾞﾚｰﾌﾟ	※箱ひだ、つまひだ	・片引き ・引分け	※手引　・ひも引 ・電動
	※箱ひだ、つまひだ	・片引き ・引分け	※手引　・ひも引 ・電動

14. カーテンレール　(20.2.14)

材　質　※　ステンレス製　⊙　アルミニウム製(ダブル)
形　状　※　Ｄ型又は角型　・　Ｃ型

15. アルミニウム製カーテンボックス

表面処理　※　Ｃ－１種　・　Ｃ－２種　(表14.2.1)

⑯. 点検口

施工箇所	材種	寸法	形式
天井	※ アルミニウム製	※　４５０×４５０ ・　６００×６００	※　目地タイプ ・　額縁タイプ
壁(ﾗｲﾆﾝｸﾞ部)	※ アルミニウム製	⊙　３００×３００ ・　４５０×４５０	※　一般形貼物用 ・　一般形充填用

17. くつふきマット

材種	受わく
※　塩化ビニール製又は塩化ゴム製 ・　硬質アルミニウム合金製 ・　ステンレス製（SUS 304）	※　ステンレス製（SUS 304） ・　硬質アルミニウム合金製

18. ステンレス流し台　※　ＢＬ認定商品（システム　※　Ｉ型　）トラップ付

19. コンロ台　※　ＢＬ認定商品（システム　※　Ｉ型　）バックガード（※有　・無）
・　図示

20. つり戸棚　※　ＢＬ認定商品（システム　※　Ｉ型　）
・　図示

21. 水切棚　※　１段　・　２段

22. 旗竿受金物　※　ステンレス製（SUS 304）既製品　彫り込みタイプ既製品

23. 旗竿
形　式　※　テーパー式　・　同一断面式　Ｈ＝
材　種　※　アルミニウム合金　m
操作方式　※　ハンドル式　・　ロープ式

24. 屋内掲示板　※　既製品　アルミニウム製枠　表面発泡シート張り

25. 視覚障害者用誘導ブロック
屋　外　※　コンクリート製　・　磁器質タイル
　（・　１００角　・　１５０角　⊙　３００角）

26. 出隅面取材
材　種　※　アルミニウム合金製
高　さ　※　天井まで　・　１．８ｍ程度

27. かぎ箱　市販品　フック数（本）　・　３０　・　４０
　・　６０　・　１００

28. 消火器ボックス　鋼製　既製品（全埋込型扉付）

29. ピクチャーレール　アルミ製　既製品：ﾜｲﾔｰ，ﾌｯｸ等の吊り金物(4ｾｯﾄ／ｍ) 共

30. 郵便受　図示

31. その他　図示

32. 手摺　図示

33. 下駄箱　図示

21 排水工事

1. グレーチング　※　鋼製　・　ステンレス製　(21.2.2)

2. 鋳鉄製マンホールふた　簡易密閉式とし，表面には用途別の標準文字付きとする。　(21.2.2)

③. 縁石及び側溝　地業の材料　・再生クラッシャラン　(21.4.2)

22 舗装工事

①. 再生材　※　使用する　・　使用しない　(22.1.3)

②. 盛土材料　路床の盛土材料　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　(22.2.3)

3. 遮断層及び凍上抑制層用材料
遮断層　※　川砂・海砂又は良質な山砂　(22.2.2)(22.2.3)
凍上抑制層　※　再生クラッシャラン　・　切込砂利又は切込砕石

4. 路床安定処理　路床安定処理添加材料　(22.2.2)(22.2.3)(表22.2.2)
　※　普通ポルトランドセメント　・　高炉セメントＢ種
　・　フライアッシュセメントＢ種
　・　生石灰（・特号　・１号）　・　消石灰（・特号　・１号）

5. 砂の粒度試験　※　行わない　・　行う　(22.2.3)

6. 路床土の支持力比（ＣＢＲ）試験　※　行わない　・　行う（※　乱した土　・　乱さない土）　(22.2.5)

⑦. 路床の締固め度の試験　・　行わない　※　行う（箇所：埋戻し及び盛土部）　(22.2.5)

⑧. 路盤材料　※　再生クラッシャラン　ＲＣ－４０　(22.3.3)(表22.3.2)
　（透水性舗装の場合を除く）
　・　クラッシャラン　Ｃ－４０
　・　クラッシャランスラグ　ＣＳ－４０

⑨. 路盤の締固め度の試験　※　行う　(22.3.5)

⑩. アスファルト舗装　加熱アスファルト混合物の種類　(22.4.2)(22.4.4)(表22.4.5)

表層	※　再生密粒度アスファルト混合物（１３） ・　密粒度アスファルト混合物（１３） ・　細粒度アスファルト混合物（１３）	舗装の厚さは図示による
基層	※　再生粗粒度アスファルト混合物（２０） ・　粗粒度アスファルト混合物（２０）	

舗装の平坦性は、通行の支障となる水たまりを生じない程度とする
アスファルト混合物等の抽出試験　※行わない　・行う　(22.4.6)

⑪. コンクリート舗装
早強セメント　・　使用する　※　使用しない　(22.5.3)
溶接金網　※　あり　・　なし
コンクリート版の厚さの試験　・　行う　※　行わない　(22.5.6)

12. カラー舗装　(22.6.2)

種類		部位		厚さ(mm)
加熱系	※ アスファルト混合物	・ 車道部	・ 歩道部	図示による
	・ 石油樹脂系混合物	・ 車道部	・ 歩道部	
	・ 樹脂系混合物	・ 車道部	・ 歩道部	５～１０
常温系	・ ニート工法	・ 車道部	・ 歩道部	３～５
	・ 塗布工法	・ 車道部	・ 歩道部	１程度以下

着色骨材・自然石（　　）　(22.6.3)

13. ブロック系舗装
・　コンクリート平板舗装　※　砂目地　(22.9.2)(表22.9.1)
　・　モルタル目地
・　インターロッキングブロック舗装
・　舗石舗装　基層　※　コンクリート舗装　・　アスファルト舗装

⑭. 砂利敷き　・　Ａ種　※　Ｂ種　(22.10.2)

⑮. 区画線　※　ＪＩＳＫ５６６５　３種１号

23 植栽工事

1. 植栽地の確認等
透水性及び土壌硬度の確認　※　行う　・　行わない　(23.1.3)
塩分量及び土壌の酸度の試験　・　行う　※　行わない

②. 植栽基盤　・　適用する　※　適用しない　(23.2.2)(表23.2.2)

種別	樹種等	植栽基盤の適用
・ Ａ種	樹木	・　適用する　※　適用しない
・ Ｂ種	芝，地被類木	※　適用する　　適用しない
・ Ｃ種		
⊙ Ｄ種		

③. 植込み用土　※　現場発生の良質土　⊙　客土（黒土）　(23.2.3)

4. 土壌改良材　※　適用する　・　適用しない　(23.2.3)
　土壌改良材は，植栽を行う植込等の面積１㎡当たり，バーク堆肥の場合は５０リットル，発酵下水汚泥コンポストの場合は１０リットルとする。

5. 芝　種別　※　こうらい芝の類　・　野芝の類　(23.4.2)

6. 屋上緑化　(23.5.2)(23.5.3)

工法	土壌層厚さ	保水・排水層
・ 屋上緑化システム	・　６ｃｍ ・　１２ｃｍ ・　３０ｃｍ	・　適用する 材質（・　軽量骨材 ・　板状成形品） ・　適用しない
・ 屋上緑化軽量システム	※　システム製作所の仕様による	

24 総揮発性有機化合物（ＴＶＯＣ）測定仕様書

①. 一般事項　試料採取および測定は，厚生労働省の「室内空気中化学物質の採取方法と測定方法」（以下「厚労省の測定方法」という。）の新築住宅の例に準拠して行う。

②. 測定対象化学物質　測定対象化学物質は，下記４ 1)，2)の区分に従い，表の①から⑭の１４物質及びＴＶＯＣ又は表の①から⑨の９物質及びＴＶＯＣとする。

③. 測定方法
１）　クロマトグラム上で「n-ヘキサン」から「n-ヘキサデカン」までの部分に検出される物質のピーク値を「トルエン」に換算した値をＴＶＯＣ濃度とする。
２）　トルエン換算で 2.0μg/m３ 未満のピークは測定の対象としない。
３）　上位１０ピークについて物質を特定して濃度の測定を行う。

表　測定対象化学物質及び室内濃度指針値

化学物質名	室内濃度指針値			
①ホルムアルデヒド	100	μg/m３	0.08	ppm
②トルエン	260	μg/m３	0.07	ppm
③キシレン	870	μg/m３	0.20	ppm
④エチルベンゼン	3,800	μg/m３	0.88	ppm
⑤スチレン	220	μg/m３	0.05	ppm
⑥パラジクロロベンゼン	240	μg/m３	0.04	ppm
⑦テトラデカン	330	μg/m３	0.04	ppm
⑧アセトアルデヒド	48	μg/m３	0.03	ppm
⑨ノナナール	(暫定)41	μg/m３	0.007	ppm
⑩フタル酸ジ-n-ブチル	220	μg/m３	0.02	ppm
⑪フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	120	μg/m３	0.0076	ppm
⑫クロルピリホス	1	μg/m３	0.00007	ppm
⑬ダイアジノン	0.29	μg/m３	0.00002	ppm
⑭フェノブカルブ	33	μg/m３	0.0038	ppm
⑮総揮発性有機化合物（ＴＶＯＣ）	400	μg/m３	（暫定目標値）	

④. 測定する室
１）　１４物質及びＴＶＯＣ濃度を測定する室等
　⊙　室名：柔剣道場、更衣室（1）

２）　９物質及びＴＶＯＣ濃度を測定する室
　・　室名：

　⊙　屋外(周囲の建物から離れた場所１か所)

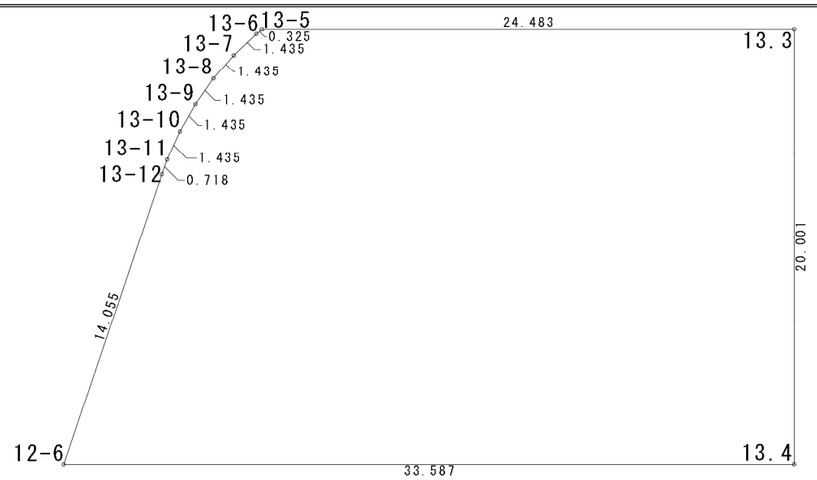
⑤. 測定結果等報告書の提出　次の事項を記載した報告書を２部提出する。
１）　測定結果（アセトアルデヒドについては，試料採取時の気温が20℃に満たない場合には，「厚労省の測定方法」に定める計算式で20℃，湿度50%に，ホルムアルデヒドについては25℃，湿度50%に補正した濃度を報告すること。）
２）　試料採取時の状況（気温・湿度(屋外，室内)，天候、風の状況、日射進入状況，採取年月日・時間，窓の開閉状況，機械換気量，工事完成から試料採取までの日数）
３）　試料採取方法，測定方法，使用した測定機器
４）　ＴＶＯＣ濃度の算出に使用したクロマトグラムの写し

⑥. その他　表の化学物質①から⑤のうち，いずれかの物質の濃度が室内濃度指針値を超える場合は，工事目的物の引渡しを受けない。
　ＴＶＯＣの測定の結果，暫定目標値を超える場合は，発生原因の究明及び汚染物質の発生を低減するための対策について，協議を行うこと。

工事名	花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ）　建設工事		図面番号
図面名	特記仕様書(4)	縮尺　Ａ2：ＮＳ	Ａ －０４

N

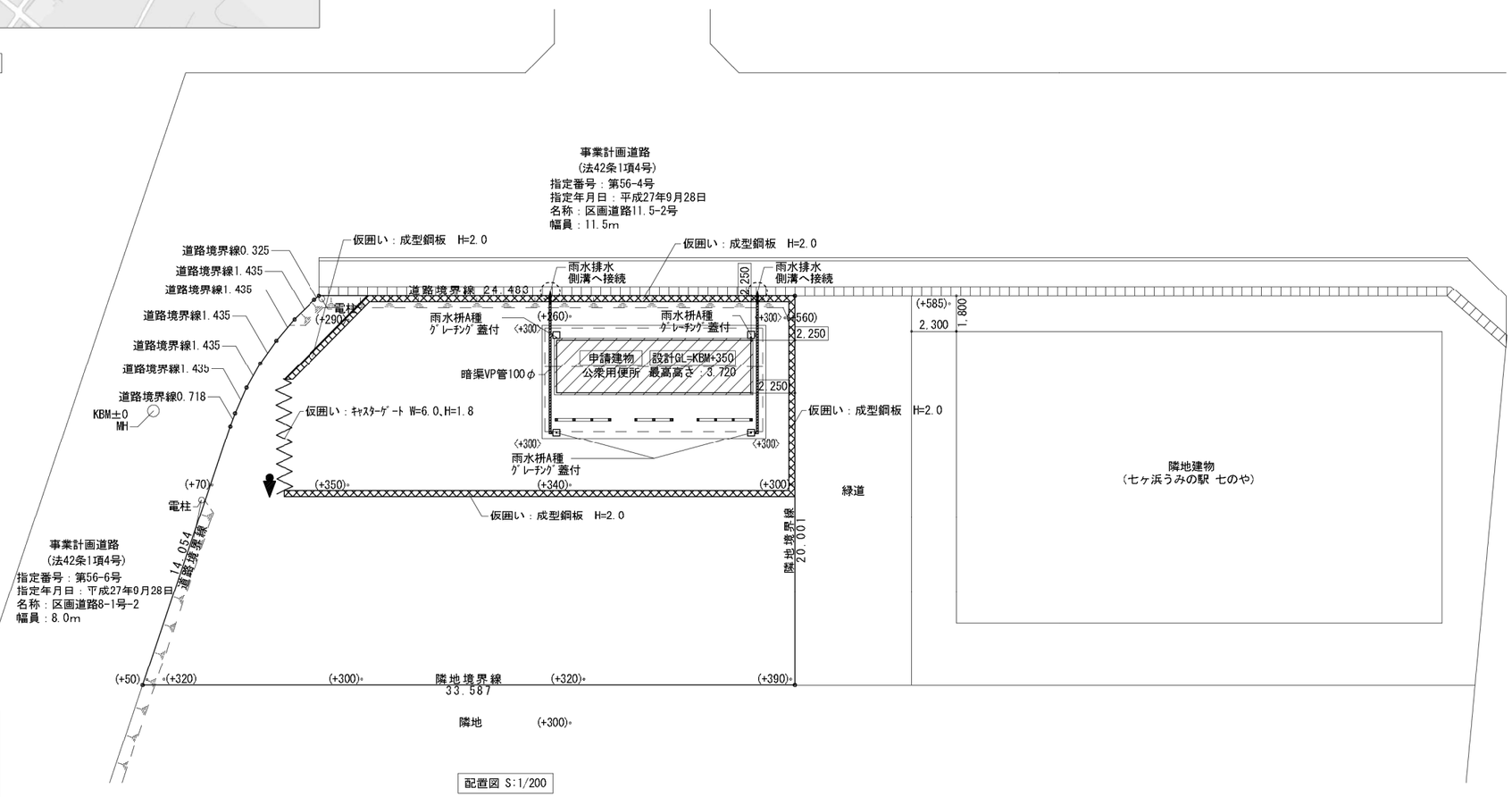
案内図



敷地求積図　S=1/200

N.o	X	Y
12-6	-188207.923	21845.162
13.4	-188232.228	21868.343
13.3	-188218.424	21882.817
13-5	-188200.707	21865.919
13-6	-188200.662	21865.597
13-7	-188200.6	21864.163
13-8	-188200.675	21862.73
13-9	-188200.887	21861.311
13-10	-188201.233	21859.918
13-11	-188201.711	21858.565
13-12	-188201.998	21857.907
面積算出公式		倍面積2A　1198.487603
A＝1/2ΣXn(Y(n+1)-Y(n-1))		面積A　599.2438015

敷地座標求積表



配置図 S:1/200

仮設計画

凡例	種別	仕様	数量
	仮囲い	成型鋼板　H=2.0	64.7m
	仮囲い	ｷｬｽﾀｰｹﾞｰﾄ W=6.0、H=1.8	1か所
	誘導員	交通誘導員（資材搬入出時）	

工事名	花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ）　建設工事		図面番号
図面名	案内図・配置図・敷地求積図	縮尺 A2：各図	A－05

外部仕上表

屋根	ﾌｯ素樹脂塗料ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t-0.45 裏貼t-2.0 嵌合式立平葺き(耐風圧性能7200Pa)、雪止め：千鳥２段、ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ940、構造用合板t-12.0下張り、遮音用ＧＷ16Ｋ100mm	ポーチ	ｽﾀﾝﾌﾟｺﾝｸﾘｰﾄ（D13 ﾀﾃ・ﾖｺ@150）（構成は詳細図による）		
外壁	縦ﾘﾌﾞ付窯業系ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞt-16.0（寒冷地仕様、縦張金具工法、ｺｰﾅｰ役物納め） ※ﾆﾁﾊ(株)モエンエクセラートｰ16 ｸﾞﾗﾝｽﾍﾞｯｸ60同等品（QM-0639） 透湿防水ｼｰﾄ、構造用合板9.0mm、外壁上部見切り：ｱﾙﾐ製 既成品 換気ｶﾞﾗﾘ500×500 通気調整ｶﾊﾞｰ付（3か所）	合成木材ﾙｰﾊﾞｰ	ｱﾙﾐ芯材入り木粉樹脂混合発砲ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝ材 高耐抗樹脂ｺｰﾃｨﾝｸﾞ(ﾘﾌﾞﾀｲﾌﾟ) 材寸法 25×75×2100 小口ｶﾊﾞｰ付（構成は詳細図による） ※ｾｲﾅ販売(株) 格子ユニット同等品		
		雨水排水	暗渠ＶＰ管、雨水枡A種 ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋T-6付		
木部	木材保護塗料塗り（水性）				
軒天	FK-6.0 EP塗装				
破風・鼻隠し	ﾌｯ素樹脂塗料ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t-0.45 裏貼t-2.0				
樋	軒樋：高耐候性樹脂製 軒樋 W135 竪樋：高耐候性樹脂製 □40、SUS製鎖樋 筒形				
基礎巾木	ﾓﾙﾀﾙ薄塗				
土台水切り	ｱﾙﾐ製水切り 既製品				
壁付換気ｶﾞﾗﾘ	ｱﾙﾐ製換気ｶﾞﾗﾘW=0.60×H=0.375 通気調整ﾚｼﾞｽﾀｰ付（3か所）				

略号

・配管材
- ＶＰ　硬質塩化ビニル管

・内装材
- ＧＢ－Ｒ　せっこうボード
- ＧＢ－Ｓ　シージングせっこうボード
- ＧＢ－ＮＣ　化粧せっこうボード
- ＦＫ　けい酸カルシウム板
- ＤＲ　ロックウール化粧吸音板

・塗装
- ＳＯＰ　合成樹脂調合ペイント塗り
- ＥＰ　合成樹脂エマルションペイント塗り
- ＡＥＰ　アクリル樹脂エナメル塗り
- ＯＳ　オイルステイン塗り
- ＣＬ　クリヤーラッカー塗り
- ＵＣ　ウレタン樹脂ワニス塗り

内部仕上表

階	室名	床 下地	床 高さ	床 仕上	巾木 下地	巾木 仕上	壁 下地	壁 仕上	天井 下地	天井 高さ	天井 仕上	廻り縁 仕上	備考
1	男子便所	C	0～-30	土間ｺﾝｸﾘｰﾄ ｾﾗﾐｯｸ骨材配合非磁性強靭床仕上材 (ｺﾝｸﾘｰﾄ同時散布工法 刷毛引き仕上) ※(株)ｴﾋﾞｰｼﾞ製会 ﾌｪﾛｺﾝﾊｰﾄﾞC ｺﾝｸﾘｰﾄ同時ｶﾗｰ散布工法 #505色同等品	C	300角タイル貼り H=300	W	構造用合板t-9.0(耐水)下地の上、 化粧ｹｲｶﾙ板 t-6.0	W	2,880 ～ 3,380	有孔FK t-6.0 EP塗装	塩ビ製	ﾗｲﾆﾝｸﾞ甲板：ﾎﾞｽﾄﾌｫｰﾑ W350、ｾﾗﾐｯｸ製汚垂石、ｻｲﾝ：ｼｰﾄ切文字ｱｸﾘﾙ板貼 小便器用手摺、Ｌ型手摺、ｱﾙﾐ製壁見切、壁点検口300角鍵付（ﾗｲﾆﾝｸﾞ用）2か所 排水溝用鋼製ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋750×150
	女子便所	C	0～-30	土間ｺﾝｸﾘｰﾄ ｾﾗﾐｯｸ骨材配合非磁性強靭床仕上材 (ｺﾝｸﾘｰﾄ同時散布工法 刷毛引き仕上) ※(株)ｴﾋﾞｰｼﾞ製会 ﾌｪﾛｺﾝﾊｰﾄﾞC ｺﾝｸﾘｰﾄ同時ｶﾗｰ散布工法 #505色同等品	C	300角タイル貼り H=300	W	構造用合板t-9.0(耐水)下地（遮音材ｸﾞﾗｽｳｰﾙ16K50含む）の上、 化粧ｹｲｶﾙ板 t-6.0	W	2,880 ～ 3,380	有孔FK t-6.0 EP塗装	塩ビ製	ﾗｲﾆﾝｸﾞ甲板：ﾎﾞｽﾄﾌｫｰﾑ W350、ｻｲﾝ：ｼｰﾄ切文字ｱｸﾘﾙ板貼 Ｌ型手摺、ｱﾙﾐ製壁見切、壁点検口300角鍵付（ﾗｲﾆﾝｸﾞ用）2か所 排水溝用鋼製ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋750×150、棚板W300×L850（流し上1か所）
	多目的便所	C	0～-30	土間ｺﾝｸﾘｰﾄ ｾﾗﾐｯｸ骨材配合非磁性強靭床仕上材 (ｺﾝｸﾘｰﾄ同時散布工法 刷毛引き仕上) ※(株)ｴﾋﾞｰｼﾞ製会 ﾌｪﾛｺﾝﾊｰﾄﾞC ｺﾝｸﾘｰﾄ同時ｶﾗｰ散布工法 #505色同等品	C	300角タイル貼り H=300	W	構造用合板t-9.0(耐水)下地（遮音材ｸﾞﾗｽｳｰﾙ16K50含む）の上、 化粧ｹｲｶﾙ板 t-6.0	W	2,880 ～ 3,380	有孔FK t-6.0 EP塗装	塩ビ製	ﾗｲﾆﾝｸﾞ甲板：ﾎﾞｽﾄﾌｫｰﾑ W350・W150、上部棚、ｻｲﾝ：ｼｰﾄ切文字ｱｸﾘﾙ板貼 Ｌ型手摺、跳上手摺、ｱﾙﾐ製壁見切、壁点検口300角鍵付（ﾗｲﾆﾝｸﾞ用）1か所 排水溝用鋼製ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋750×150

共通事項（特記なきかぎり下記共通事項による）

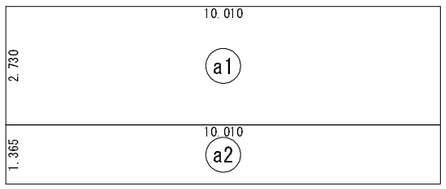
1. 下地区分　Ｃ：鉄筋コンクリート下地、ＣＢ：コンクリートブロック下地、Ｓ：軽量鉄骨下地、Ｗ：木造下地
2. 壁のＧＢ－Ｒ張りは、突付け（Ｖ目地）とする。ただし、壁紙張り等の場合は継目処理工法とする。又ＦＫ張りの場合も突付け（Ｖ目地）とする。
   内壁タイル接着張り下地に用いるＧＢ－Ｓは突付けとする。なお、Ｃ、ＣＢ下地のボード張りはＧＬ工法とする。
3. 天井仕上ボード張りのうち、ＧＢ－ＮＣ、ＤＲ、ＤＲ（凸凹）は、突付け張り、ＦＫは突付け（Ｖ目地）とする。
4. 和室まわりの木部は無塗装とする。
5. 床仕上が異なる場合は、アルミ製見切りを設ける。
6. カーテンＢＯＸ、ブラインドＢＯＸ、天井点検口等の位置は天井伏図による。
7. 仕上材、下地材、接着材等は全てＦ☆☆☆☆品を使用する。
8. 外壁の継目及びサッシ廻りには変成シリコン系シーリングを施工する。
9. サッシ廻りには防水テープを施工する。

防火認定番号

材料名	不燃認定	準不燃認定
ＧＢ－Ｒ（12.5）	ＮＭ－８６１９	
ＧＢ－Ｒ（9.5）		ＱＭ－９８２８
ＧＢ－Ｓ（12.5）	ＮＭ－９６３９	
ＧＢ－Ｓ（9.5）		ＱＭ－９８２６
ＤＲ（凸凹）	ＮＭ－８５９９	
ＦＫ	ＮＭ－８５７８	
不燃化粧板	ＮＭ－０２６１	
プリント石膏ボード（12.5）	ＮＭ－０１２８	
プリント石膏ボード（9.5）		ＱＭ－９８２４

材料名	不燃認定	準不燃認定
ビニルクロス	ＮＭ－０５３２ （不燃下地）	ＱＭ－０１７６ （準不燃下地）

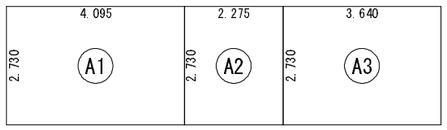
建築面積・床面積求積図　求積表



建築面積求積図 S:1/100

建築面積表

	形状	計算式	面積
a1	矩形	10.010×2.730	27.327300
a2	矩形	10.010×1.365	13.663650
面積		計(m²)	40.99
		(坪)	12.39



床面積求積図 S:1/100

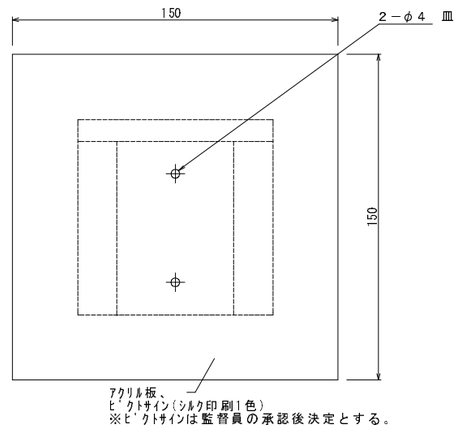
床面積表(1階)

	形状	計算式	面積
A1	矩形	4.095×2.730	11.179350
A2	矩形	2.275×2.730	6.210750
A3	矩形	3.640×2.730	9.937200
面積		計(m²)	27.32
		(坪)	8.26

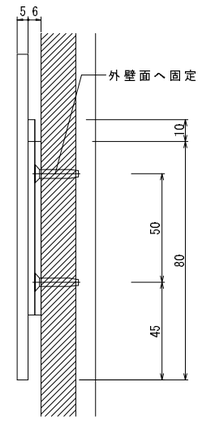
サインプレート詳細図

3か所

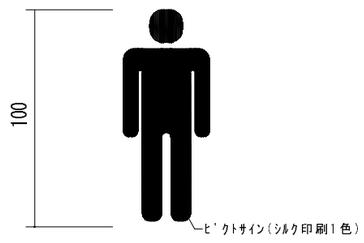
※(株)ﾅｽﾀ　国土交通省ﾀｲﾌﾟ同等品



正面図 S:1/2



側面図 S:1/2



ピクトサイン参考

工事名	花渕浜地区被災施設復旧整備事業(公衆用トイレ) 建設工事		図面番号
図面名	外部・内部仕上表、面積求積図・面積表	縮尺 A2：各図	A－06

凡 例

□建具符号
- ＡＤ　アルミニウム製戸
- ＳＤ　鋼製戸
- ＬＳＤ　軽量鋼製戸
- ＳＳＤ　ステンレス製戸
- ＷＤ　木製戸
- ＡＷ　アルミニウム製窓
- ＳＷ　鋼製窓
- ＳＳＷ　ステンレス製窓
- ＡＣＷ　アルミニウム製カーテンウォール
- ＷＷ　木製窓
- ＳＳ　重量シャッター
- ＬＳ　軽量シャッター
- ＳＨＤ　オーバーヘッドドア（スチール製）
- ＡＨＤ　オーバーヘッドドア（アルミ製）
- ＡＧ　アルミ製ガラリ
- ＳＧ　鋼製ガラリ
- ＷＧ　木製ガラリ
- ＳＬＤ　可動間仕切り
- ＰＴ　パーティション
- ＴＰ　トップライト
- Ｈ　襖
- Ｐ　障子
- ＴＢ　トイレブース

□ガラス符号
- ＦＬ　透明ガラス
- Ｆ　型ガラス
- ＰＷ　網入り透明ガラス
- ＦＷ　網入り型ガラス
- Ｔ　強化ガラス
- ＧＢ　ガラスブロック
- Ａ　空気層

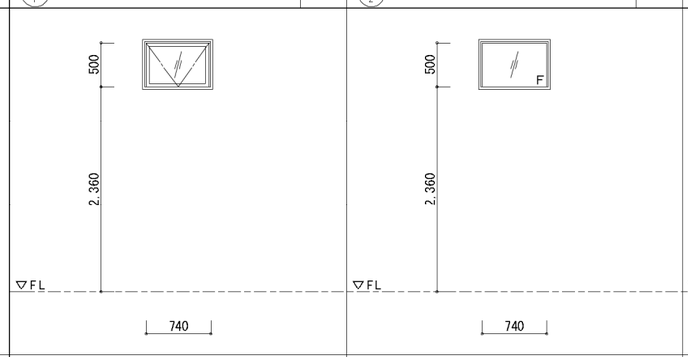
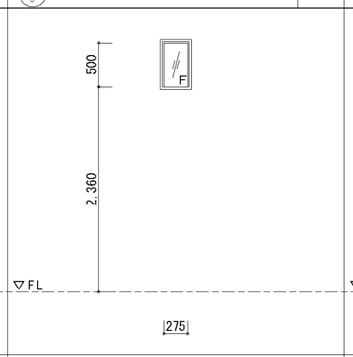
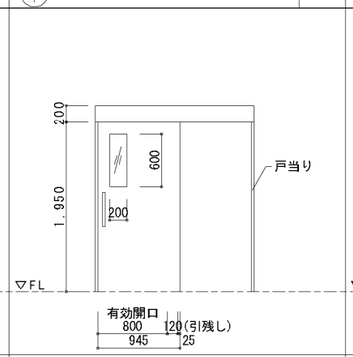
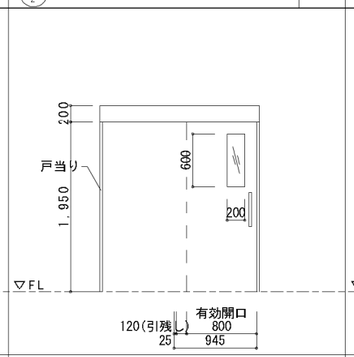
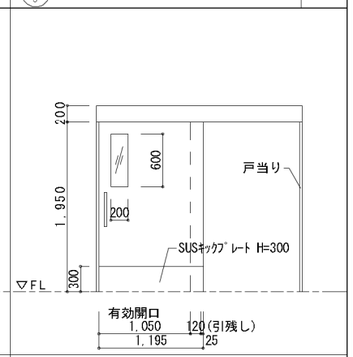
□金物符号
- ＤＣ　ドアクローザー
- ＦＨ　フロアヒンジ
- ＬＨ　ラバトリーヒンジ
- ＰＨ　ピボットヒンジ
- ＯＰ　オペレーター（FL-1,500以下設置）

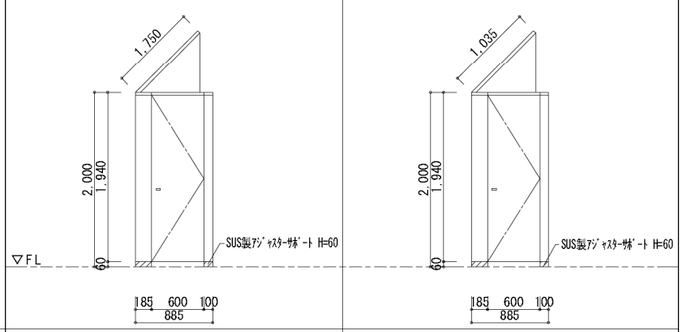
□塗装符号
- ＳＯＰ　合成樹脂調合ペイント塗り
- ＤＰ　耐候性塗料塗り
- ＣＬ　クリアラッカー塗り
- ＯＳ　オイルステイン塗り
- ＮＷＰ　自然素材系木材保護塗料塗り

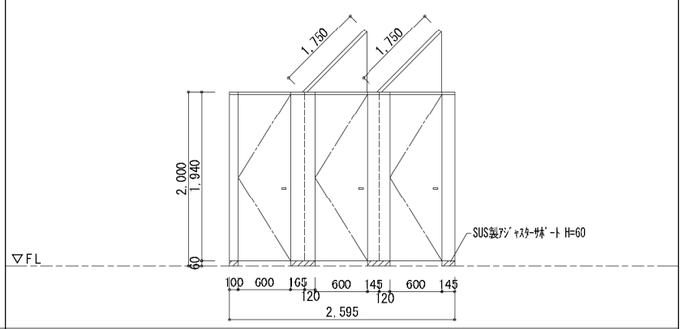
※室内塗料は全てＦ☆☆☆☆とする。

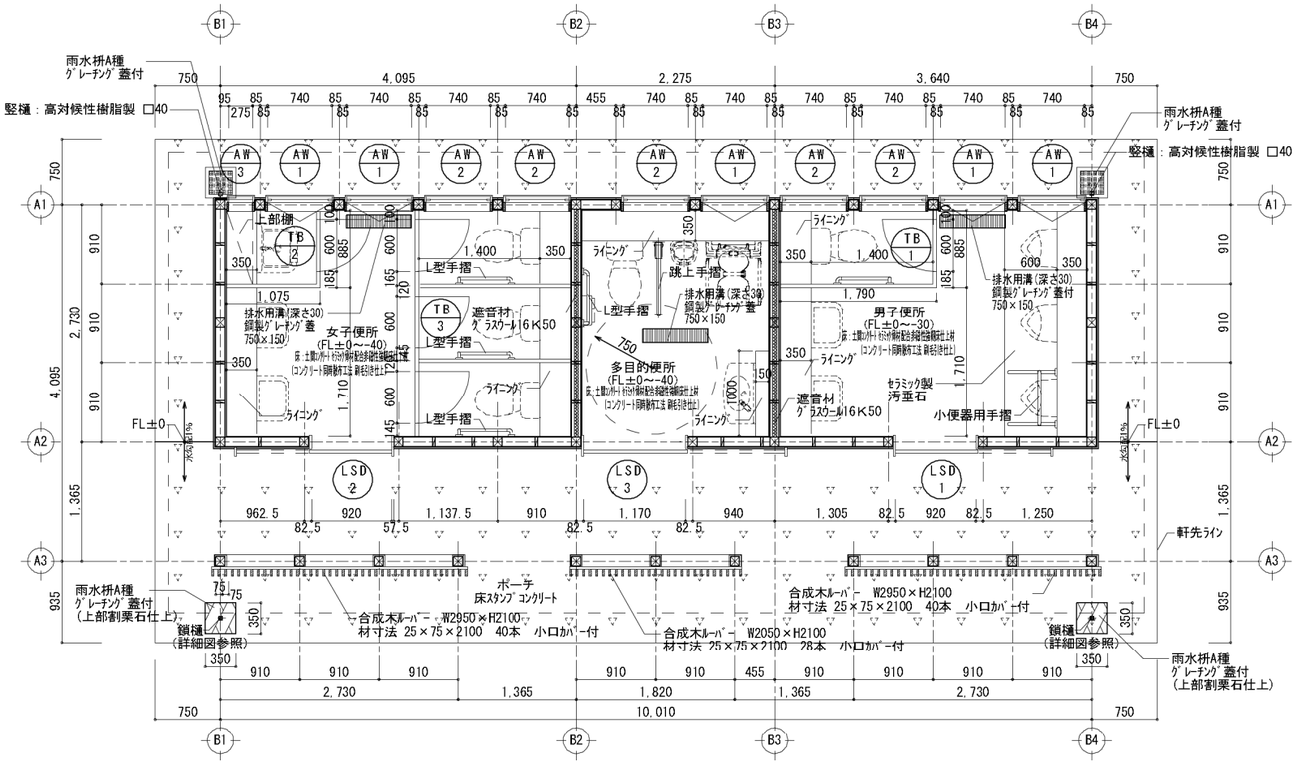
新築建具記号
- 一 数字　一般建具
- 一 数字 防　防火設備
- 一 数字 特　特定防火設備

改修建具記号
- 一 数字 改修　改修建具（改修内容は備考参照）
- 一 数字 塗装　塗装建具
  - アルミ製建具：額縁ＳＯＰ塗替え
  - 木製建具：扉及び枠、額縁ＳＯＰ塗替え
  - 鋼製建具：扉及び枠、額縁塗替え
    - 外部　ＤＰ塗替え
    - 内部　ＳＯＰ塗替え
- 一 数字　新設建具
- 一 数字　カバー工法新設建具
- 一 数字　撤去建具

記号・形式・数量	AW 1 内倒し窓 × 5	AW 2 ＦＩＸ窓 × 5	AW 3 ＦＩＸ窓 × 1	LSD 1 上吊片引き戸(外用) × 1	LSD 2 上吊片引き戸(外用) × 1	LSD 3 上吊片引き戸(外用) × 1
建具形状						
場所	男子便所、女子便所、多目的便所	男子便所、女子便所、多目的便所	女子便所	男子便所	女子便所	多目的便所
枠見込 / 扉見込	70(半外付け)、内部額縁：MDF化粧ｼｰﾄ貼 120×25	70(半外付け)、MDF化粧ｼｰﾄ貼 120×25	70(半外付け)、MDF化粧ｼｰﾄ貼 120×25	扉：40　枠：175	扉：40　枠：175	扉：40　枠：175
材質・仕上	ｱﾙﾐ電解二次着色	ｱﾙﾐ電解二次着色	ｱﾙﾐ電解二次着色	扉：ｶﾗｰ鋼板　枠：DP	扉：ｶﾗｰ鋼板　枠：DP	扉：ｶﾗｰ鋼板　枠：DP
ガラス	合わせｶﾞﾗｽ(FL3+特殊中間膜+FL3)	合わせｶﾞﾗｽ(FL3+特殊中間膜+FL3)	合わせｶﾞﾗｽ(FL3+特殊中間膜+FL3)	ﾎﾟﾘｶ(型ｶﾞﾗｽ調) t3.0	ﾎﾟﾘｶ(型ｶﾞﾗｽ調) t3.0	ﾎﾟﾘｶ(型ｶﾞﾗｽ調) t3.0
金物	開閉用ｱｸｾﾙ棒L-1800(全体で1本)、ﾄｯﾌﾟﾗｯﾁ、倒し角度（大・小）切替えﾌｯｸ、内倒し窓用固定網戸、その他付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	SUS引棒 L=400、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠/ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠 上吊ﾚｰﾙ自閉装置付)、下部ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ、戸当り その他付属金物一式	SUS引棒 L=400、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠/ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠 上吊ﾚｰﾙ自閉装置付)、下部ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ、戸当り その他付属金物一式	SUS引棒 L=400、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠/ｻﾑﾀｰﾝ錠 上吊ﾚｰﾙ自閉装置付)、下部ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ、戸当り その他付属金物一式
備考	木造住宅用サッシ既製品、倒れ角度30°、45°	木造住宅用サッシ既製品	木造住宅用サッシ既製品	外部用	外部用	外部用

記号・形式・数量	TB 1 トイレブース	TB 2 トイレブース
建具形状		
場所	男子便所	女子便所
枠見込 / 扉見込	40	40
材質・仕上	表面材：ﾒﾗﾐﾝ化粧板、芯材：ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ	表面材：ﾒﾗﾐﾝ化粧板、芯材：ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ
ガラス	無し	無し
金物	SUS製ｱｼﾞｬｽﾀｰｻﾎﾟｰﾄ H=60、SUS製笠木、ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ、荷物掛け 表示錠 その他付属金物一式	SUS製ｱｼﾞｬｽﾀｰｻﾎﾟｰﾄ H=60、SUS製笠木、ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ、荷物掛け ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠/ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠 その他付属金物一式
備考	ﾗｲﾆﾝｸﾞ取合部はﾌﾟｰｽ切欠	ﾗｲﾆﾝｸﾞ取合部はﾌﾟｰｽ切欠

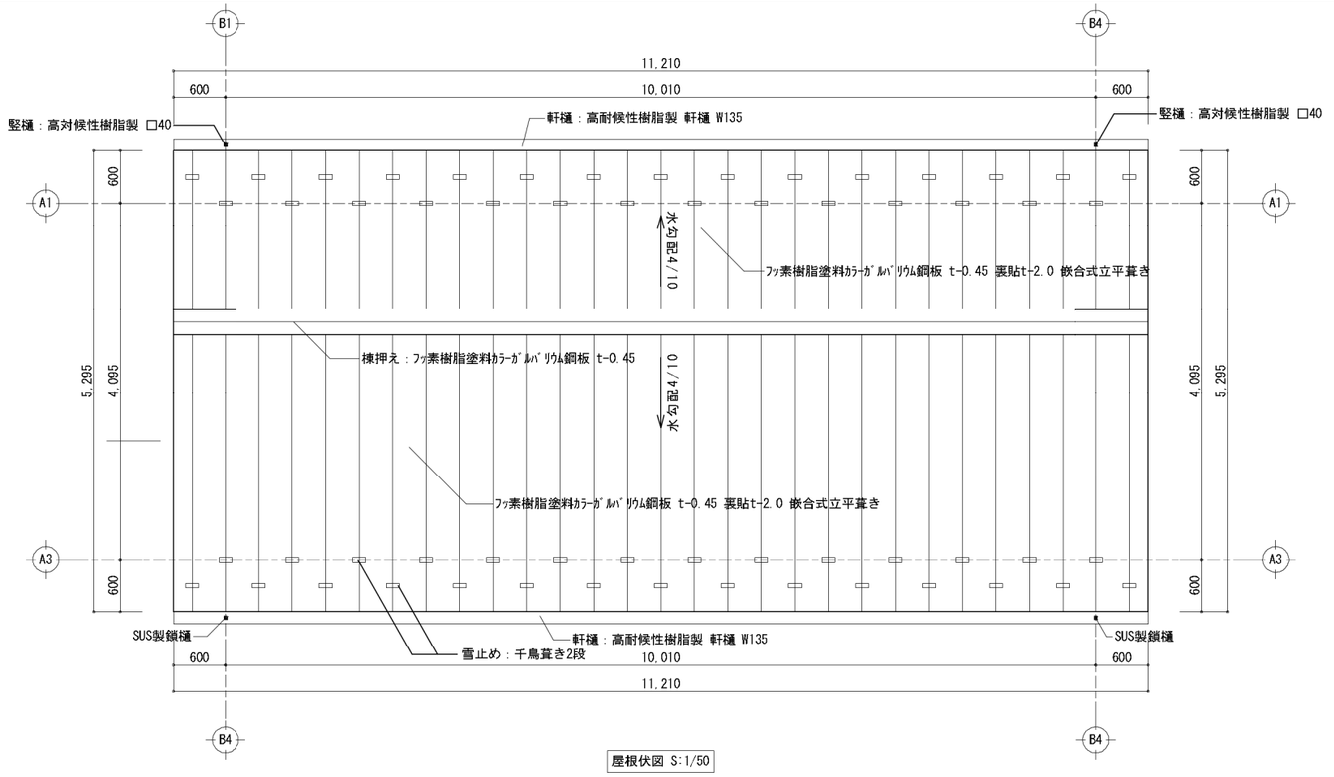
記号・形式・数量	TB 3 トイレブース
建具形状	
場所	女子便所
枠見込 / 扉見込	40
材質・仕上	表面材：ﾒﾗﾐﾝ化粧板、芯材：ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ
ガラス	無し
金物	SUS製ｱｼﾞｬｽﾀｰｻﾎﾟｰﾄ H=60、SUS製笠木、ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ、荷物掛け 表示錠 その他付属金物一式
備考	ﾗｲﾆﾝｸﾞ取合部はﾌﾟｰｽ切欠



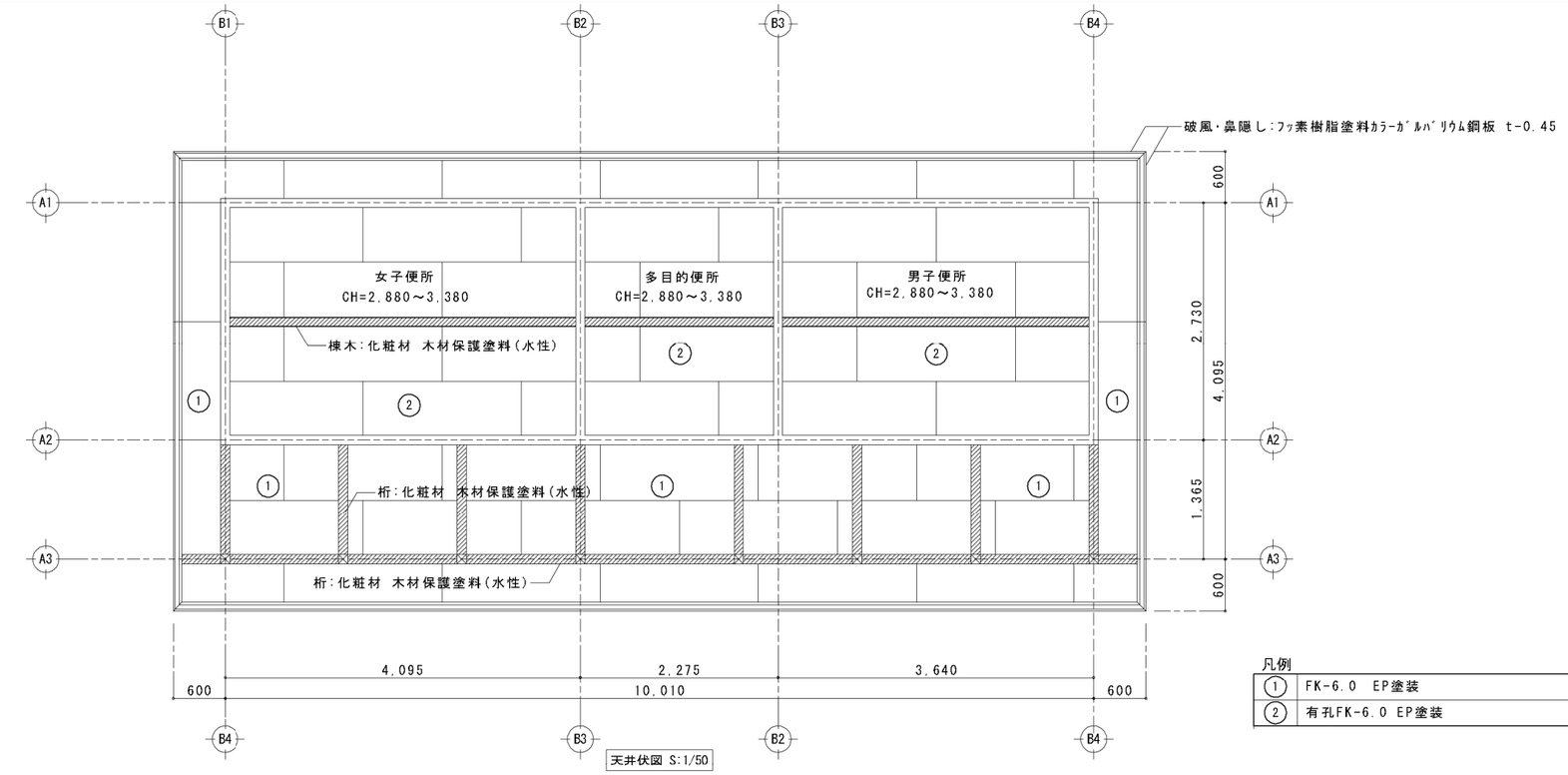
平面詳細図兼建具キープラン S:1/50

凡 例	
	スタンプコンクリート（端部周辺2m程度を表層整地の上すりつけ）
	割栗石　150mm程度

工事名	花渕浜地区被災施設復旧整備事業(公衆用トイレ)　建設工事		図面番号
図面名	平面詳細図兼建具キープラン、建具表	縮尺 A2：1/50	A － 07



屋根伏図 S:1/50

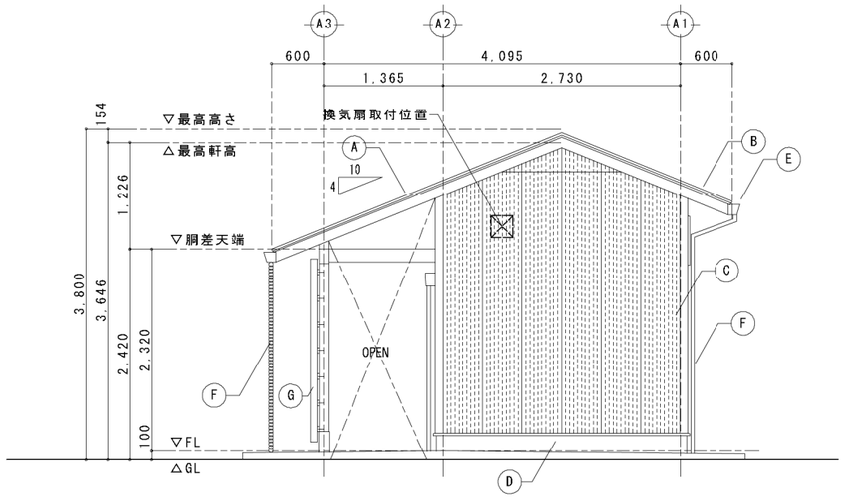


天井伏図 S:1/50

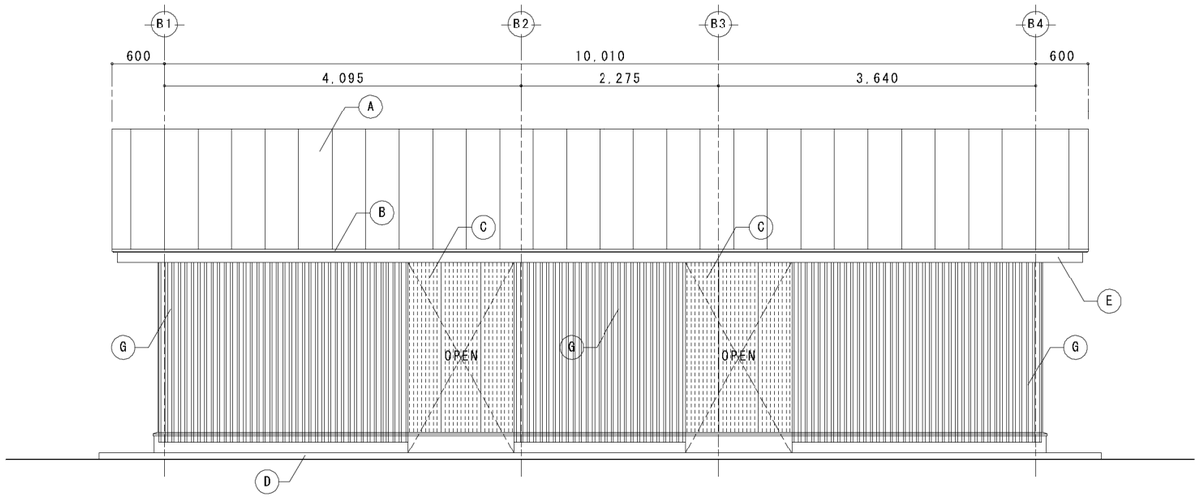
凡例

1	FK-6.0 EP塗装
2	有孔FK-6.0 EP塗装

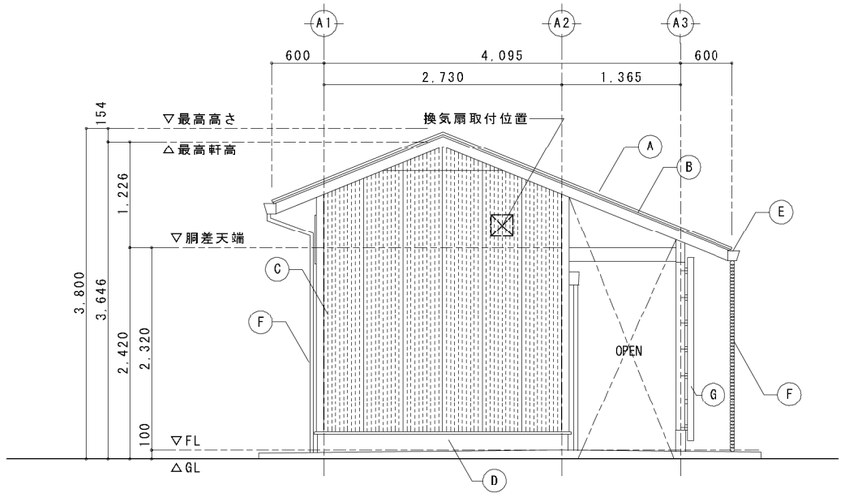
工事名	花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ） 建設工事		図面番号
図面名	屋根伏図、天井伏図	縮尺 A2：1/50	A －08



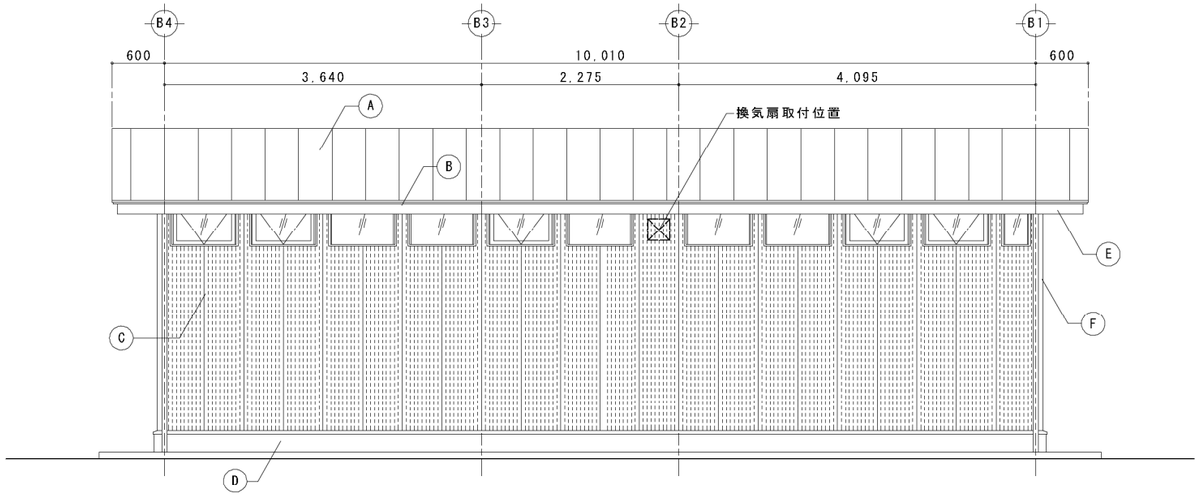
東側立面図　S:1/50



南側立面図　S:1/50



西側立面図　S:1/50

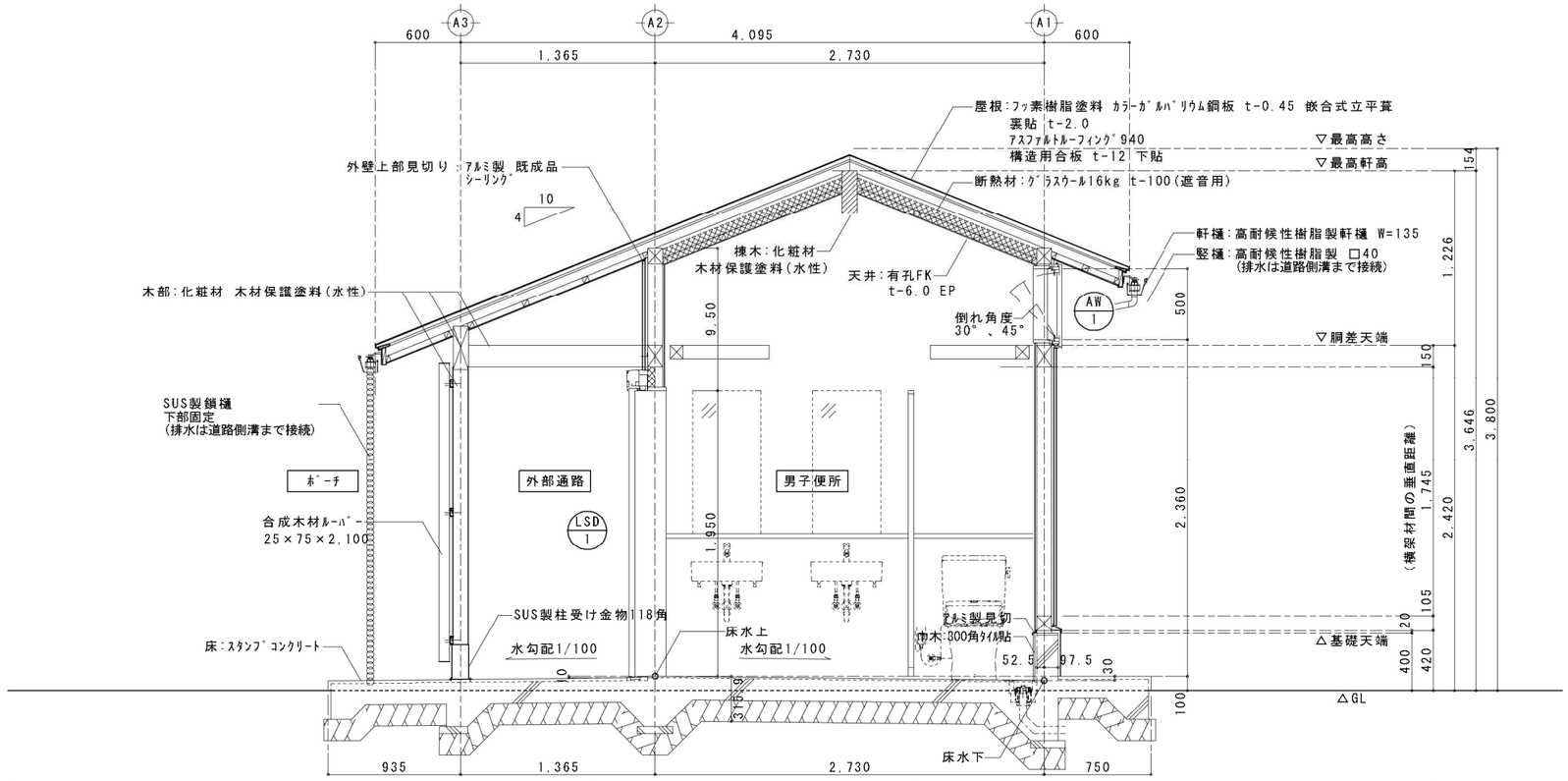


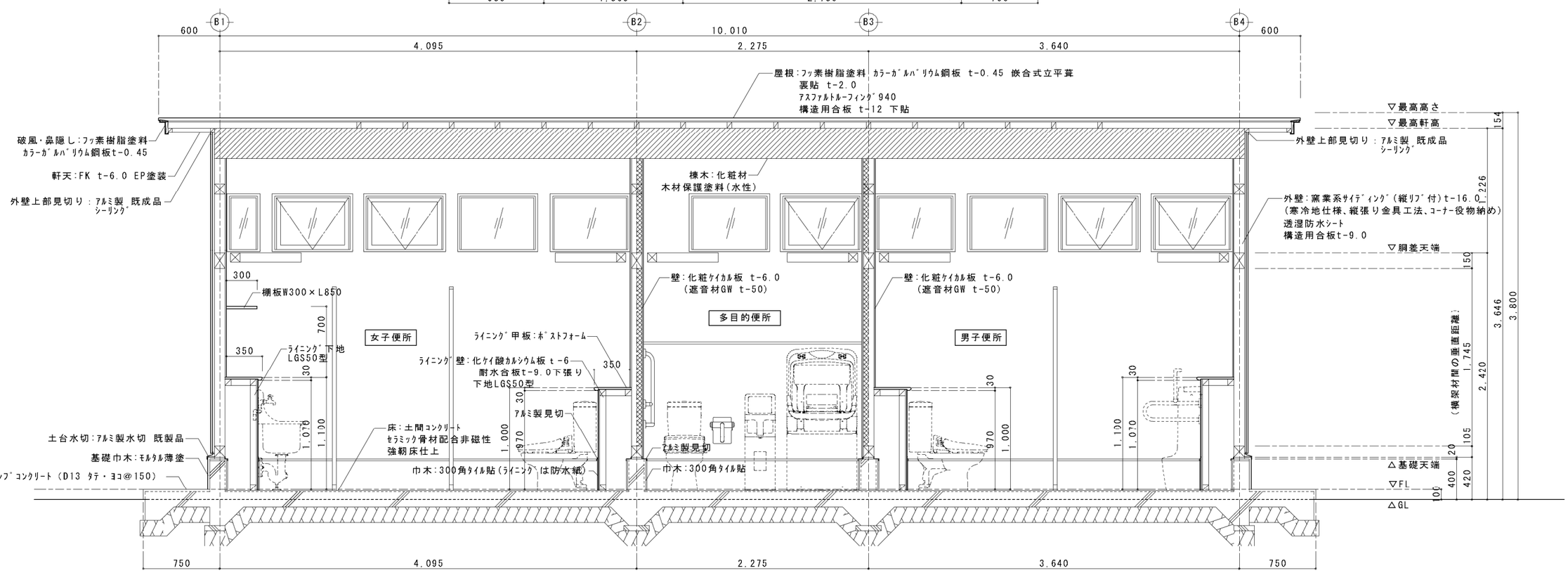
北側立面図　S:1/50

	外部仕上表
A	屋根:ﾌｯ素樹脂ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t-0.45 嵌合立平葺 裏貼 t-2.0、ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ940、構造用合板 t-12.0下張り 雪止:千鳥2段
B	破風・鼻隠しﾌｯ素樹脂ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t-0.45 裏貼 t-2.0
C	外壁:窯業系ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ貼 縦ﾘﾌﾞ付 t-16(寒冷地仕様、縦張り金具工法、ｺｰﾅｰ役物納め) 透湿防水ｼｰﾄ、構造用合板 t-9.0、外壁上部見切り:ｱﾙﾐ製 既成品
D	基礎巾木:ﾓﾙﾀﾙ薄塗
E	軒樋:高耐候性樹脂製軒樋 W=135
F	竪樋:高耐候性樹脂製 □40、SUS製鎖樋
G	合成木材ﾙｰﾊﾞｰ:ｱﾙﾐ芯材入り木粉樹脂混合発泡ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝ高耐候樹脂ｺｰﾃｨﾝｸﾞ (ﾘﾌﾞﾀｲﾌﾟ)25×75×2,100 小口ｶﾊﾞｰ付

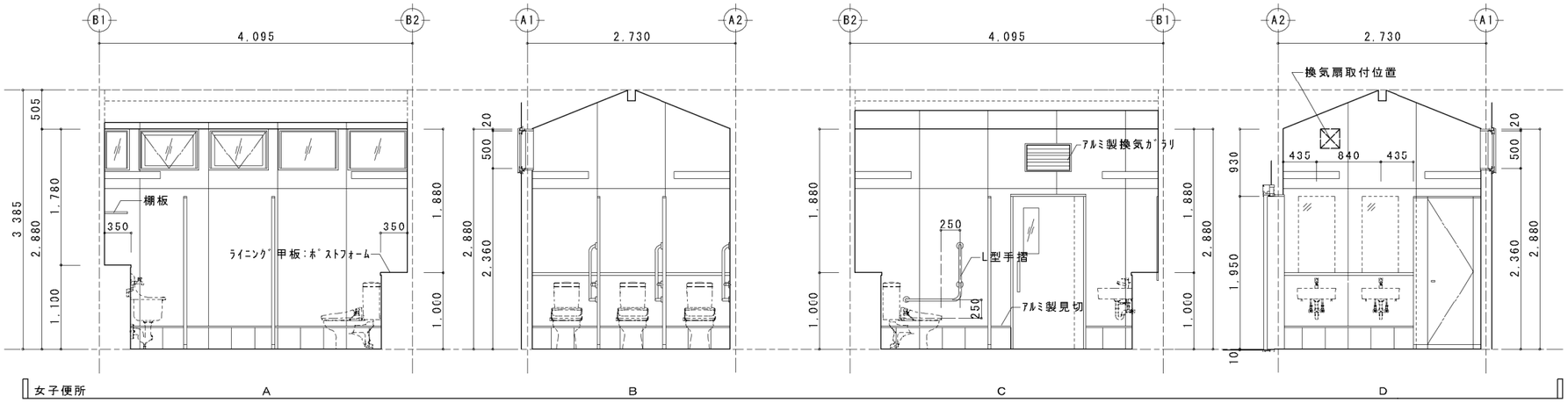
※ｱﾙﾐ製換気ｶﾞﾗﾘ　位置は展開図参照

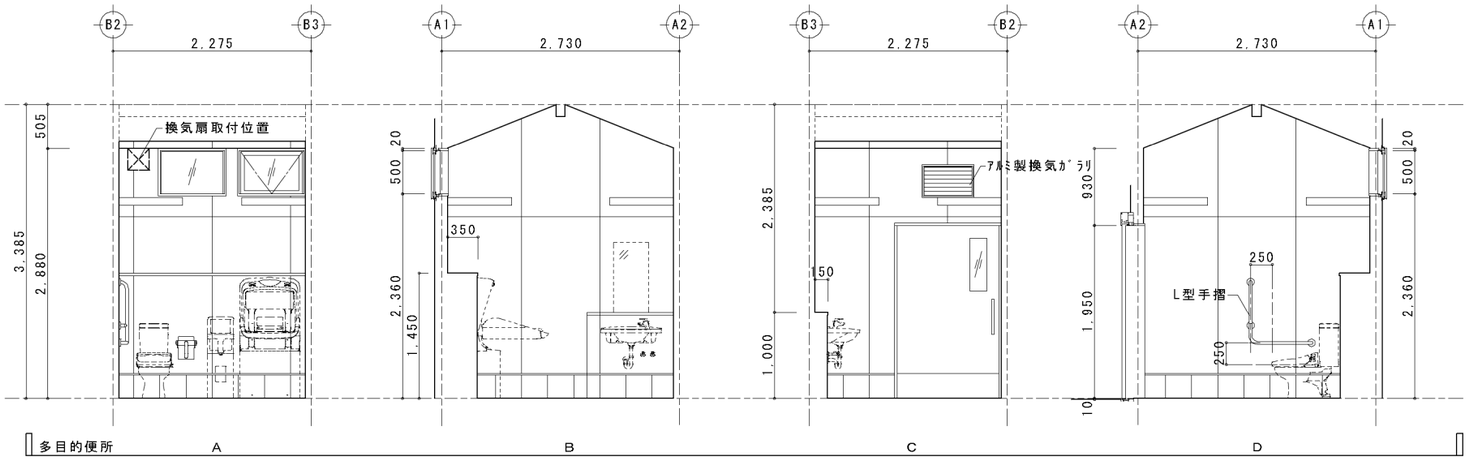
工事名	花渕浜地区被災施設復旧整備事業(公衆用トイレ)　建設工事		図面番号
図面名	立面図	縮尺 A2:1/50	A－09



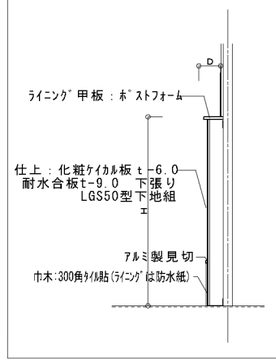


工事名	花渕浜地区被災施設復旧整備事業(公衆用トイレ) 建設工事		図面番号
図面名	矩計図	縮尺 A2：1/30	A－10



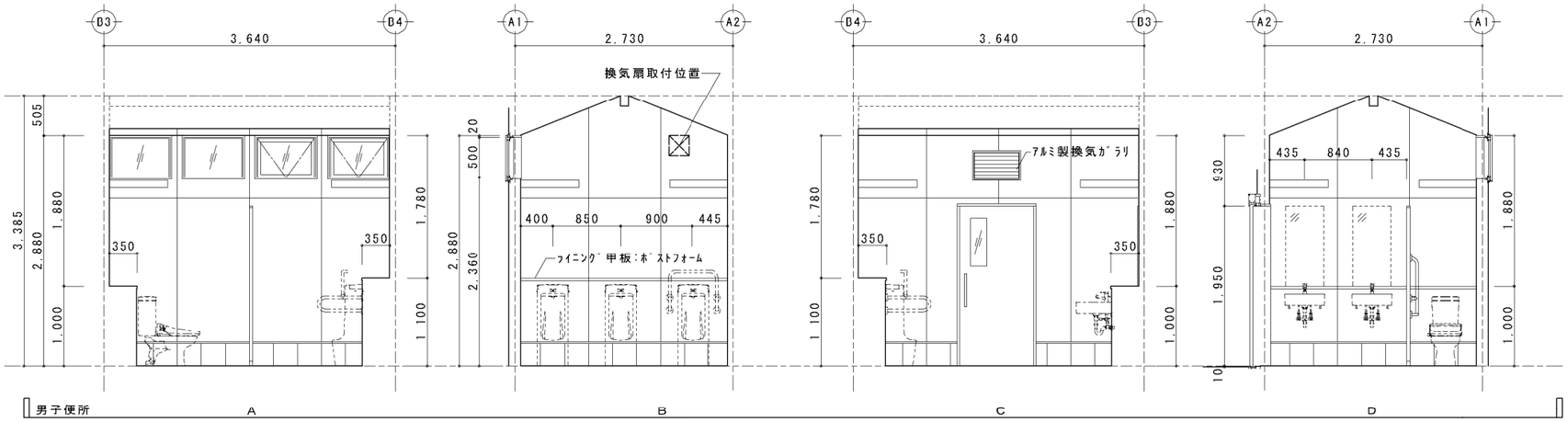


ライニング詳細図 S=1/30



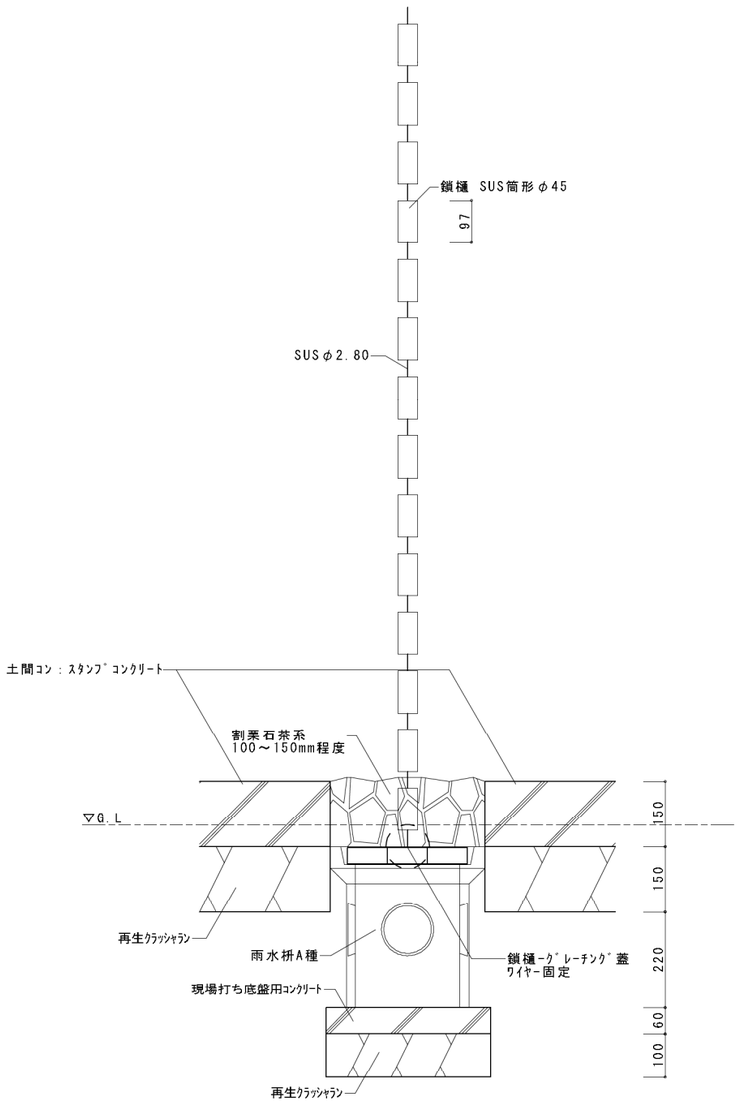
ライニングリスト

階数	室名	W	D	H	数量(か所)
1階	男子便所（小便器）	2600	350	1100	1
	男子便所（手洗い・ブース）	2600	350	1000	1
	女子便所（ブース）	2600	350	1000	1
	女子便所（手洗い）	1700	350	1000	1
	女子便所（流し）	900	350	1100	1
	多目的便所（大便器・おむつ台）	2140	350	1000	1
	多目的便所（手洗い）	1000	150	1450	1



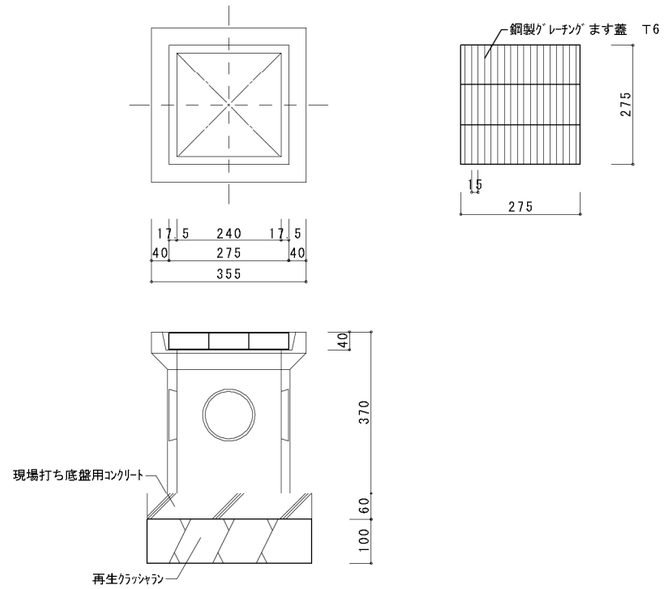
工事名	花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ） 建設工事		図面番号
図面名	展開図	縮尺 A2：1/50	A－11

鎖樋-雨水枡-土間　詳細図　S＝1/10

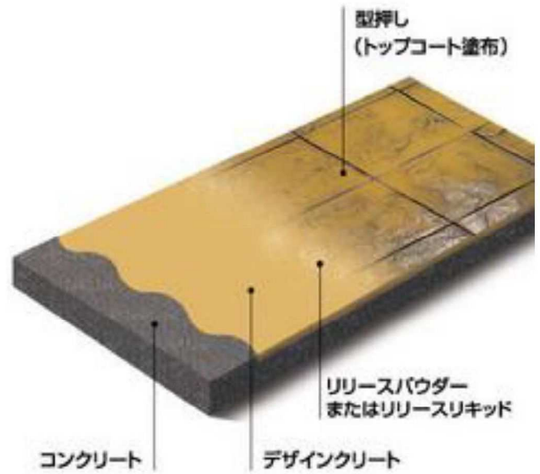


断面図

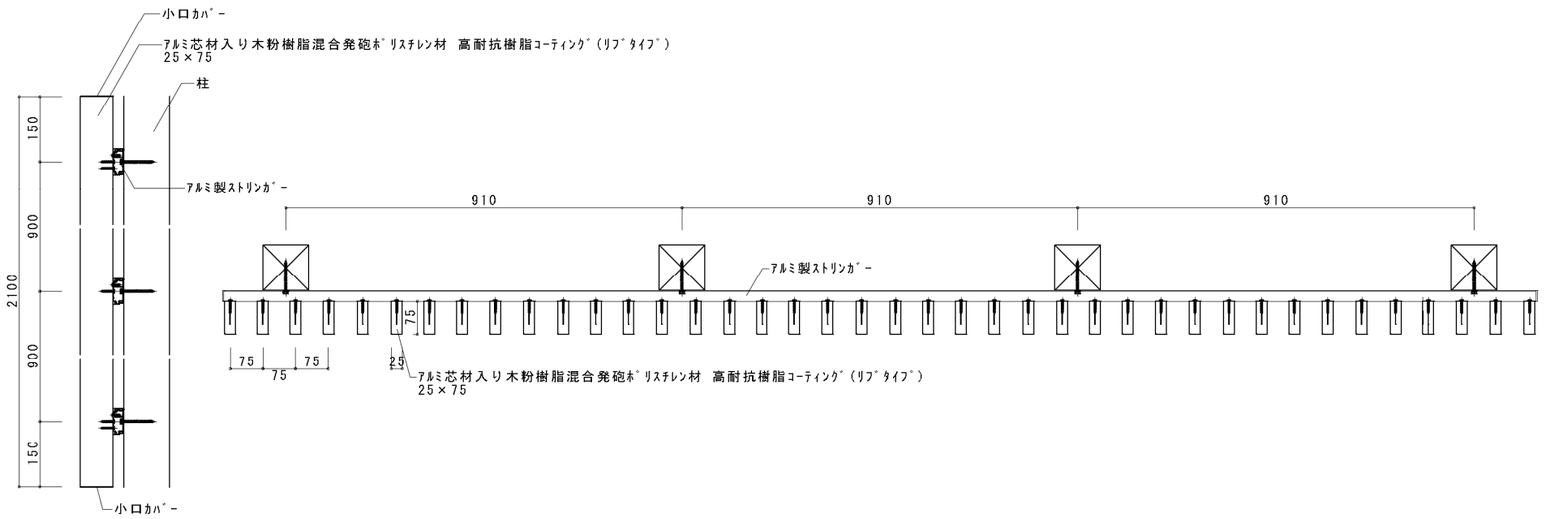
雨水枡A種　詳細図　S＝1/10



スタンプコンクリート　詳細図　S＝NS



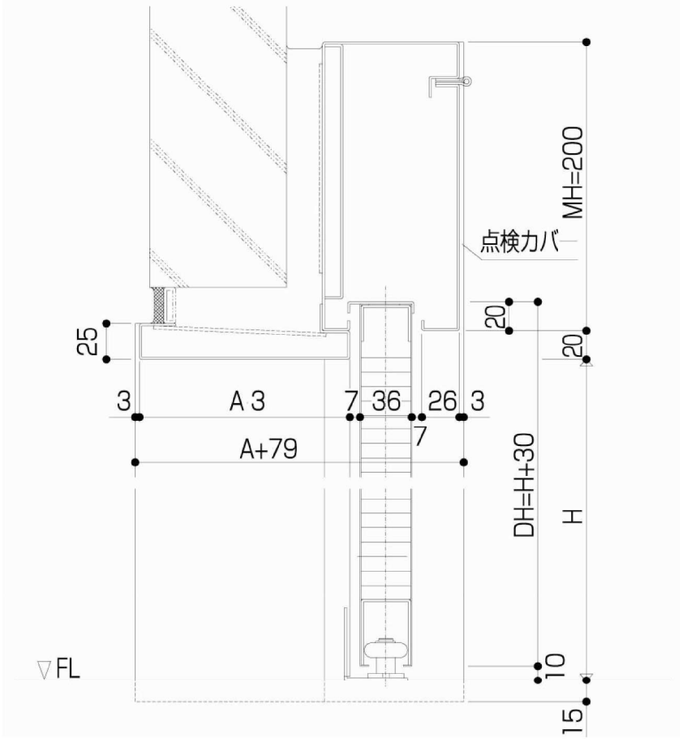
合成木ルーバー　詳細図　※図面はW2950　S＝1/10



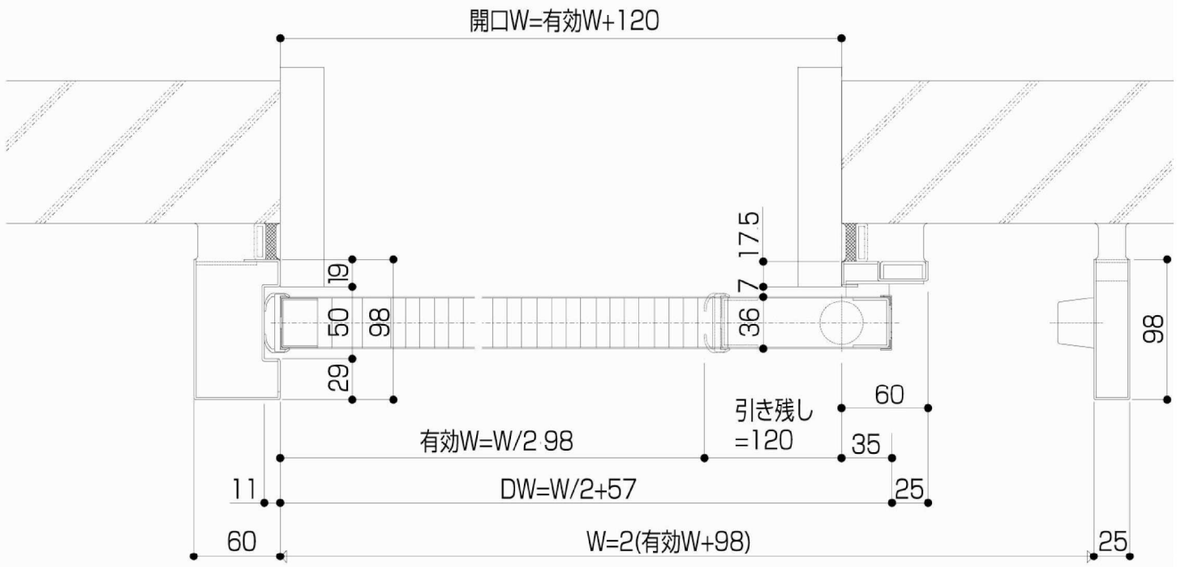
断面図　　平面図

工事名	花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ）　建設工事		図面番号
図面名	雑詳細図	縮尺 A2：各図による	A－12

■三方枠付きタイプ



断面図



平面図

工 事 名	花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ） 建設工事		図面番号
図 面 名	ＬＳＤ（外部用）詳細図【参考図】	縮 尺 A2：1/3	Ａ － １３

特記仕様書　（木工事）　軸組工法

一般事項

本工事における構造の骨組（架構体）,下地骨組,造作,仕上げの木工事に適用する。

特記事項は　■印の付いたものを適用する。

木材の品質
※材種は図面による

1.素材及び製材の品質は、日本農林規格（ＪＡＳ）の規定がある場合は、すべてこの規格に適合したものとする。

2.構造材に用いる製材の品質は、構造用製材のＪＡＳに適合したものまたは製材のＪＡＳで定める１等以上とする。

3.見掛かりの造作用柱,板用製材の品質は、製材のＪＡＳで定める上小節以上のものとし,心持材の場合は背割りを行ったものとする。

4.目視等級区分の針葉樹構造用製材規格については以下の通りＪＡＳによる。

甲種構造材（構造用Ⅰ）	（短辺が9cm未満の横物）	□ 一級	□ 二級	□ 三級
甲種構造材（構造用Ⅱ）	（短辺が9cm以上の横物）	□ 一級	□ 二級	□ 三級
乙種構造材	（柱材など）	□ 一級	□ 二級	□ 三級

５．仕口を固める楔，栓は堅木とする。又層い材は骨組材と同材以上または堅木とする。

６．構造用に用いる集成材は、構造用集成材のJASに適合若しくは化粧ばり集成材のJASに適合するもの 又はこれらと同等以上の性能を有するものとする。

７．各種ボード類

（１）合板の品質は、構造用合板若しくは普通合板等のＪＡＳに適合するもの又はこれらと同等以上の性能を有するものとする。

（２）構造用パネルの品質は、構造用パネルのＪＡＳに適合するもの又はこれらと同等以上の性能を有するものとする。

（３）ハードボード、硬質木片セメント板、シージングボード、石膏ボード、及びラスシートの品質は それぞれの日本工業規格（ＪＩＳ）に適合するもの又はこれらと同等以上の性能を有するものとする。

（４）パーティクルボード、ＭＤＦ（ミディアム・デンシティ・ファイバーボード）の品質は それぞれの日本工業規格（ＪＩＳ）に適合するもの又はこれらと同等以上の性能を有するものとする。

乾　燥

１．木材の工事現場搬入時の含水率は下記による。

２．針葉樹材についてはＪＡＳ区分に準じ、以下の通りとする。

□ 乾燥材　Ｄ２５　　□ 乾燥材　Ｄ２０　　□ 乾燥材　Ｄ１５　　※ 特記なき場合は乾燥材Ｄ２５（含水率２５％以下）とする。

３．天然乾燥材については、乾燥材Ｄ２５（含水率２５％）を目標とし、係員の承諾を得る。

指定寸法

１．木材の寸法については、ＪＡＳに準じて、材長の不足は認めない。断面寸法については下記による。

	ＪＡＳによる乾燥材		未乾燥材		
材の短辺及び長辺	９０mm以上	９０mm未満	９０mm以上	３６mm以上９０mm未満	３６mm未満
表示寸法と許容誤差	±１．５mm	±１．０mm	＋３．０～０mm	＋２．０～０mm	＋１．０～０mm

材料検査

１．構造材については、係員の検査を受けた後施工するものとする。

２．その他の材についてはその都度係員の承諾を得るものとする。

諸金物

土台と基礎や軸組相互の端部などの構造耐力上主要な部分である継手・仕口などは接合金物等を使用し効率よく緊結する。

接合金物は品質及び耐力等の性能が明らかで良質なものを選択する。（Ｚマーク表示金物）及びＺマーク表示金物同等認定品以上とする。

防腐、防虫処理

１．木部の防腐措置及び防蟻措置に使用する薬剤の品質は、特記による。

特記がない場合は、(社)日本しろあり対策協会又は木材保存協会認定の防腐・防蟻剤とする。

２．外部モルタル塗となる下地板等の面は地盤面より高さ1.0ｍまでと、台所,浴室等湿気のある場所の軸組及び下地材が木質の場合も防腐剤塗とする。

防蟻処理

□ 行わない　　□ 行なう　（　　）

部　位

土　台
※材種は図面による

材　種　□ ひのき　□ べいひのき　□ たいわんひのき　□ ひば　□ べいひば　□ こうやまき　□ くり　□ けやき　□ からまつ　□ 保存処理製材　□ 土台用加圧式防腐処理木材　□ その他（　　）

工　法

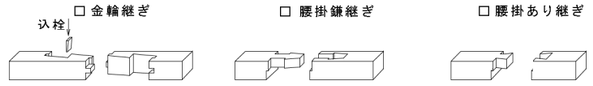
１，断面寸法は柱と同じ寸法以上とし１２０mm×１２０mmを標準とする。ただし、多雪区域内（「建築基準法施行令第８６条第２項ただし書の規定より特定行政庁が指定する区域」以下同じ）においては １２０mm×１２０mm以上とする。

２，継手は、柱及び床下換気孔の位置は避ける。

仕　口　□ 襟輪小根柄差し　□ 片蟻掛け　□ 大入れ蟻掛け　□ 大入れ柄差し　□ その他（　　）

継　手

□ 金輪継ぎ　□ 腰掛鎌継ぎ　□ 腰掛あり継ぎ　□ その他（　　）



部　位

火打土台
※材種は図面による

材　種　□ ひのき　□ べいひのき　□ たいわんひのき　□ ひば　□ べいひば　□ からまつ　□ べいまつ　□ 火打金物

工　法　火打土台は次のいずれかによる。

1.木材の火打土台とする場合は、次による。

イ.断面寸法は45mm×90mm以上とする。

2.鋼製火打とする場合は、特記による。

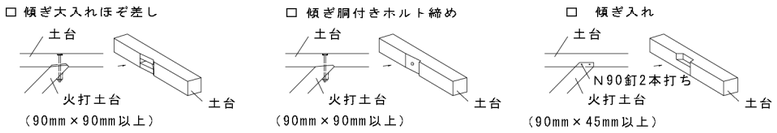
3.火打土台を省略する場合は、下記による。

イ.床下地板の品質は、構造用合板のＪＡＳに適合するもので種類は1類とし厚さ12mm以上、パーティクルボードのＪＩＳに適合するもので種類は13Ｐまたは13Ｍ以上とし厚さ15mm以上、又は構造用パネルのＪＡＳに適合するものとする。

ロ.床下地板の張り方は、床下地板の長手方向を根太と直交させ、且つ千鳥張りとし土台及び大引に20mm以上のせて釘打ちとする。床下地板は根太等の受け材上で突付継ぎとする。

ハ.床下地材の釘打ちは床下地材の4周辺をＮ50釘を用い釘打ち間隔150mm以下で、根太、大引、土台及び受け材に平打ちして固定する。

仕　口



床　組

大　引
※材種は図面による

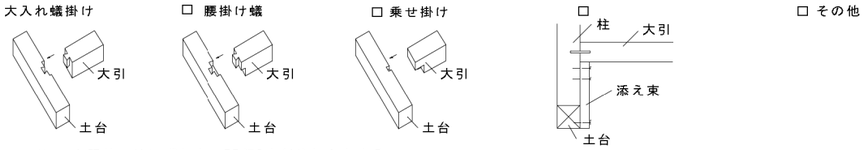
材　種　□ ひのき　□ べいひのき　□ たいわんひのき　□ すぎ　□ べいまつ　□ あかまつ　□ くろまつ　□ からまつ　□ べいつが　□ その他（　　）

工　法

１，断面寸法は１０５mm×１０５mmを標準とする。

２，継手は、床束芯から150mm内外持ち出し、Ｎ75釘2本打ちとする。

仕　口



註　上記仕口はいずれもＮ75釘2本斜め打ちとする。

継　手　□ 腰掛あり継ぎ　□ 相欠き継ぎ　□ その他

床　束
※材種は図面による

材　種　□ ひのき　□ べいひのき　□ たいわんひのき　□ すぎ　□ べいまつ　□ あかまつ　□ くろまつ　□ からまつ　□ べいつが　□ 鋼製束　□ 合成樹脂製束

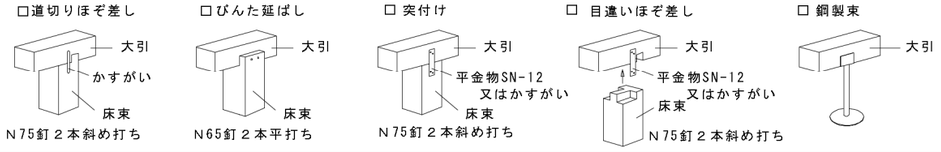
工　法

１，断面寸法は90mm×90mmを標準とする。

２，継手は、上部仕口は、補強金物にて緊結する。

３，鋼製・合成樹脂製等の束とする場合は、各製造所の仕様による。

仕　口



根　太

材　種　□ すぎ　□ ひのき　□ べいまつ　□ あかまつ　□ くろまつ　□ からまつ　□ べいつが　□ その他（　　）

工　法

１，断面寸法は45mm×45mmを標準とする。ただし、２階床の床梁間隔が900mm内外の場合は45mm×60mm以上とし、また２階梁間隔又は１階大引間隔がそれぞれ1.800mm内外の場合は45mm×105mm間隔を標準とする。

２，根太間隔は、畳床の場合は450mm内外とし、その他の場合は300mm内外とする。

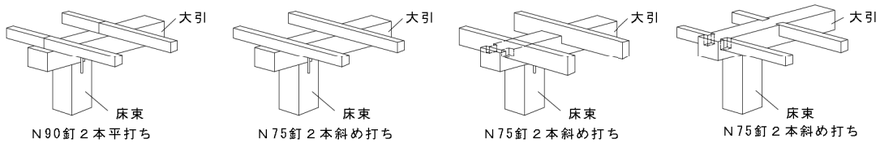
工事名	花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ）　建設工事		図面番号
図面名	木造（軸組工法）特記仕様書（1）	縮尺 A2：NS	S － 01

特記仕様書　（木工事）　軸組工法

部　位	

継　手

□ 突付け継ぎ　□ 置き渡し　□ 渡あご掛け　□ 大入れ落しこみ　□ 根太受け金物



根太掛け

材　種　□ すぎ　□ べいまつ　□ あかまつ　□ くろまつ　□ からまつ　□ べいつが　□ その他（　　）

工　法

1，断面寸法は30mm×90mmを標準とする。

2，継手は、柱芯で突付け継ぎとし、N75釘2本を平打ちとする。

3，留めつけは、柱,間柱当たりにN75釘２本を平打ちする。

柱
※材種は図面による

材　種　（見えがかり）　□ すぎ　□ ひのき　□ べいつが　□ 化粧貼構造用集成材　□　□

（見え隠れ）　□ ひのき　□ べいつが　□　□　□　□

工　法

1，柱の断面寸法は１２０mm×１２０mmを標準とする。

2，通し柱の断面寸法は、120mm×120mmを標準とする。

3，横架材との仕口は、特記なき限り上下とも長柄差し込み栓打ちとする。

4，隅柱の下部は、特記なき限り短ほぞ差しとし、かど金物(CP･L)当て釘打ちとする。

5，筋かいの下端部が取り付く柱と横架材との仕口は柱の上下とも長ほぞ差しとし、込み栓打ちとする。

6，隅柱と土台との仕口は特記による。ただし、筋かいの取付隅柱については別に特記する。

間　柱
※材種は図面による

材　種　□ すぎ　□ ひのき　□ べいまつ　□ あかまつ　□ くろまつ　□ からまつ　□ べいつが　□ その他（　　）

工　法

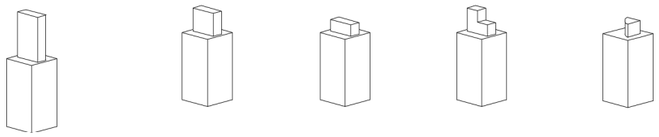
1，横架材との仕口は、上部ほぞ差し下部突付けとし、下部はN75釘2本を斜め打ちする。

2，筋かい当たりは、間柱を欠き、N75釘2本を平打ちする。

3，通し貫当たりは、添付てN65釘2本を平打ちする。

仕　口

□ 長 ほ ぞ　□ 平 ほ ぞ　□ 短 ほ ぞ　□ 小根ほぞ　□ 扇 ほ ぞ　□ 認定仕口金物



２階床梁
胴　差
け　た
※材種は図面による

材 種　□ ひのき　□ べいひのき　□ たいわんひのき　□ あかまつ　□ くろまつ　□ からまつ　□ べいまつ　□ べいつが

□　□

工　法

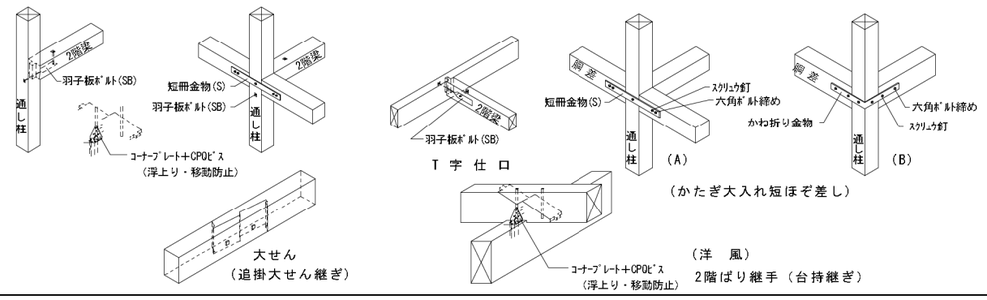
1，断面寸法は、荷重の状態、スパン、梁間隔等を勘案して構造計算等により適切なもの特記する。

2，継手は梁を受ける柱間を避け、柱より150mm内外持ち出した位置に設ける。(短冊金物両面＋M12にて補強)

3，横架材の中央部分付近の下側に耐力上支障のある欠込みをしてはならない。

4，柱又は、横架材との仕口部分は補強金物にて緊結する。

仕　口



継　手

大せん
（追掛大せん継ぎ）

火打梁
※材種は図面による

材　種　□ ひのき　□ べいひのき　□ たいわんひのき　□ ひば　□ べいひば　□ からまつ　□ べいまつ

□ 火打金物　□ 杉

工　法　火打梁は次のいずれかによる。

1.木材の火打梁とする場合は、次による。

イ.断面寸法は90mm×90mm以上とする。

ロ. 梁・胴差・桁等との仕口は、傾ぎ大入れとし、六角ボルト閉めとする。

但し、梁・胴差・桁等の上端又は下端に取付ける場合は、渡りあご又はすべりあごとしいずれも六角ボルト締めとする。

2.鋼製火打とする場合は、特記による。

3.火打梁を省略する場合は、火打土台の項に準じる。

筋かい
耐力壁
※材種は図面による

材　種　□ すぎ　□ べいつが　□ 構造用合板7.5mm以上　□ 構造用パネル　□ パーティクルボード12mm以上　□ ハードボード5mm以上

□ その他（　　）

筋かいによる耐力壁

木造筋かい　1.断面寸法は30mm×90mm以上とする。

2.見付け平使いとし、上下端部の仕口は告示１４６０号に適合した方法とする。

3.筋かいが間柱と取り合う部分は、間柱を筋かいの厚さだけ欠きとって筋かいを通す。

大壁造の面材耐力壁

1.面材による耐力壁は、面材の種類により釘の種類・間隔が異なるので、告示1100号に適合していることを確認する。

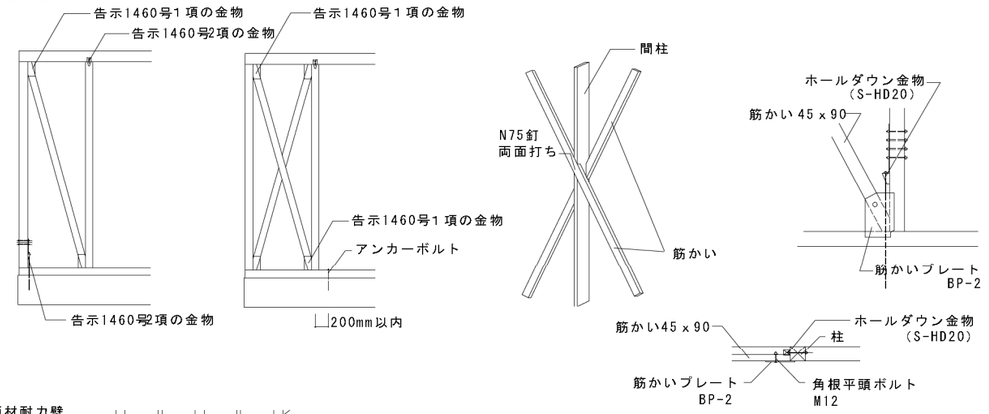
2.柱と横架材の接合部は、特記なき限り　告示１４６０号による金物等により補強する。

3.構造用面材は横張り又は縦張りとする場合で、やむをえず、梁，柱等以外で継ぐ場合は、断面は４５mm×１００mm以上とする。

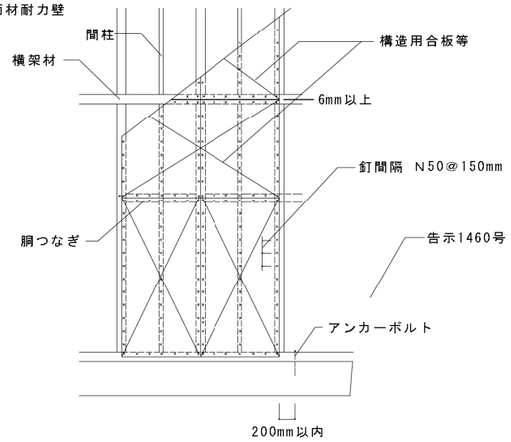
4.構造用合板については、屋外に面する壁、及び常時湿潤状態になる恐れのある壁には「特類」を使用し、「１類」は室内に使用する。

5.１階及び２階部の上下同位置に構造用面材の耐力壁を設ける場合は、胴差部において、構造用面材相互間に、６mm以上のあきを設ける。

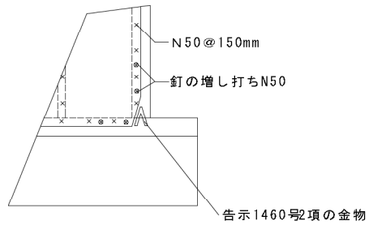
筋かいによる耐力壁



大壁造の面材耐力壁



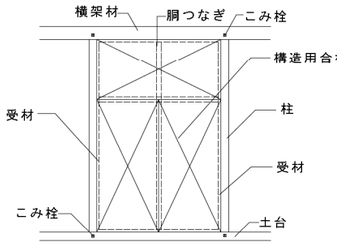
大壁造の面材耐力壁において、面材の四隅を切り欠いて山形プレートを柱と横架材に直接釘打ちする場合は下図のように近傍に釘の増し打ちをする。



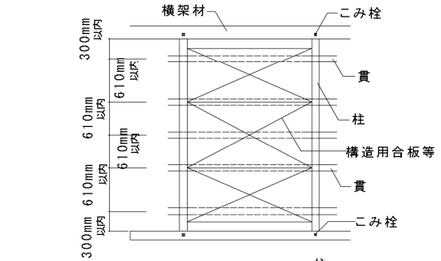
工 事 名	花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ）　建設工事		図面番号
図 面 名	木造（軸組工法）特記仕様書（2）	縮 尺 A2：NS	S － 02

特記仕様書　（木工事）　軸組工法

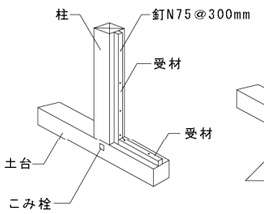
部　位	
耐力壁 ※材種は図面による	真壁造の面材耐力壁 1. 面材による耐力壁は、面材の種類により釘の種類・間隔が異なるので、告示1100号に適合していることを確認する。 2. 柱と横架材の接合部は、特記なき限り　告示１４６０号による金物等により補強する。 （受材タイプ） 1. 受材は30mm x 40mm以上とする。 2. 受材は、柱及び梁、桁、土台、その他の横架材にN75以上の釘を30ｃｍ以下の間隔で平打ちとする。 3. 構造用面材は、受け材並びに間柱及び胴つなぎ等に留めつける。 4. 構造用面材を受材以外で継ぐ場合は、間柱又は胴つなぎ等の断面は45mm x 65mm以上とする。 （貫タイプ） 1. 貫は15mm x 90mm以上とする。 2. 貫は5本以上設ける。 3. 最上段の貫とその直上の横架材との間隔及び最下段の貫とその直下の横架材との間隔は、概ね30cm以下とし、その他の貫の間隔は61cm以下とする。 4. 貫を柱に差し通す場合は、両面からくさび締め又は釘打ちとする。 5. 貫の継手は、おおむね柱心で突付けとする。 6. 柱との仕口は、柱の径の1/2程度差し込みくさび締め又は釘打ちとする。 7. 構造用面材は、貫に確実に留めつける。 8. 構造用面材を継ぐ場合は、貫上で行なう。
接合金物	筋かい端部の接合　（告示　１４６０号１項） イ. 径９mmの鉄筋　柱又は、横架材（柱や土台）貫通し、三角座金を介してナット締め、鋼板添え板を用い 柱又は横架材にＪＩＳ規定鉄丸釘ＣＮ９０を８本以上打ち付けたもの。 ロ. １．５cm×９cmの木材の筋かい　柱及び横架材を欠き込み、柱及び横架材の双方にＪＩＳ規定鉄丸釘Ｎ６５を５本以上　平打ちしたもの。 ハ. ３cm×９cmの木材の筋かい　厚さ１．６mm以上の鋼板添え板を用い、筋かいに対して径１２mm以上のボルト及び 釘３本平打ち、柱に対して釘３本平打ち、横架材に対して釘４本平打ちしたもの。 二. ４．５cm×９cmの木材の筋かい　厚さ２．２mm以上の鋼板添え板を用い、筋かいに対して径１２mm以上のボルト及び長さ５０mm以上のスクリュー釘 ７本平打ち、柱及び横架材に対してそれぞれ長さ５０mm以上のスクリュー釘５本平打ちしたもの。 ホ. ９cm×９cmの木材の筋かい　柱又は横架材に、ＪＩＳ強度区分４．６の径１２mmのボルトを用いて一面せん断接合とすること。

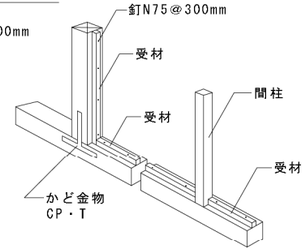


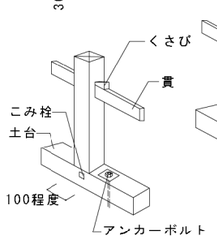
（受材タイプ）

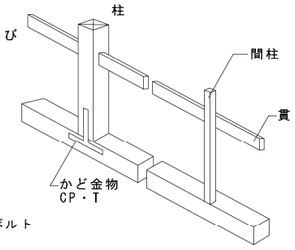


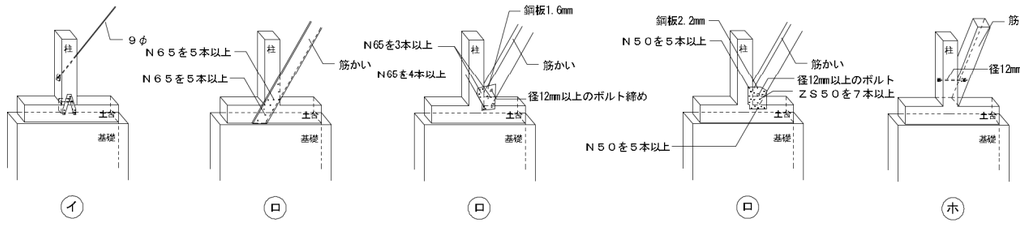
（貫タイプ）



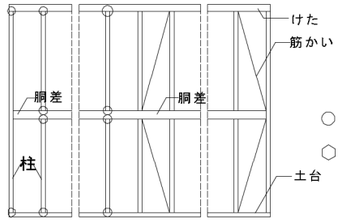


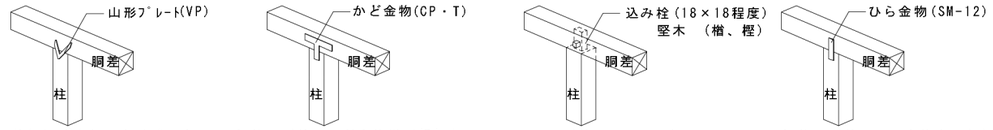


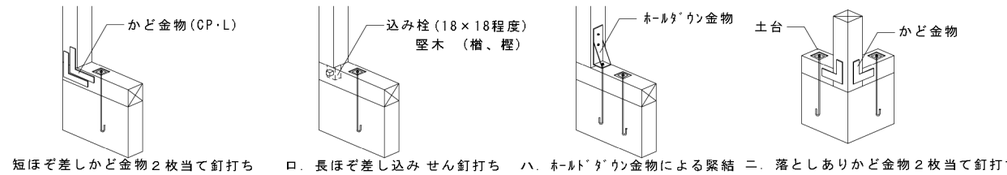


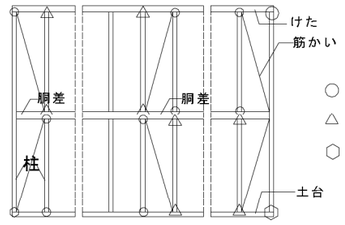


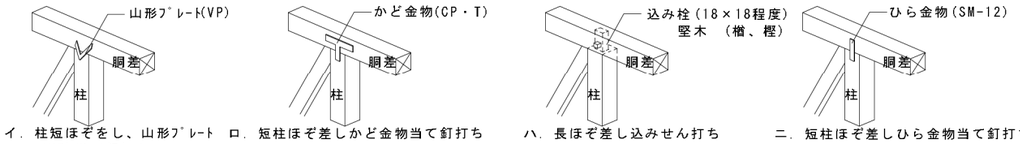
部　位	
接合金物	接合金物使用条件　接合金物の取付・施工は、平成１２年建設省告示代１４６０号を順守し施工する。 接合金物は、Ｚマーク表示金物、又はＺマーク表示金物同等認定品とする。 筋かい接合金物は、建設省告示１４６０号対応金物の内より筋かい寸法に合わせ、納まりを考慮し最良のものを使用する。
柱と横架材	仕口の分類 （筋かいが取り付かない柱の場合） ○：筋かいの取り付かない柱と横架材の仕口位置 ⬡：筋かいの取り付かない隅柱と横架材の仕口位置 柱の端部と横架材の仕口の施工例（筋かいの取り付く柱は除く） イ. 柱短ほぞをし、山形ﾌﾟﾚｰﾄ(VP)当て釘打ち　ロ. 短柱ほぞ差しかど金物当て釘打ち　ハ. 長ほぞ差し込みせん打ち　ニ. 短柱ほぞ差しひら金物当て釘打ち 隅柱と土台の仕口の施工例（筋かいの取り付く柱は除く） イ. 短ほぞ差しかど金物２枚当て釘打ち　ロ. 長ほぞ差し込み せん釘打ち　ハ. ﾎｰﾙﾄﾞﾀﾞｳﾝ金物による緊結　ニ. 落としありかど金物２枚当て釘打ち 仕口の分類 （筋かいが取り付く柱の場合） ○：筋かいの上端部が取り付く柱と横架材の仕口位置 △：筋かいの下端部が取り付く柱と横架材の仕口位置 ⬡：筋かいの取り付く隅柱と土台の仕口位置 １階管柱と２階の柱の緊結 外周部の主要な隅角部の柱及び構造計算による引き抜き応力が大きい２階の柱は、１階の管柱と接合 金物（ホールドダウン金物）で緊結する。 柱の両端部と横架材の仕口の施工例（筋かいの取り付く柱） イ. 柱短ほぞをし、山形ﾌﾟﾚｰﾄ(VP)当て釘打ち　ロ. 短柱ほぞ差しかど金物当て釘打ち　ハ. 長ほぞ差し込みせん打ち　ニ. 短柱ほぞ差しひら金物当て釘打ち イ. 柱短ほぞをし、山形ﾌﾟﾚｰﾄ(VP)当て釘打ち　ロ. 短柱ほぞ差しかど金物当て釘打ち　ハ. 長ほぞ差し込みせん打ち　ニ. 短柱ほぞ差しひら金物当て釘打ち

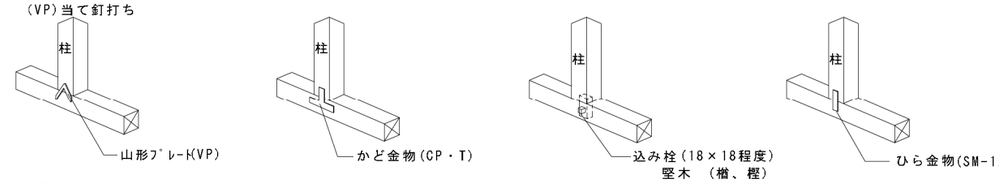












工 事 名	花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ）　建設工事		図面番号
図 面 名	木造（軸組工法）特記仕様書(3)	縮 尺 A2：NS	S － 03

特記仕様書　（木工事）　軸組工法

部　位	
接合金物	隅柱と土台の仕口の施工例（筋かいの取り付く柱） 柱頭・柱脚の仕口の接合（告示　１４６０号２項）
金　物	

イ．短ほぞ差しかど金物２枚当て釘打ち　　ロ．ホールドダウン金物による緊結　　ハ．落としありかど金物２枚 当て釘打ち

かすがい　　かど金物　ＣＰ・Ｌ　太め釘　ＺＮ65　10本　　山型　プレート　ＶＰ　太め釘　ＺＮ90　8本

上端箇所金物施工箇所標準図

２階隅柱緊結金物施工箇所標準図　　中間箇所金物施工箇所標準図

かすがい　　かど金物　ＣＰ・Ｌ　太め釘　ＺＮ65　10本　　山型　プレート　ＶＰ　太め釘　ＺＮ90　8本　　両引き羽子板金物（Ｌ型　羽子板金物）　柱・・・六角ボルト　Ｍ12　六角ナット　Ｍ12　バネ付丸座金　Ｗ4.５　土台・・丸座金付ボルト　Ｍ12　六角ナット　Ｍ12　バネ付丸座金　Ｗ4.５　　ホールダウン金物　Ｓ-ＨＤ10　柱・・・フラット角板ボルト　Ｍ12×2本　六角ナット　Ｍ12×2個　フラット丸座金　×2枚　土台・・角座金付ボルト　Ｍ16　六角ナット　Ｍ16

基礎・土台部分金物施工箇所標準図

部　位	
金　物	

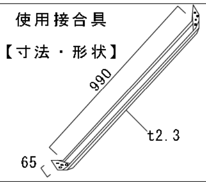
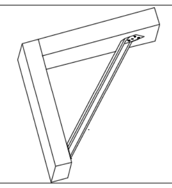
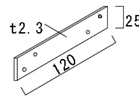
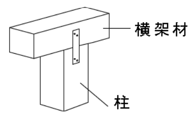
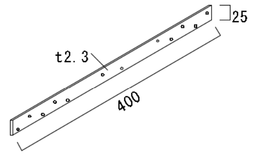
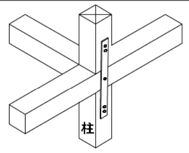
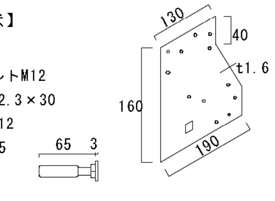
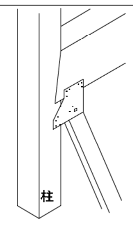
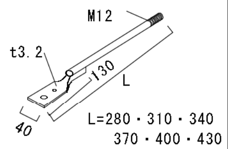
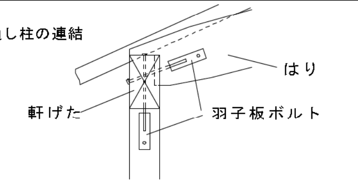
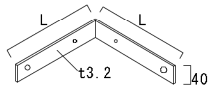
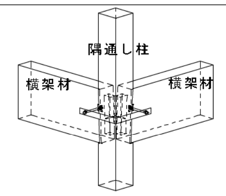
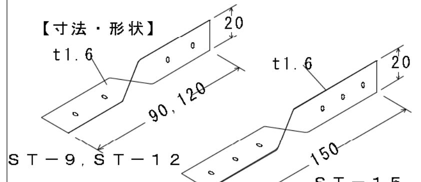
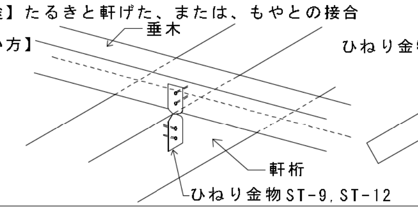
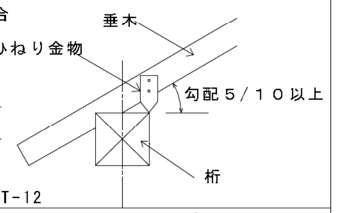
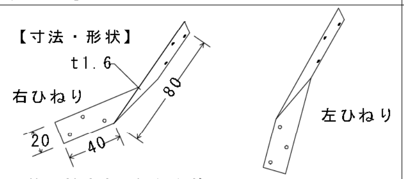
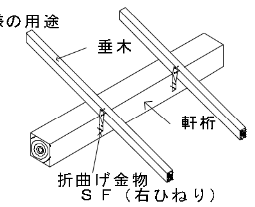
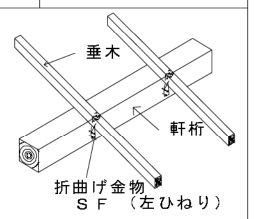
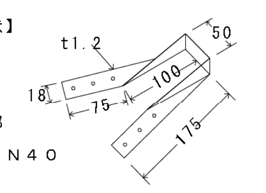
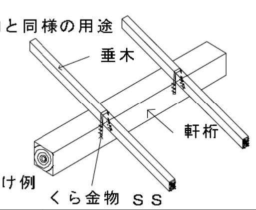
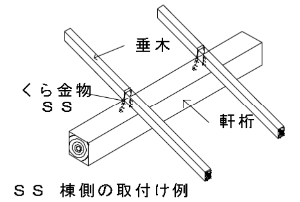
２階隅通し柱・胴差緊結金物施工箇所標準図　　通し柱・胴差 緊結金物施工箇所標準図

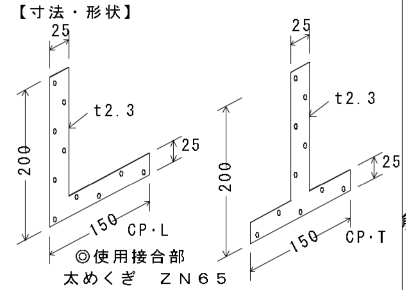
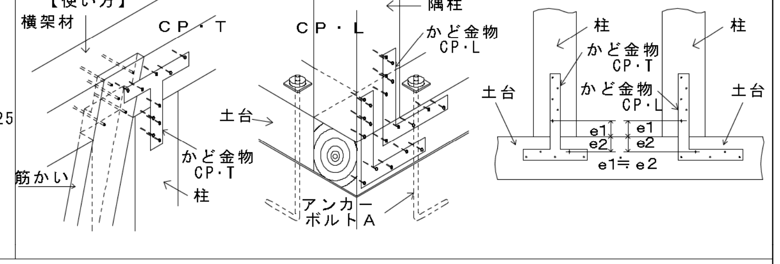
ホールダウン金物　Ｓ－ＨＤ15×2　　ホールダウン金物　Ｓ－ＨＤ20×2　　ホールダウン金物　Ｓ－ＨＤ25×2

ホールダウン金物　Ｓ－ＨＤ15　　ホールダウン金物　Ｓ－ＨＤ20　　ホールダウン金物　Ｓ－ＨＤ25

工　事　名	花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ）　建設工事	図面番号
図　面　名	木造（軸組工法）特記仕様書（4）	縮　尺　A2：ＮＳ
		Ｓ　－　04

特記仕様書　（木工事）　軸組工法

部　位	接合金物		
金　物	種類・記号	形状・寸法（単位mm）	用途・使い方
	火打金物 ＨＢ	使用接合具 【寸法・形状】  ◎使用接合具 平くぎZF55 小型角座金W2.3×30 六角ボルトM12 六角ナットM12 角座金W4.5×40	◎用途　床組及び小屋組の隅角部の補強 
	ひら金物 ＳＭ-12	【寸法・形状】 ◎使用接合具 太めくぎZN65 	◎用途　かすがいと同様の用途 
	ひら金物 ＳＭ-40	【寸法・形状】 ◎使用接合具 太めくぎZN65 	◎用途　管柱の連結等 
	筋かいプレート ＢＰ	【寸法・形状】 ◎使用接合具 角根平頭ボルトM12 小型角座金W2.3×30 六角ナットM12 太めくぎZN65 	◎用途　筋かいを柱と横架材に同時に接合角根平頭ボルトM12 
	羽子板ボルト SB・E	【寸法・形状】 ◎使用接合具 六角ボルトM12 六角ナットM12 角座金W4.5×40 スクリューくぎZS50 	◎用途　小屋ばりと軒桁　軒桁と柱、胴差と通し柱の連結 
	かね折り金物 ＳＡ	【寸法・形状】 ◎使用接合具 六角ボルトM12 六角ナットM12 角座金W4.5×40 スクリューくぎZS50 	◎用途　通し柱と胴差の取合 
	ひねり金物 ＳＴ （右ひねりのみ）	【寸法・形状】  ◎使用接合部 太めくぎ　ＺＮ４０	【用途】たるきと軒げた、または、もやとの接合 【使い方】  
	折曲げ金物 ＳＦ （右ひねり及び左ひねり）	【寸法・形状】  ◎使用接合部 太めくぎ　ＺＮ４０	【用途】ひねり金物と同様の用途 【使い方】  
	くら金物 ＳＳ	【寸法・形状】  ◎使用接合部 太めくぎ　ＺＮ４０	【用途】ひねり金物と同様の用途 【使い方】  ＳＳ　軒先側の取付け例  ＳＳ　棟側の取付け例

部　位	接合金物		
金　物	種類・記号	形状・寸法（単位mm）	用途・使い方
	かど金物 ＣＰ・Ｌ ＣＰ・Ｔ	【寸法・形状】  ◎使用接合部 太めくぎ　ＺＮ６５	【用途】引張りをうける柱と土台・横架材の接合 【使い方】 

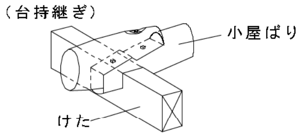
部位		内容
小屋梁 ※材種は図面による	材　種	はり（丸太）　□ あかまつ　□ くろまつ　□ べいまつ　□ その他（　　　）
		はり（その他）　□ あかまつ　□ くろまつ　□ べいまつ　□ からまつ　□ その他（　　　）
	工　法	１，末口135mm以上の丸太の継手は、受材上で台持継ぎとし、下木に太柄2本を植え込み、
		２，六角ボルト(M12)2本締めとする。受け材当たりは渡りあごとし、手違いかすがい打ちとする。
		３，末口135mm以下の丸太の継手は、受け材上でやりちがいとし、六角ボルト(M12)2本締めとする。
		４，受け材当たりは渡りあごとし、手違いかすがい打ちとする。
		５，軒桁又は敷桁との仕口は、かぶと蟻掛け又は渡りあごとし、羽子板ボルト締めとする。
小屋束 ※材種は図面による	材　種	□ すぎ　□ あかまつ　□ くろまつ　□ べいまつ　□ からまつ　□ べいつが
	工　法	上部・下部の仕口は、短柄差しとし、かすがい両面打ちとする。
棟木・母屋 ※材種は図面による	材　種	□ すぎ　□ あかまつ　□ くろまつ　□ べいまつ　□ からまつ　□ べいつが
	工　法	垂木当たりの欠き込みを考慮して適切な断面寸法とし、継手は束の位置を避け、持ち出し腰掛け鎌継ぎとする。
桁行すじかい・振れ止め ※材種は図面による	材　種	□ すぎ　□ あかまつ　□ くろまつ　□ べいまつ　□ からまつ　□ べいつが　□ その他（　　　）
	工　法	束に添えつけ、N50釘2本打ちとする。
		振れ止めの断面寸法は貫程度とする。
垂　木 ※材種は図面による	材　種	□ すぎ　□ひのき　□ あかまつ　□ くろまつ　□ べいまつ　□ からまつ　□ べいつが
	工　法	１，継手は乱に配置し、母屋上端でそぎ継ぎとし、釘2本打ちとする。軒先部以外の留め付けは、
		２，受け材当たりN75釘で両面を斜め打ちとする。ただし、垂木のせいが45mm程度の場合は、
		３，軒先部の留め付けは、桁へひねり金物(ST)、折曲げ金物(SF)、又はくら金物(SS)を当て釘打ちとする。
		４，瓦棒葺き屋根の場合の垂木間隔は、瓦棒の留め付け幅と同一とする。

小屋組

継手及び仕口の参考例

小屋ばりの継手

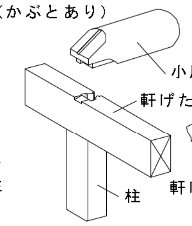
（台持継ぎ）

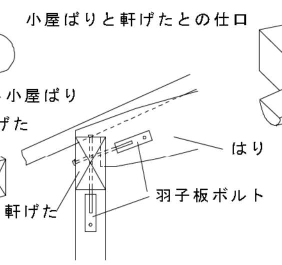


（注）羽子板ボルトについては、施工性を考えて、軒げたとはり、軒げたと柱を一定間隔ごとに交互に緊結する。

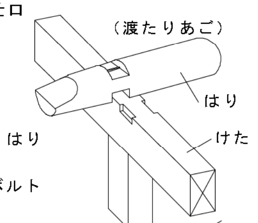
小屋ばりと軒げたとの仕口

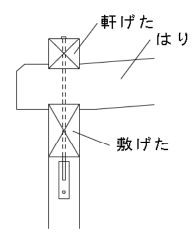
（かぶとあり）





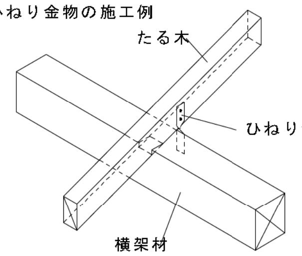
（渡たりあご）

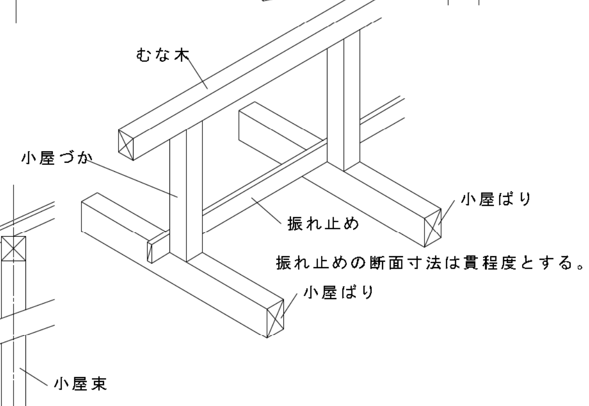




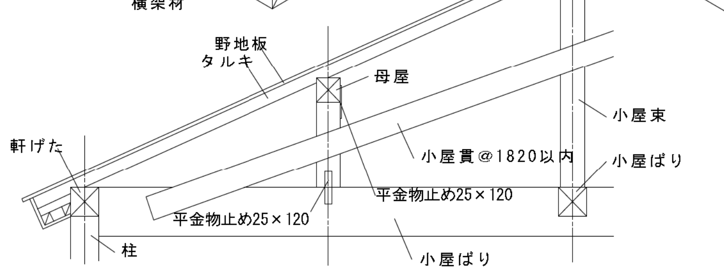
垂　木

たる木とひねり金物の施工例

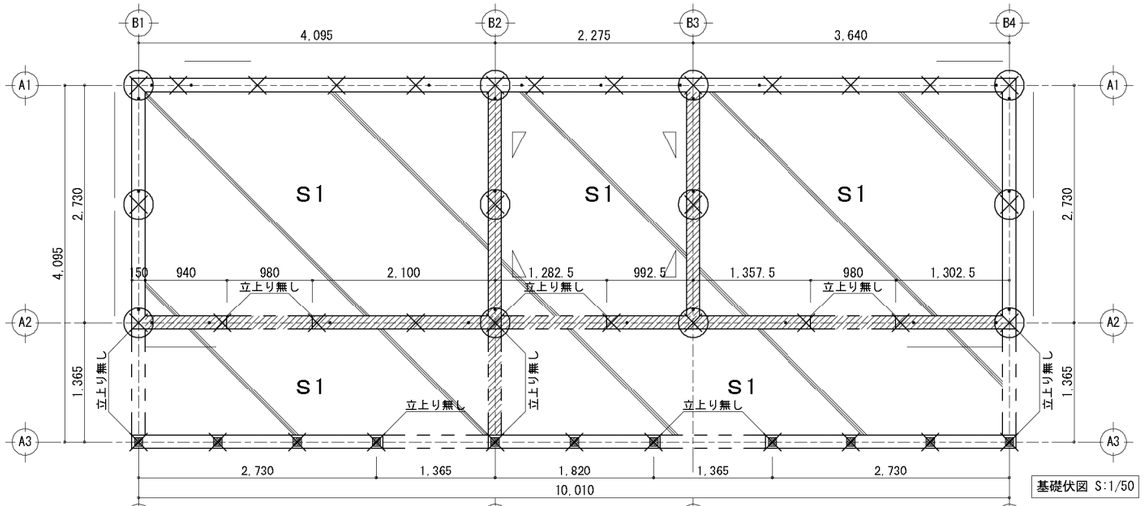




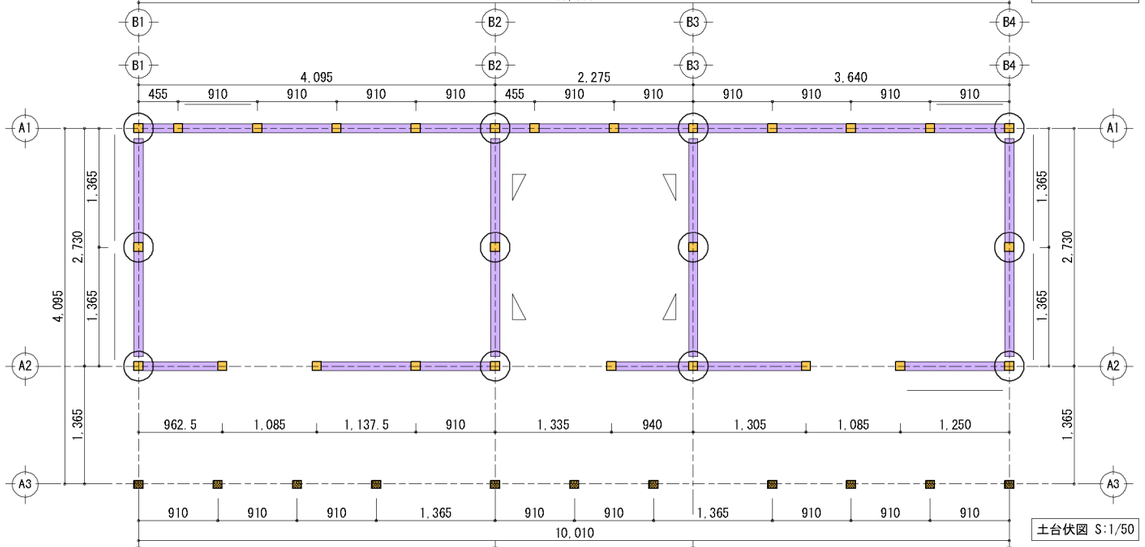
棟木・母屋



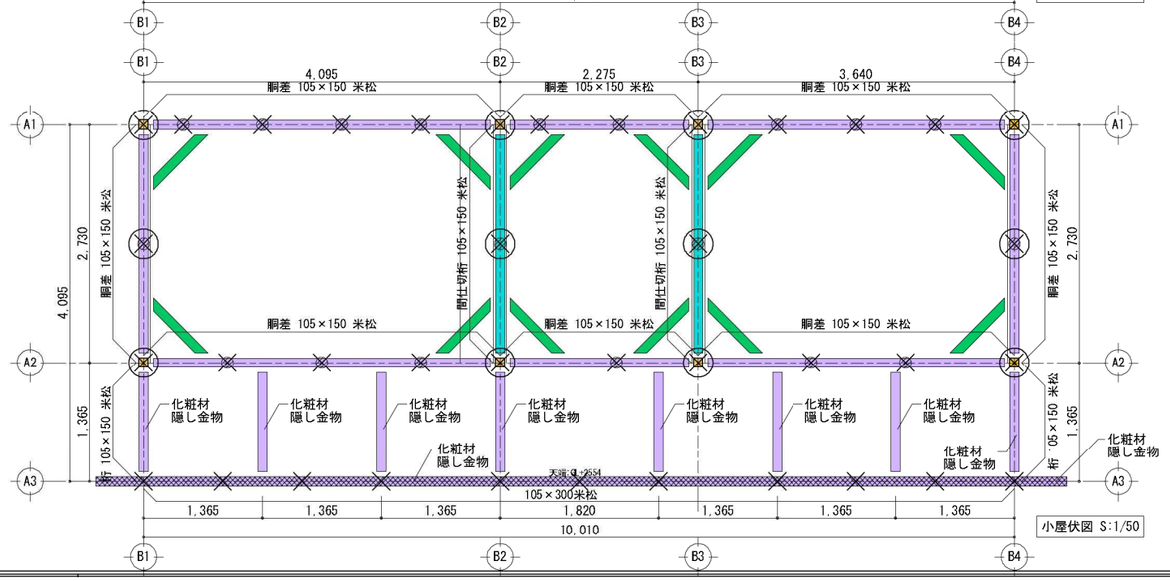
工事名	花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ）　建設工事		図面番号
図面名	木造（軸組工法）特記仕様書(5)	縮尺 A2：NS	Ｓ－05



基礎伏図 S:1/50



土台伏図 S:1/50



小屋伏図 S:1/50

	基礎天端はGL+400とする(調整ﾓﾙﾀﾙt-20共)
	基礎（詳細Ａ）
	基礎（詳細Ｂ）
◎	装飾柱脚金物SUS製　100角
・	ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄM12　L=450(埋込み長さ250以上)
×	柱位置
S1	D13　@150　ｼﾝｸﾞﾙ　t-150　砕石t-150
S2(ｽﾀﾝﾌﾟｺﾝｸﾘｰﾄ土間)	D10　@200　ｼﾝｸﾞﾙ　t-150　砕石t-150

アンカーボルトの配置について
①耐力壁の両端部の柱の下部に、それぞれ近接した配置にアンカーボルトを配置する。
②土台の両端部、土台切れの箇所、継手および仕口の箇所の上木端部に配置する。
③上記①および②以外の部分においては、2.7m以内に配置する。
④アンカーボルトは、芯柱または通り芯から200mm内外(鎌継手では、300内外)離して配置する。

使　用　材　料　凡　例

部　位	材　種	樹　種	形　状	備　考
柱	製材	杉	105×105	集成材
土台	製材	唐松(EW)	105×105	乾式注入集成
筋交い	製材	米松	45×90	ＫＤ
構造用合板	板　材	針葉樹	t-9.0	特類　2種
※特記なき限り上記形状とする				

凡例

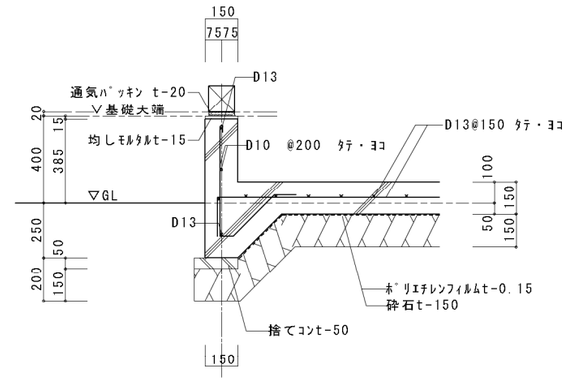
記号	壁の構造(１) 壁の構造(２)		筋かいの構造		倍率
W3			木材45×90片方向	2.0	2.0
W7	ＪＡＳ構造用合板	2.5			2.5

使　用　材　料　凡　例

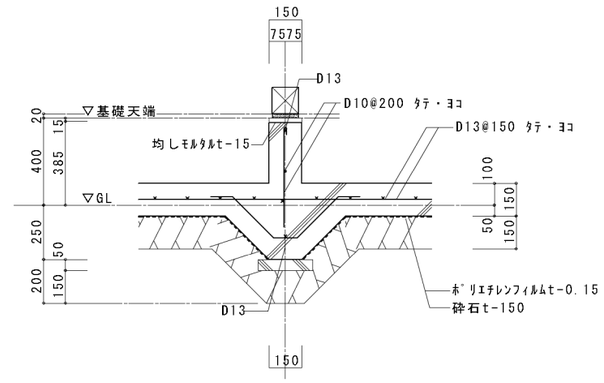
部　位	材　種	樹　種	形　状	備　考
棟木	製　材	米松	105×300	ＫＤ
小屋束	製　材	杉	105×105	ＫＤ　図面上◎の位置
母屋	製　材	米松	105×105	ＫＤ
垂木	製　材	杉	45×60	@455　ＫＤ
火打梁	製　材	杉	90×90	集成材　化粧材仕上　隠し金物
梁	製　材	米松	図面による	集成材
桁	製　材	米松	図面による	集成材
吊木	製　材	杉	36×40	@910
野縁	製　材	杉	40×36	@455
野縁受	製　材	杉	40×36	@910
窓台・まくさ	製　材	杉	105×45	ＫＤ
間柱	製　材	杉	105×30	@455　ＫＤ

※特記なき限り上記形状とする、(図)印　柱-梁　柱勝（母屋止）を示す

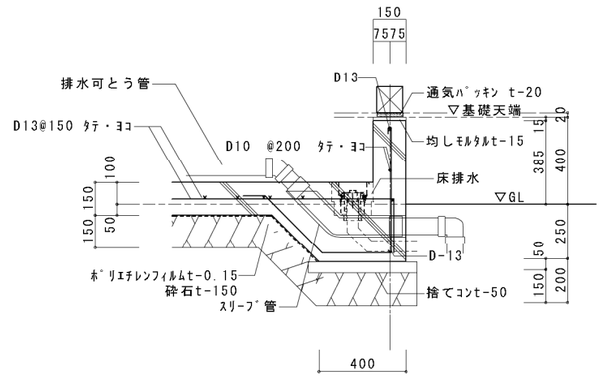
A　基礎断面詳細図(外周部)　S=1/20



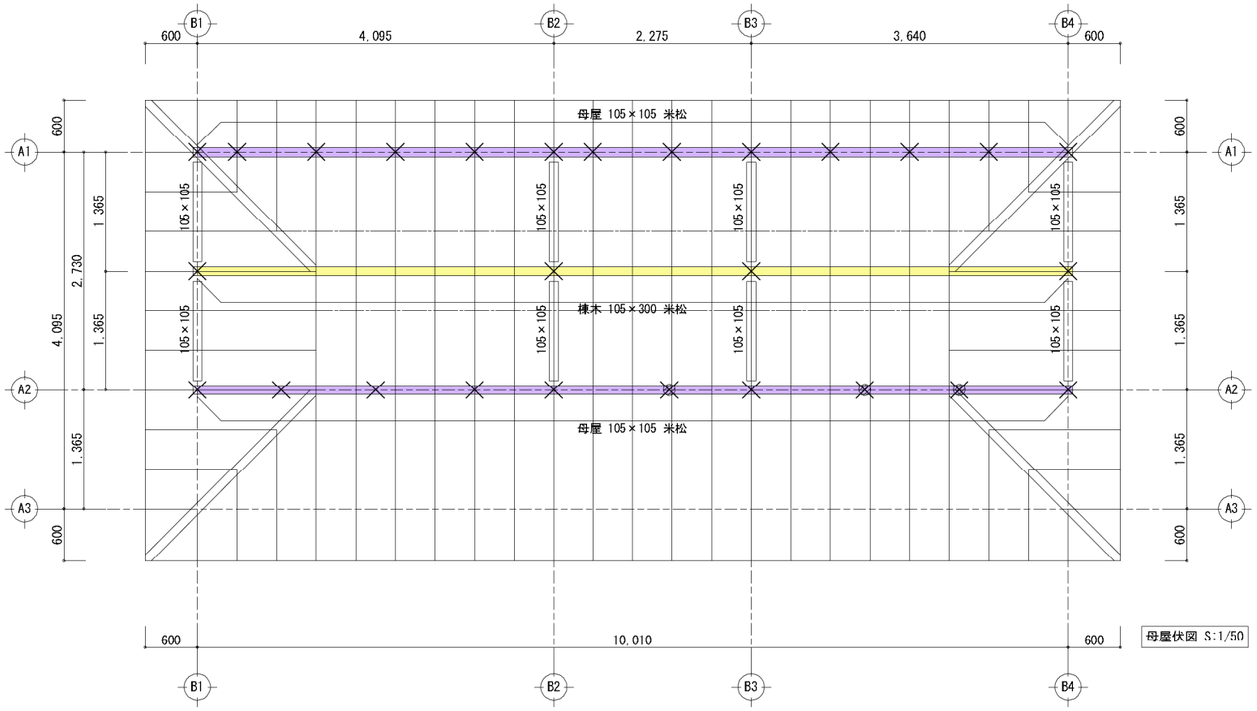
B　基礎断面詳細図(内部)　S=1/20



C　専用配管貫通断面図　S=1/20



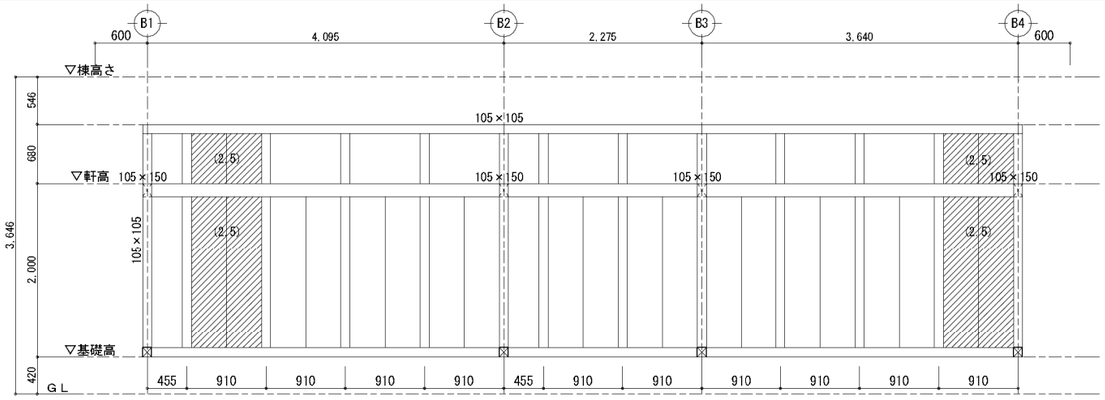
工事名	花渕浜地区被災施設復旧整備事業(公衆用トイレ)　建設工事	図面番号
図面名	基礎伏図、基礎詳細図、土台伏図、小屋伏図	縮尺 A2：1/50
		S － 06



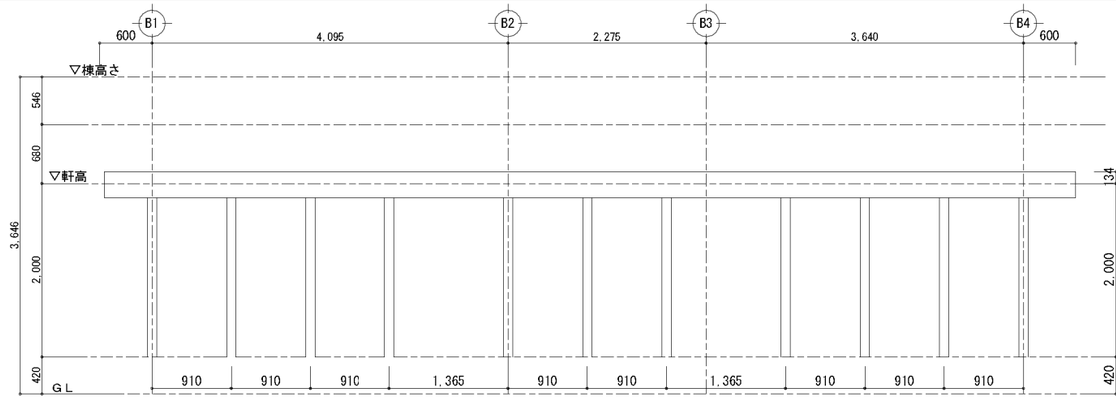
母屋伏図 S:1/50

使用材料凡例				
部位	材種	樹種	形状	備考
棟木	製材	米松	105×300	KD
小屋束	製材	杉	105×105	KD 図面上⊘の位置
母屋	製材	米松	105×105	KD
垂木	製材	杉	45×60	@455 KD
火打梁	製材	杉	90×90	集成材 化粧材仕上 隠し金物
梁	製材	米松	図面による	集成材
桁	製材	米松	図面による	集成材
吊木	製材	杉	36×40	@910
野縁	製材	杉	40×36	@455
野縁受	製材	杉	40×36	@910
窓台・まくさ	製材	杉	105×45	KD
間柱	製材	杉	105×30	@455 KD

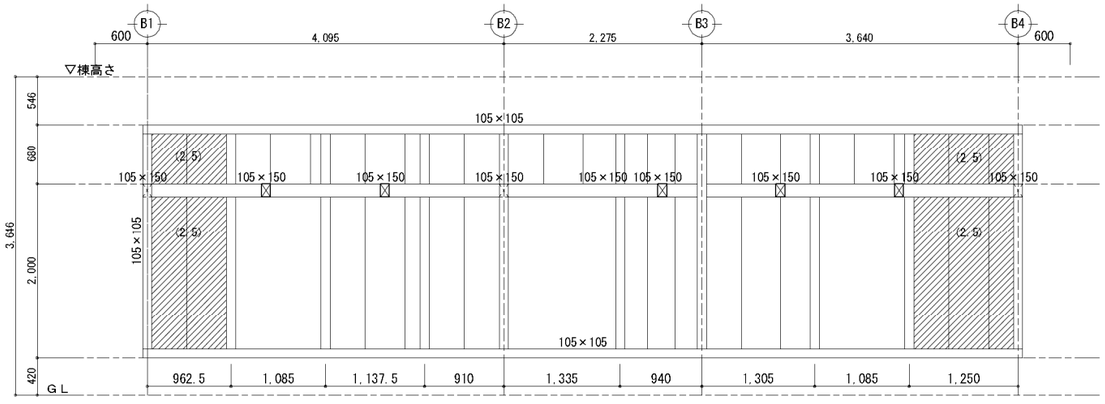
※特記なき限り上記形状とする、⊠印 柱-梁 柱勝（母屋止）を示す



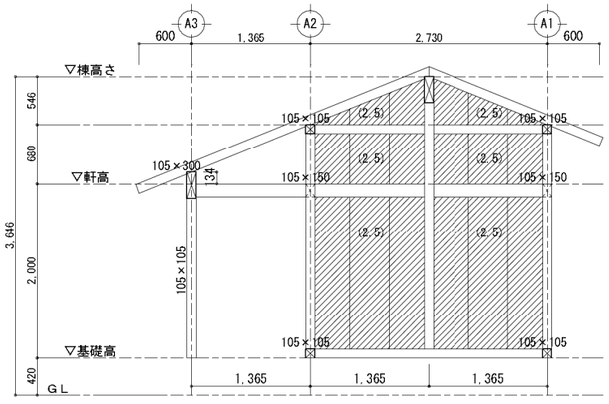
A1通り軸組図



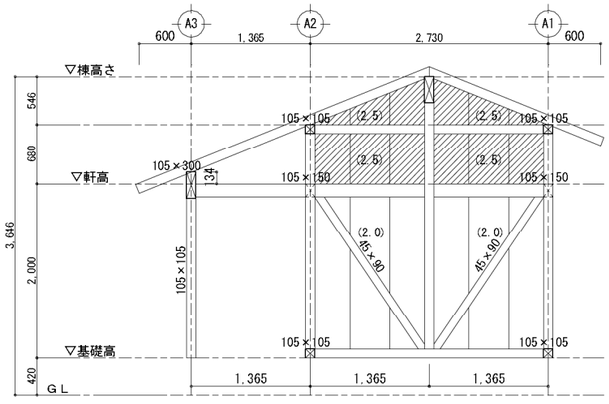
A3通り軸組図



A2通り軸組図

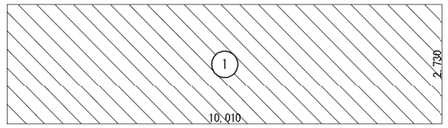


B1、B4通り軸組図

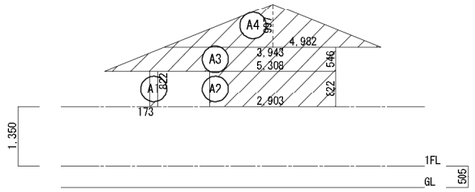


B2、B3通り軸組図

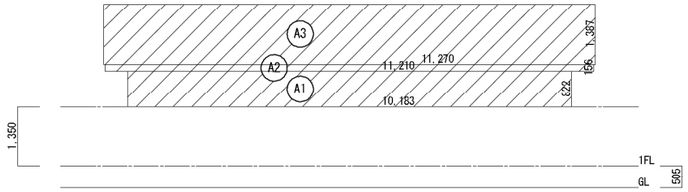
工事名	花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ） 建設工事		図面番号
図面名	母屋伏図、軸組図	縮尺 A2：1/50	S － 07



1階床面積算定図(基準法)



X方向(東面)見付面積算定図



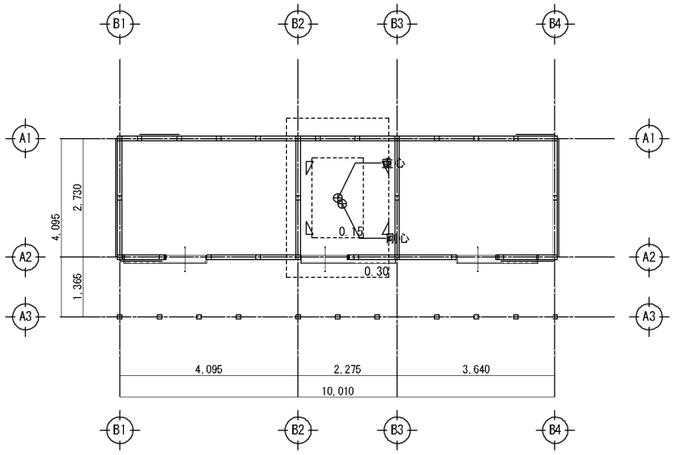
Y方向(南面)見付面積算定図

床面積表(基準法)　単位　㎡

階	面積			計
1	1	10.010×2.730	27.327300	27.33

見付面積表　単位　㎡

方向	階	面積			計	累計
X	1	A1	0.173×0.822	0.142206	7.54	7.54
		A3	2.903×0.822	2.386266		
		A3	(5.308+3.943)×0.546÷2.0	2.525523		
		A2	4.982×0.997÷2.0	2.483527		
Y	1	A1	10.183×0.822	8.370426	25.76	25.76
		A2	11.210×0.156	1.748760		
		A3	11.270×1.387	15.631490		



1階平面図

凡例

記号	壁の構造(1) 壁の構造(2)		筋かいの構造		倍率
W1			木材 30×90以上 シングル	1.50	1.50
W2			木材 30×90以上 ダブル	3.00	3.00
W3			木材 45×90以上 シングル	2.00	2.00
W4			木材 45×90以上 ダブル	4.00	4.00
W5			木材 90×90以上 シングル	3.00	3.00
W6			木材 90×90以上 ダブル	5.00	5.00
W7	構造用合板	2.50			2.50
W8	構造用合板	2.50	木材 45×90以上 シングル	2.00	4.50

必要壁量算定表(基準法)　単位　m

床面積(地震力)に対する必要壁量

階	方向	床面積	乗ずる数値	必要壁量
1	X Y	27.33	0.110	3.007

見付面積(風圧力)に対する必要壁量

階	方向	見付面積	乗ずる数値	必要壁量
1	X	7.54	0.500	3.770
	Y	25.76		12.880

床面積(地震力)に係る条件

■ 一般区域
□ 特定行政庁が指定する軟弱地盤区域(一般区域の1.5倍)
□ 特定行政庁が指定するその他の区域
□ 壁・屋根の重量が重い建築物(土蔵造、瓦葺等)
■ 屋根の軽い建築物(金属板、スレート葺等)
□ 準耐火構造の耐火性能確保(1.25倍)
□ 割り増し倍率考慮

見付面積(風圧力)に係る条件

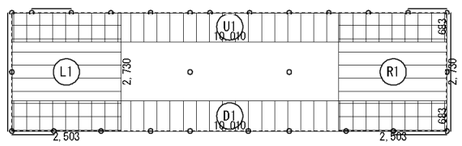
□ 特定行政庁が認める強風区域
■ 上記以外の区域

壁量判定表(基準法)　単位　m

階	方向	存在壁量	判定	必要壁量		壁余裕度
				床面積(地震力)	見付面積(風圧力)	
1	X	10.080	> OK	3.007	3.770	2.67
	Y	24.570	> OK	3.007	12.880	1.90

存在壁量算定表　単位　m

階	方向	記号	倍率 ×	長さ ×	個所 =	壁量	合計
1	X	W7	2.50	0.910	2	4.550	10.080
		W7	2.50	0.962	1	2.405	
		W7	2.50	1.250	1	3.125	
	Y	W7	2.50	1.365	4	13.650	24.570
		W3	2.00	1.365	4	10.920	



1階壁釣り合い算定図(基準法)

側端部分床面積表(基準法)　単位　㎡

階	方向		面積		計
1	X	上	m 10.010×0.683	6.836830	6.84
		下	m 10.010×0.683	6.836830	6.84
	Y	左	L1 2.503×2.730	6.833190	6.84
		右	R1 2.503×2.730	6.833190	6.84

側端部分存在壁量算定表(基準法)　単位　m

階	方向		記号	倍率 ×	長さ ×	個所 =	壁量	合計
1	X	上	W7	2.50	0.910	2	4.550	4.550
		下	W7	2.50	0.962	1	2.405	5.530
			W7	2.50	1.250	1	3.125	
	Y	左	W7	2.50	1.365	2	6.825	6.825
		右	W7	2.50	1.365	2	6.825	6.825

側端部分必要壁量算定表(基準法)　単位　m

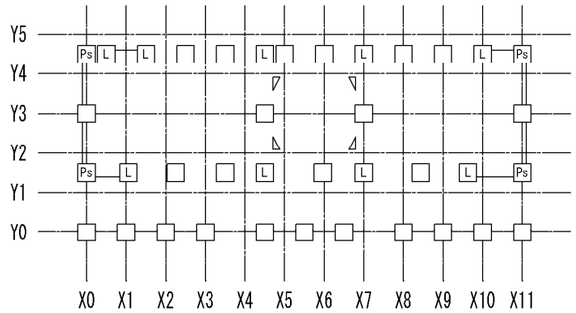
階	方向		床面積 ㎡	物置等 ㎡	合計床面積 ㎡	乗ずる数値	必要壁量
1	X	上	6.84	0.00	6.84	0.110	0.753
		下	6.84	0.00	6.84	0.110	0.753
	Y	左	6.84	0.00	6.84	0.110	0.753
		右	6.84	0.00	6.84	0.110	0.753

壁釣り合い判定表(基準法)　単位　m

階	方向		必要壁量	存在壁量	壁量充足率	壁率比	判定
1	X	上	0.753	4.550	6.042	0.822	OK
		下	0.753	5.530	7.343		
	Y	左	0.753	6.825	9.063	1.000	OK
		右	0.753	6.825	9.063		

全ての壁量充足率が1を超えているためOK

工事名	花渕浜地区被災施設復旧整備事業(公衆用トイレ)　建設工事		図面番号
図面名	壁量計算図(1)	縮尺 A2:1/100	S－08



１階柱壁伏図

接合部凡例

*接合部凡例はユーザ設定されたものです。

記号		仕様	N	倍率	
(い)		短ほぞ差し、かすがい打ち	0.00		
(ろ)	N	長ほぞ差し込み栓打ち		0.70	
(ろ)	L	L字型金物	0.65	0.70	
(は)	V	V字型金物	1.00	1.00	
(は)	T	T字型金物		1.00	
(に)	P	羽子板ﾎﾞﾙﾄ	1.40	1.40	
(に)	I	短冊金物		1.40	
(ほ)	Ps	羽子板ﾎﾞﾙﾄ+ｽｸﾘｭｰ釘50	1.60	1.60	
(ほ)	Is	短冊金物+ｽｸﾘｭｰ釘50		1.60	
(へ)	2	10KN用引き寄せ金物	1.80	1.80	
(と)	3	15KN用引き寄せ金物	2.80	2.80	
(ち)	4	20KN用引き寄せ金物	3.70	3.70	
(り)	5	25KN用引き寄せ金物	4.70	4.70	
(ぬ)	32	15KN用引き寄せ金物×2	5.60	5.60	
(る)	J1	腰掛け蟻若しくは大入れ蟻掛け+羽子板ﾎﾞﾙﾄ、短冊金物		1.90	梁継手・仕口用
(を)	J2	腰掛け蟻若しくは大入れ蟻掛け+羽子板ﾎﾞﾙﾄ、短冊金物×2		3.00	梁継手・仕口用

筋かいの種類に応じた筋かいの端部の接合部の仕様

	筋かいの種類	接合部の仕様（構造方法）
イ	鉄筋φ9	柱又は横架材を貫通し、三角座金を介してナット締め、 又は鋼板添え板を用い鋼板を柱及び横架材にCN90, 8本平打ち
ロ	筋かい:15×90	柱・横架材を欠き込み、柱・横架材双方に対してN65, 5本平打ち
ハ	筋かい:30×90	鋼板添え板t=1.6mmを筋かいに対してボルトΦ12 及びCN65,3本平打ち、柱に対してCN65,3本平打ち、 横架材に対してCN65,4本平打ち。筋かいプレートBP同等品
ニ	筋かい:45×90	鋼板添え板t=2.3mmを筋かいに対してボルトΦ12 及びスクリュー釘Φ4.5L50,7本平打ち、柱及び横架材に 対してスクリュー釘Φ4.5L50,5本平打ち。 筋かいプレートBP-2同等品
ホ	筋かい:90×90	柱又は横架材にボルトΦ12mmを用いて一面剪断接合

胴差と通し柱の接合部の仕様

	胴差と通し柱の条件	仕口
T1	通し柱の片側に胴差が来る場合	胴差を柱にかたぎ大入れ短ほぞ差し の上、羽子板ボルト、かね折り金物又 は同等以上の仕口
T2	通し柱の両側に胴差が来る場合	胴差を柱にかたぎ大入れ短ほぞ差し の上、短冊金物又は、同等以上の仕口 で胴差相互を緊結
T3	通し柱と胴差の接合部の近くに90×90以上の 筋かいが来る場合(通し柱が建物の出隅にある か、筋かい壁が外壁と直交して接する場合)	胴差を通し柱に、15KN用引き寄せ金物 を水平に用いて緊結

柱接合部判定表

階	通し柱	柱位置 X	柱位置 Y	出隅柱 階数1又は階数2の2階	出隅柱 階数2の1階	計算式 X方向		計算式 Y方向		N	柱頭 仕様	柱頭 判定	柱脚 仕様	柱脚 判定	胴差と通し柱 仕様	胴差と通し柱 判定
1		0	0	○	―	0.00×0.8−0.4	-0.40	0.00×0.8−0.4	-0.40	-0.40	□(い)	OK	□(い)	OK		
		1	0	○	―	0.00×0.8−0.4	-0.40	0.00×0.8−0.4	-0.40	-0.40	□(い)	OK	□(い)	OK		
		2	0	○	―	0.00×0.8−0.4	-0.40	0.00×0.8−0.4	-0.40	-0.40	□(い)	OK	□(い)	OK		
		3	0	○	―	0.00×0.8−0.4	-0.40	0.00×0.8−0.4	-0.40	-0.40	□(い)	OK	□(い)	OK		
		4.5	0	○	―	0.00×0.8−0.4	-0.40	0.00×0.8−0.4	-0.40	-0.40	□(い)	OK	□(い)	OK		
		5.5	0	○	―	0.00×0.8−0.4	-0.40	0.00×0.8−0.4	-0.40	-0.40	□(い)	OK	□(い)	OK		
		6.5	0	○	―	0.00×0.8−0.4	-0.40	0.00×0.8−0.4	-0.40	-0.40	□(い)	OK	□(い)	OK		
		8	0	○	―	0.00×0.8−0.4	-0.40	0.00×0.8−0.4	-0.40	-0.40	□(い)	OK	□(い)	OK		
		9	0	○	―	0.00×0.8−0.4	-0.40	0.00×0.8−0.4	-0.40	-0.40	□(い)	OK	□(い)	OK		
		10	0	○	―	0.00×0.8−0.4	-0.40	0.00×0.8−0.4	-0.40	-0.40	□(い)	OK	□(い)	OK		
		11	0	○	―	0.00×0.8−0.4	-0.40	0.00×0.8−0.4	-0.40	-0.40	□(い)	OK	□(い)	OK		
		0	1.5	○	―	2.50×0.8−0.4	1.60	2.50×0.8−0.4	1.60	1.60	Ps(ほ)	OK	Ps(ほ)	OK		
		1	1.5	×	―	2.50×0.5−0.6	0.65	0.00×0.5−0.6	-0.60	0.65	L(ろ)	OK	L(ろ)	OK		
		2.3	1.5	×	―	0.00×0.5−0.6	-0.60	0.00×0.5−0.6	-0.60	-0.60	□(い)	OK	□(い)	OK		
		3.5	1.5	×	―	0.00×0.5−0.6	-0.60	0.00×0.5−0.6	-0.60	-0.60	□(い)	OK	□(い)	OK		
		4.5	1.5	×	―	0.00×0.5−0.6	-0.60	(2.00+0.50)×0.5−0.6	0.65	0.65	L(ろ)	OK	L(ろ)	OK		
		6.0	1.5	×	―	0.00×0.5−0.6	-0.60	0.00×0.5−0.6	-0.60	-0.60	□(い)	OK	□(い)	OK		
		7	1.5	×	―	0.00×0.5−0.6	-0.60	(2.00+0.50)×0.5−0.6	0.65	0.65	L(ろ)	OK	L(ろ)	OK		
		8.4	1.5	×	―	0.00×0.5−0.6	-0.60	0.00×0.5−0.6	-0.60	-0.60	□(い)	OK	□(い)	OK		
		9.6	1.5	×	―	2.50×0.5−0.6	0.65	0.00×0.5−0.6	-0.60	0.65	L(ろ)	OK	L(ろ)	OK		
		11	1.5	○	―	2.50×0.8−0.4	1.60	2.50×0.8−0.4	1.60	1.60	Ps(ほ)	OK	Ps(ほ)	OK		
		0	3	×	―	0.00×0.5−0.6	-0.60	0.00×0.5−0.6	-0.60	-0.60	□(い)	OK	□(い)	OK		
		4.5	3	×	―	0.00×0.5−0.6	-0.60	0.00×0.5−0.6	-0.60	-0.60	□(い)	OK	□(い)	OK		
		7	3	×	―	0.00×0.5−0.6	-0.60	0.00×0.5−0.6	-0.60	-0.60	□(い)	OK	□(い)	OK		
		11	3	×	―	0.00×0.5−0.6	-0.60	0.00×0.5−0.6	-0.60	-0.60	□(い)	OK	□(い)	OK		
		0	4.5	○	―	0.00×0.8−0.4	-0.40	2.50×0.8−0.4	1.60	1.60	Ps(ほ)	OK	Ps(ほ)	OK		
		0.5	4.5	×	―	2.50×0.5−0.6	0.65	0.00×0.5−0.6	-0.60	0.65	L(ろ)	OK	L(ろ)	OK		
		1.5	4.5	×	―	2.50×0.5−0.6	0.65	0.00×0.5−0.6	-0.60	0.65	L(ろ)	OK	L(ろ)	OK		
		2.5	4.5	×	―	0.00×0.5−0.6	-0.60	0.00×0.5−0.6	-0.60	-0.60	□(い)	OK	□(い)	OK		
		3.5	4.5	×	―	0.00×0.5−0.6	-0.60	0.00×0.5−0.6	-0.60	-0.60	□(い)	OK	□(い)	OK		
		4.5	4.5	×	―	0.00×0.5−0.6	-0.60	(2.00+0.50)×0.5−0.6	0.65	0.65	L(ろ)	OK	L(ろ)	OK		
		5	4.5	×	―	0.00×0.5−0.6	-0.60	0.00×0.5−0.6	-0.60	-0.60	□(い)	OK	□(い)	OK		
		6	4.5	×	―	0.00×0.5−0.6	-0.60	0.00×0.5−0.6	-0.60	-0.60	□(い)	OK	□(い)	OK		
		7	4.5	×	―	0.00×0.5−0.6	-0.60	(2.00+0.50)×0.5−0.6	0.65	0.65	L(ろ)	OK	L(ろ)	OK		
		8	4.5	×	―	0.00×0.5−0.6	-0.60	0.00×0.5−0.6	-0.60	-0.60	□(い)	OK	□(い)	OK		
		9	4.5	×	―	0.00×0.5−0.6	-0.60	0.00×0.5−0.6	-0.60	-0.60	□(い)	OK	□(い)	OK		
		10	4.5	×	―	2.50×0.5−0.6	0.65	0.00×0.5−0.6	-0.60	0.65	L(ろ)	OK	L(ろ)	OK		
		11	4.5	○	―	2.50×0.8−0.4	1.60	2.50×0.8−0.4	1.60	1.60	Ps(ほ)	OK	Ps(ほ)	OK		

工事名	花渕浜地区被災施設復旧整備事業(公衆用トイレ)　建設工事		図面番号
図面名	壁量計算図(2)	縮尺 A2:1/100	S－09

電気設備工事特記仕様書

Ⅰ．工事概要

1．工事名　平成28年度　花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ）建設工事

2．工事場所　※建築図による

3．建物概要

建物名称	構造	階数	延べ面積(㎡)	建築面積(㎡)	消防法施行令別表第一による用途区分	備考
公衆用トイレ	W造	1階	27.32㎡	40.99㎡	15項	

4．工事種目（⊙印のついたものを適用する。）

工事種目＼建物別及び屋外	公衆用トイレ			屋外	備考
⊙電灯設備	新設一式				
・動力設備					
・電熱設備					
・雷保護設備					
・受変電設備					
・電力貯蔵設備					
・発電設備					
・構内情報通信網設備					
・構内交換設備					
・情報表示設備					
・映像・音響設備					
・拡声設備					
⊙誘導支援設備	新設一式				
・テレビ共同受信設備					
・監視カメラ設備					
・駐車場管制設備					
・防犯・入退室管理設備					
・自動火災報知設備					
・中央監視制御設備					
⊙構内配電線路	新設一式				外灯設備を含む
⊙構内通信線路	新設一式				
・テレビ電波障害防除					
・その他工事	別紙仕様書による				

5．指定部分　※ なし　・ あり（工　期：平成　年　月　日）（対象部分：　）

6．概成工期　※ なし　・ あり（工　期：平成　年　月　日）

Ⅱ．特記仕様書

1．一般事項

（1）特記仕様書及び図面に記載されていない事項は，すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編，平成２５年版），公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編，平成２５年版），国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修の「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編，平成２５年版）」及び国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「電気設備工事監理指針（平成２５年版）」による。

（2）機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合，機械設備工事及び建築工事はそれぞれの工事特記仕様書を適用する。なお，機械設備工事の特記仕様書は（　／　）図，建築工事の特記仕様書は（　／　）図による。

2．特記事項

（1）項目は番号に⊙印の付いたものを適用する。

（2）特記事項は，⊙印の付いたものを適用する。⊙印の付かない場合は，※印の付いたものを適用する。⊙印と⊗印の付いた場合は，共に適用するものとする。

章	項目	特記事項
一般共通事項	① 適用基準等	※ 建設工事執行規則(昭和３９年３月宮城県規則第９号) ※ 宮城県建設工事元請・下請関係適正化要綱（平成２７年４月１日施行） ※ 営繕工事写真撮影要領・同解説　設備工事編（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　平成２４年版） ・ 宮城県建築工事写真撮影要領（宮城県土木部制定　平成１２年版）
	② 機材等	※ 本工事に使用する機材等は，設計図書に規定するもの，またはこれらと同等のものとする。ただし，これらと同等のものとする場合は，監督職員の承諾を受けるものとする。 ※ 本工事に使用する材料の選定及び施工に当たっては，「県有施設のシックハウスマニュアル」に留意し，揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。 ※ 使用する材料のホルムアルデヒド仕様は，日本工業規格及び日本農林規格のＦ☆☆☆☆規格品，壁装材料協会規格適合品または同等品，化学物質等製品安全データシート等にホルマリン不使用が明示されたものとする。
	③ 機材の品質・性能証明	本工事着手前に主要機材メーカーリスト及び機器製作図を提出し，監督職員の承諾を受ける。 また，「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」（(一社)公共建築協会）によって所要の品質・性能を有することの評価を受けた材料・機材等を使用する場合は，評価書の写しを監督職員に提出するものとする。
	④ 保険	本工事着手前に工事目的物及び工事材料等を，本工事完了後引渡し期日まで火災保険及びその他の保険に付し，写しを監督職員に提出する。
	⑤ 雇用	本工事は，公共職業安定所の紹介する者の雇い入れに努める。
	⑥ 施工計画書・施工図等	工事の着手に先立ち，工事の総合的な計画をまとめた施工計画書を作成し，監督職員に提出する。 工事の施工に先立ち，工種別施工要領書及び施工図等を作成し，監督職員の承諾を受ける。
	⑦ 手続き	工事の着手，施工及び完成において，官公署その他関係機関への必要な諸手続き等は監督職員と協議の上，請負者が遅滞なく処理する。なお，当該手続きに係る費用は請負者の負担とする。
	⑧ 施工条件	別添の施工条件明示書による。
	⑨ 工事の一時中止	工事請負契約書第20条の規定により工事の一時中止の通知を受けた場合は，工事の続行に備え中止期間中における工事現場の管理計画書を提出すること。本計画書には，中止時点における工事の出来高，搬入材料及び建設機械器具等の調書，中止期間中の体制及び工事現場の維持管理に関することを記載すること。
	⑩ 工事実績情報の登録(CORINS)	請負額が500万円以上の場合は，工事実績情報を登録する。 受注時，変更時及び完成時にあらかじめ監督職員の確認を受け，登録手続きを行い，工事カルテの受領証を，監督職員に提出のこと。
	⑪ 事故報告	施工中に事故が発生した場合は，直ちに監督職員に通報するとともに，「事故報告書」を別に指示する期日までに監督職員に提出する。
	⑫ 電気保安技術者	電気工作物に係る工事においては，電気保安技術者を置くものとする。
	⑬ 工事用電力，水，他	本工事に必要な工事用電力，水などの費用は引渡まですべて請負者の負担とする。
	⑭ 工事用仮設物	構内につくることが　※ できる　・ できない
	15. 監督職員事務所	※ 設けない　・ 設ける（　号・・・建築工事）
	⑯ 足場，さん橋類	・ 別契約の関係請負者が設置したものは，無償で使用できる。　・ 本工事で設置する。 なお，枠組足場を設ける場合は，「手すり先行工法等に関するガイドライン」（厚生労働省平成21年4月改訂）によるものとし、二段手すり及び幅木の機能を有するものでなければならない。
	⑰ 工事表示板	※ 設置する　設置枚数　1枚 営繕工事における工事及びコスト表示要領(平成14年2月6日宮城県土木部営繕課･設備室制定)により設置する。 ・ 設置しない
	⑱ 工事用通路	※ 指定しない　・指定する（図示）
	19. 発生材の処理等	発生材の処理 ・ 引渡しを要するもの（　） ・ 特別管理産業廃棄物（・ PCB使用機器　・　） 受入施設名・所在地　： ・ 現場において再利用を図るもの（　） ・ 再資源化を図るもの （下表） ・ その他安定型廃棄物（　） 受入施設名・所在地　： ・ その他管理型廃棄物（　） 受入施設名・所在地　： ＰＣＢを含有する機器等については飛散，流出がないように適切な場所に保管し，工事完了後監督職員に引き渡す。
	⑳ 残土処理	※ 構内指示の場所に敷き均し　・ 構内指示の場所に堆積　・ 構外搬出
	㉑ 耐震施工	耐震施工における設備機器の固定は，「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」（(独) 建築研究所監修）による。本工事の施設分類は（・ 特定の施設　・ 一般の施設）で地域係数は１とし，設計用標準水平震度は下表のとおりとする。なお，（　）内の数値は防震支持の機器の場合に適用する。 （下表） 重要機器類 ⊙ 配電盤　・ 発電装置　・ ＵＰＳ装置　⊙ 直流電源装置 ・ 交換機　⊙ 受信機（自立型）　・ 中央監視装置　⊙ 情報通信ラック 重量が１００kg以下の軽量な機器（標準仕様書の適用を受けるものは除く）においても，耐震を考慮し，据付等を行うものとするが，前記指針の方法によらなくてもよい。
	㉒ 風圧加重	※ 風速６０ｍ／ｓ　・　ｍ／ｓ ・ 雷保護設備受雷部　・ 照明ポール・基礎　・ テレビ共同受信装置アンテナ・アンテナマスト

発生材（再資源化を図るもの）

種類	受入施設名	所在地（km）	備考

耐震施工（設計用標準震度）

設置場所＼設計用標準震度	特定の施設 重要機器	特定の施設 一般機器	一般の施設 重要機器	一般の施設 一般機器
上層階，屋上及び塔屋	2.0 (2.0)	1.5 (2.0)	1.5 (2.0)	1.0 (1.5)
中層階	1.5 (1.5)	1.0 (1.5)	1.0 (1.5)	0.6 (1.0)
一階及び地下層	1.0 (1.0)	0.6 (1.0)	0.6 (1.0)	0.4 (0.6)

章	項目	特記事項
一般共通事項	㉓ 他工事との工事区分	他工事との工事区分は図面に特記なき場合，「各工事の工事区分表」による。
	㉔ 保温，結露防止	外部に面する壁，天井でＦＰ板（スタイロホーム等）打込み箇所に取付ける位置ボックスなどは，保温，結露防止処理を行う。
	㉕ 電線類	本工事では環境配慮の観点から，原則としてＥＭケーブルを使用するものとする。なお，標準仕様書第６編　通信情報設備工事　第１章　機材　第１節　電線類等　1.1.1　電線類等　表1.1.1電線類に次の種類を追加する。（ＥＭ−ＭＥＥＳ）
	㉖ 合成樹脂製可とう管	合成樹脂製可とう管は，ＰＦ管(一重管)とし，温度による分類はタイプ−25とする。
	㉗ 二種金属製可とう管	露出箇所　⊙ ビニル被覆あり　・ ビニル被覆なし いんぺい箇所　・ ビニル被覆あり　・ ビニル被覆なし
	㉘ 電線本数，管路など	分電盤，制御盤，端子盤などの２次側以降の配線経路，電線太さ，電線本数，管径などは，監督職員の承諾を受け変更してもさしつかえない。
	㉙ インサート	鋼鉄製とする。なお，床版で保温板打込み部分は，断熱材用インサート（亜鉛めっき製品）を使用する。
	㉚ 呼び線	長さ１ｍ以上の通線しない電線管には，１．２mm以上のビニル被覆鉄線を通線する。
	㉛ フラッシュプレート	図面に特記なき場合，（※ 金属製（ステンレス・新金属も含む）　・ 樹脂製）とする。
	32. フロアプレート･ベース	※ 水平高低調節付（空転防止リング付）　・ 銅合金製　・ アルミ合金製
	33. ハンドホール蓋	県章およびチェーン（ステンレス製）付のものとする。
	㉞ 支持金物，固定金物	屋外の機器及び配管に使用する支持金物（ボルト類）はステンレス製とし，屋外機器のアンカーボルトのナットには，ナットキャップ（樹脂製）を取り付ける。 また，振動をともなう機器の支持金物のナットは，ダブルナットとする。
	㉟ あと施工アンカー	施工方法　・ 接着系（※ 有機系　・ 接着剤） ・ 金属拡張系（※ 本体打込式　・　） 性能・施工確認　※ 行わない　・ 行う
	㊱ 接地極の種別・表示等	接地極は図面に特記なき場合，下表による。なお，ＥＢの長さは１，５００mmとする。 ただし，Ｄ＝１０は１，０００mm，Ｗ＝３０は１，２００mmとする。 装柱機器及び屋外灯用接地極の埋設標は不要とする。 （下表）
	37. 総合調整	各機器の個別運転後に総合調整を行い，報告書を提出すること。 ・ 受変電設備　・ 発電設備　・ 照明装置　・ 構内交換設備　・
	㊳ 塗装工事	下記部位に使用する外面めっき電線管の露出配管には塗装を施す。 ※ 屋外　※ 居室　・

	接地の種別	記号	接地抵抗値	接地極の規格，数量
・	雷保護設備用接地	ELA	Ω以下	ＥＰ×２
・	雷保護設備用接地	ELA	Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はＷ＝40)×　連−　組
・	共同接地	EA・ED・ELH	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はＷ＝40)×３連−２組
・	共同接地	EA・EC・ED	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はＷ＝40)×３連−２組
・	Ａ種	EA	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はＷ＝40)×３連−２組
・	Ｂ種	EB	Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はＷ＝40)×２
・	Ｃ種	EC	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はＷ＝40)×３連−２組
⊙	Ｄ種	ED	100Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はＷ＝40)×１
・				
・	構内交換機（陽極）用	Et	Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はＷ＝40)×３連−　組
・	本配線盤の保安装置	EAt	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はＷ＝40)×３連−２組
⊙	電話引込口の保安器	EDt	100Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はＷ＝40)×１
・	拡声増幅器	EDa	100Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はＷ＝40)×１
・	防犯装置用	ES	Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はＷ＝40)×３連−　組
・				
・	測定用	Eo	――――	ＥＢ(Ｄ＝10又はＷ＝30)×１
・	避雷器用（低圧用）	ELL	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はＷ＝40)×３連−２組
・	避雷器用（高圧用）	ELH	10Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はＷ＝40)×３連−２組
・	避雷器用（モデム用）	EMD	100Ω以下	ＥＢ(Ｄ＝14又はＷ＝40)×１
・	構造体接地			建築構造体利用（通信用も含む）

電灯設備

- ① 工事範囲：⊙ 配管　⊙ 配線　⊙ 分電盤類　⊙ 機器類
- ② 電気方式：⊙ 幹線　単相３線式　１００／２００Ｖ　５０Ｈｚ／⊙ 分岐　単相３線式　１００／２００Ｖ／⊙ 分岐　単相２線式　１００Ｖ／幹線　⊙ 金属管配線　⊙ ケーブル配線
- ③ 施工方法：分岐　電灯　⊙ 合成樹脂管配線　⊙ 金属管配線　⊙ ケーブル配線　・ その他（　）／コンセント　⊙ 合成樹脂管配線　⊙ 金属管配線　・ フロアダクト配線　・ その他（　）／屋外露出　・ 合成樹脂管配線　⊙ 金属管配線　・ ケーブル配線／ボックス　・ 合成樹脂製　⊙ 金属製
- ④ 照明器具：蛍光灯　・ Ｈｆ型蛍光灯　・ ＰＳ型蛍光灯　・ ダウンライト　・ その他／ＬＥＤ　⊙ 一体型　・ 直管型(JEL801)　・ 直管型(JEL802)　⊙ ダウンライト　⊙ その他／ＨＩＤ　・ セラメタランプ　・ ナトリウムランプ　・ 水銀灯　・ 無電極灯　・ その他／電球　・ 蛍光灯　・ 白熱電球　・ ＬＥＤ　・ ハロゲンランプ　・ クリプトンミニ電球／図面に特記がない場合のＨｆ型蛍光灯の入力電圧・周波数は，入力電圧100/200V，周波数50Hzとする。
- 5．防災用照明器具：・ 非常用照明器具（※ 電池内蔵形　・ 電源別置形）／・ 誘導灯（※ ＬＥＤ誘導灯　・ 誘導標識）
- ⑥ 照度測定：照度測定は，原則，本工事範囲全て行うものとするが，これにより難い場合は監督職員との協議による。
- 7．ハイテンションアウトレット：※ 銅合金製　・ アルミ製／※ 飛び出し形　・ 外部固定形
- ⑧ 人感センサプレート：照明の人感センサ制御を行う部屋には，注意プレートを設置する。
- ⑨ 予備配管：埋込形分電盤からの立上り予備配管は，予備の配線用遮断器が４個以下の場合は（ＰＦ２２）を１本，５個以上の場合は（ＰＦ２２）を２本以上，天井裏まで立上げる。梁下に配管・配線スペースのない梁には，１スパンにＶＥ（３６）２本を予備スリーブとして埋込む。

動力設備

- 1．工事範囲：・ 配管　・ 配線　・ 制御盤類
- 2．電気方式：・ 幹線　三相３線式　２００Ｖ　５０Ｈｚ／・ 分岐　三相３線式　２００Ｖ
- 3．施工方法：幹線　・ 金属管配線　・ ケーブル配線　・ その他／分岐　・ 合成樹脂管配線　・ 金属管配線　・ その他／屋外露出　・ 合成樹脂管配線　・ 金属管配線　・ ケーブル配線／ボックス　・ 合成樹脂製　・ 金属製
- 4．警報盤：※ 壁掛形（電源装置　※ 内蔵　・ 別置）　・
- 5．電磁開閉器用押釦（遠方操作用）：※ 埋込連用形配線器具　・
- 6．機器への接続：電動機などへの接続は本工事とする。
- 7．電動機等の接地：図示以外は金属管接地とする。
- 8．進相用コンデンサ：各負荷ごとに適合するコンデンサを取り付ける。
- 9．電気自動車用充電装置：・ 機器類　・／・ 普通充電装置　電圧　相　Ｖ　・ 屋外型　・ 屋内型／・ 急速充電装置　直流電圧　Ｖ

電熱設備

- 1．電気方式：幹線　相　線式　Ｖ　５０Hz／分岐　相　線式　Ｖ
- 2．施工場所及び面積：・　（　㎡）　・　（　㎡）

雷保護設備

- 1．工事範囲：・ 受雷部　・ 引下げ導線　・ 接地極埋設
- 2．受雷部：・ 突針　・ 棟上導体　・ 笠木（別途）など
- 3．避雷導線：・ 引下げ導線　・ 構造体利用
- 4．接地極：※ 接地極埋設　・ 構造体利用（測定時期　回数　）
- 5．測定用補助接地極：・ 設置

受変電設備

- 1．工事範囲：・ 機器類　・
- 2．電気方式：・ 高圧　三相３線式　６ｋＶ　５０Ｈｚ／・ 低圧　三相３線式　２００Ｖ　・ 低圧　単相３線式　１００Ｖ／２００Ｖ
- 3．引込ケーブル：・ ＥＭ−ＣＥＴ３８°　・ ＥＭ−ＣＥＴ６０°　・ ＥＭ−ＦＰＴ６０°／・ ＥＭ−ＣＥ３８°−３Ｃ　・ ＥＭ−ＣＥ６０°−３Ｃ　・
- 4．配電盤：・ 屋内形　・ 屋外形（防塵処理及び結露対策を施す）／・ キュービクル式配電盤　・ 高圧閉鎖配電盤　・　・
- 5．主遮断装置：※ 限流ヒューズ及び高圧負荷開閉器（ＰＦ−Ｓ）　・ 高圧交流遮断器（ＣＢ）／定格遮断電流　ｋＡ
- 6．高圧機器類：・ 油入式　・ モールド／・ 手動　・ 電動　・ 電磁
- 7．変圧器：・ 単相変圧器　２００　ｋＶＡ　・ 三相変圧器　１５０　ｋＶＡ／（油入式：JIS C4304-2013適合品 乾式：JIS C4306-2013適合品）
- 8．進相用コンデンサ：※ 低圧　・ 高圧／・ 油入式　・ モールド
- 9．リアクトル：・ ６％　・ １３％／・ 油入式　・ モールド
- 10．自動力率制御装置：※ メーターリレー形　・ 静止形
- 11．測定用補助接地極：・ 設置

電力貯蔵設備

- 1．直流電源装置：※ 非常用照明器具電源，受変電設備制御電源供用　・ 受変電設備制御専用　・ 非常用照明器具専用／蓄電池　・ 鉛蓄電池（・ ＨＳ　・ ＣＳ　・ ＭＳＥ　・ 長寿命形ＭＳＥ　・　）／・ アルカリ蓄電池（・ＡＨ　・ＡＭＨ　・　）／・ リチウムイオン電池
- 2．交流無停電電源装置：用途（　）／容量　ｋＶＡ／蓄電池　・ 鉛蓄電池（・ ＨＳ　・ ＣＳ　・ ＭＳＥ　・ 長寿命形ＭＳＥ　・　）／・ アルカリ蓄電池（・ＡＨ　・ＡＭＨ　・　）／・ リチウムイオン蓄電池

発電設備

- 1．工事範囲：・ 機器類　・
- 2．形式：・ 簡易形　・ キュービクル式　・ オープン形　・／・ 屋内形　・ 屋外形
- 3．発電機：電気方式　相　線式　５０Ｈｚ　電圧　Ｖ　定格出力　ｋＶＡ　運転時間　時間
- 4．原動機：種類　・ ディーゼル　・ ガスタービン　・／定格出力　ｋW以上（　ＰＳ以上）／始動方式　※ 電気式　・ 空気式／冷却方式　・ ラジエータ式　・ 水冷循環式
- 5．燃料：種類　・ 軽油　・ 灯油　・ Ａ重油／燃料小出槽　Ｌ／主貯油槽　・ なし　・ あり（・ 別途　・ 本工事：　）
- 6．太陽光発電装置：太陽電池アレイ公称出力　１０　ｋW／パワーコンディショナ　単相三線式　定格電圧　２１０／１０５Ｖ　定格出力　１０　ｋW／自立運転　・ 有　・ 無／蓄電池　・ 有（定格容量　１５　ｋWｈ以上）　・ 無
- 7．系統連系：・ 有　・ 無

構内交換設備

- ① 工事範囲：・ 交換機　・ 電話機　⊙ 配管（・ 全部　・ 端子盤以降）
- 2．電話交換機：形式　・ ボタン電話装置　・ デジタルＰＢＸ　・ＩＰ−ＰＢＸ　・ＶｏＩＰサーバ／回線数　局線　２６　／　１０　回線　内線　２６　／　１７　回線
- 3．電話機への配線：電話機１台につき，下記のものを見込む。／・ ＥＭ−ＴＩＥＦ０．６５−２Ｃ（・ ２０ｍ　・　）／・ ＥＭ−ＥＢＴ０．４−２Ｐ（・ ２０ｍ　・　）／・ ワイヤープロテクタ　（樹脂製　外形寸法約２０×８）１．５ｍ
- ④ ローテンションアウトレット（亀甲形）：※ 一般電話用　個（・ 納入する　・ 取り付ける）／※ 銅合金製　・ アルミ製
- ⑤ 保安器用接地：※ 本工事　・ 別途工事

通信・情報設備

① 工事範囲及び施工方法

項目	工事範囲 配管	工事範囲 配線	工事範囲 機器類	施工方法 合成樹脂管配線	施工方法 金属管配線	施工方法 ケーブル配線
・ 構内情報通信網	・	・	・	・	・	・
・ 情報表示	・	・	・	・	・	・
・ 映像・音響	・	・	・	・	・	・
・ 拡声	・	・	・	・	・	・
⊙ 誘導支援	⊙	⊙	⊙	⊙	・	⊙
・ テレビ共同受信	・	・	・	・	・	・
・ テレビ電波障害防除設備	・	・	・	・	・	・
・ 監視カメラ	・	・	・	・	・	・
・ 駐車場管制設備	・	・	・	・	・	・
・ 防犯・入退室管理	・	・	・	・	・	・

ボックス　・ 合成樹脂製　・ 金属製　・

- 2．構内情報通信網設備：種類　・ １０ＢＡＳＥ−Ｔ　・ １００ＢＡＳＥ−ＴＸ　・ １０００ＢＡＳＥ−Ｔ／・ １０ＧＢＡＳＥ−ＳＲ　・
- 3．情報表示設備：・ 親時計　３　回線（※ 壁掛形　・ 自立形）／（・ 電子式チャイム組込　・ プログラムタイマ組込）
- 4．映像・音響設備：・ 増幅器　Ｗ／・ ＶＴＲ（・ ＤＶＤ　・ ＢＤ　・ Ｓ−ＶＨＳ　・　）／・ プロジェクタ（※ 前面投射式　・ 背面投射式）／・ 音響設備（・ ＣＤ　・ オーディオレコーダー　・ カセット　・　）
- 5．拡声設備：・ 一般放送用　・ 非常放送兼用／・ 増幅器　Ｗ（※ 卓上形　・ キャビネットラック形）
- ⑥ 誘導支援設備：・ インターホン　⊙ トイレ等呼出装置　・ 音声誘導装置
- 7．テレビ共同受信設備：・ テレビアンテナ（・ ＡＵ−　・ ＣＳＢＳＡ−　・ ＣＳＡ−　）／・ 地上波アンテナマスト（※ 壁面取付形　・ 自立形）／・ ＢＳアンテナマスト（・ 壁面取付形　・ 自立形）／・ 電界強度測定及び受信調査（※ 全チャンネル）
- 8．テレビ電波障害防除設備：・ 事前調査　・ 機器類
- 9．監視カメラ設備：・ 白黒方式　※ カラー方式／・ 伝送方式（・ アナログ　・ ネットワーク）
- 10．駐車場管制設備：・ 管制盤　・ 検知器（・ 光線式　・ ループコイル式）／・ 信号灯・警報灯　・ 発券機　・ カーゲート　・ カードリーダー
- 11．防犯・入退室管理設備：・ 接地工事（※ 本工事　・ 別途）

火災報知設備

- 1．工事範囲：・ 配管　・ 配線　・ 機器類
- 2．火災報知装置：・ 壁掛形　・ 自立形／・ 受信機　型　級　回線（　アドレス）／・ 複合盤ＧＰ　型　１級　９０回線（火報４０回線，自動閉鎖３０回線，ガス漏れ５回線　設備警報１５回線）／・ 副受信機　型　級　回線／・ 機器収容箱　・ 専用形（・ 埋込形　・ 露出形）　・ 屋内消火栓箱に組込み／・ 感知器類　型用　総数　個（・ 自動試験機能付）
- 3．非常警報装置：・ 非常ベル（自動式サイレンを含む）　・ 非常放送装置
- 4．自動閉鎖装置：・ 連動制御器／・ 自動閉鎖装置（・ 防火戸用　・ 防煙ダンパ用　・ 防火シャッター用）／・ 感知器
- 5．ガス漏れ火災警報装置：・ 受信機　回線（・ 都市ガス用　・ 液化石油ガス用）／・ 単独（・ 壁掛形　・ 自立形）　・ 火災受信機などとの複合盤／・ 検知器／・ 併設　・ 連動／・ 定格電圧（・ ＡＣ１００Ｖ　・ ＤＣ２４Ｖ）／・ ガス検知出力信号（・ 有電圧出力方式　・ 無電圧接点方式）
- 6．消火器類：・ 消火器　種別　・ 数量　本／・ 消火器収納箱　仕様　・ 材質　・ 数量　面

中央監視制御設備

- 1．工事範囲：・ 配管　・ 配線　・ 機器類
- 2．監視制御対象設備：・ 動力設備　・ 受変電設備　・ 発電設備　・ 火災報知設備
- 3．表示操作盤：・ 壁掛形　・ 自立形／組込み機器　・　・　・　・
- 4．監視制御装置：構成機器　・ グラフィックパネル　・内照式液晶ディスプレイ　・ 操作卓／・ 監視操作装置　・ 信号処理装置　・ 伝送装置　・ 分散処理装置／・ 中央処理装置　・ 補助記憶装置　・ 記録装置　・ 電源装置／・ 帳票用印字装置（・ インクジェット式　・ 写真式）

構内配電線路

- ① 工事範囲：⊙ 管路　⊙ 配線　・ 機器類
- ② 電気方式：・ 高圧　三相３線式　６ｋＶ　５０Hz／・ 低圧　三相３線式　２００Ｖ／⊙ 低圧　単相３線式　１００／２００Ｖ／・ 低圧　単相２線式　１００Ｖ
- ③ 布設方法：※ 地中埋設式（・ ＦＥＰ　・ ＧＬＴ　・ 厚鋼電線管）　⊙ 架空線式
- 4．柱上機器：・ 高圧負荷開閉器　※ 一般用　・ 耐重塩じん用／※ 地絡継電器付き（※ 方向性　・ 無方向性）／・ 避雷器　※ 一般用　・ 耐塩用／・ 高圧カットアウト，がいしなど　※ 一般用　・ 耐塩用
- 5．高圧ケーブルの端末処理：屋外側　※ 一般用　・ 耐塩用／※ 処理者銘板取付（屋内外共，線名，作業日，氏名を表示）
- 6．その他：東北電力（株）外線工事基準（架空線編）に準ずる。
- 7．外灯設備：・ 定格電圧　Ｖ　Ｗ
- 8．沈下対策：地中線路及びハンドホール等沈下が考慮される場合は，沈下対策を施す。（　）
- 9．標識シート：・ 高圧ケーブル　・ 低圧ケーブル
- 10．予備配管：屋外キュービクルから第１ハンドホールまでの予備配管（ＦＥＰ１００：１本）を設ける。／分電盤，動力盤から建物へのハンドホールまでの予備配管（ＦＥＰ８０：２本）を設ける。

構内通信線路

- ① 工事範囲：⊙ 管路　・ 配線
- 2．用途：⊙ 電話用　・ 時計，拡声用　・ 火災報知用
- 3．施工方法：※ 地中埋設式（・ ＦＥＰ　・ ＧＬＴ　・ 厚鋼電線管）　⊙ 架空線式
- 4．標識シート：※ 弱電用

表２「機器取付高さ」　図面に特記なき場合は下表による。ただし，これによりがたい場合は監督員と協議する。

電力設備	名称	測点	取付高（mm）	通信設備	名称	測点	取付高（mm）
電力共通	取引用計器	地上～窓中心	約 1,800	電話	引込線留め高	地上～引込点	
	引込開閉器	床上～中心	1,800～2,200		集合保安器箱	天井下～上端	200
	分電盤	床上～中心	1,500(上端1,900以下)		端子盤(廊下、室内)	床上～下端	300
					〃（ＥＰＳなど）	床上～中心	1,500
					壁付アウトレット(一般)	床上～中心	300
					〃（和室）		150～200
電灯	スイッチ（一般）	床上～中心	1,300	時計・拡声・通信設備	壁掛形親時計	床上～中心	1,500(上端2,000以下)
	〃（和室）	〃	1,200		子時計	〃	2,300
	コンセント(一般)	〃	300		壁掛形スピーカ	〃	2,300
	〃（和室）	〃	150～200		壁付アッテネータ	〃	1,300
	〃（台上）	台上～中心	100		壁付インターホン(一般)	床上～中心	1,300
	〃（ファン用）	床上～下端	ファン下端		〃（身体障害者）	〃	1,300
	〃（厨房）	床上～中心	800～1,000		壁付アウトレット(一般)	〃	300
	〃（車庫）	〃	1,300		〃（和室）	〃	150～200
	〃（機械室）	〃	500～1,000		機器収容箱	天井下～上端	200
	〃（土間）	〃	800～1,300		直列ユニット(一般)	床上～中心	300
	ブラケット(一般)	床上～中心	2,100～2,300		〃（和室）	〃	200
	〃（踊場）	〃	2,000～2,500	警報・表示等	表示盤	床上～中心	2,300
	〃（鏡上）	鏡上端～中心	150		壁付発信機	〃	1,300
	避難口誘導灯	床上～下端	1,500以上		ベル，ブザー，チャイム	〃	2,300
	廊下通路誘導灯	床上～上端	1,000以下		壁付押しボタン(一般)	床上～中心	1,300
					〃（身体障害者玄関）	〃	900
動力	壁掛形制御盤	床上～中心	1,500(上端2,000以下)	火災報知器	受信機	床上～中心	800～1,500
	開閉器箱	〃	1,500		副受信機	〃	800～1,500
	電磁開閉器用ボタン	〃	1,300		機器収容箱	〃	800～1,500
身障者用	非常ボタン(便所用)	床上～中心	900		発信機	〃	800～1,500
	壁付インターホン(親機)	〃	1,300		表示灯	床上～中心	2,100
	〃（玄関子機）	〃	1,100		ベル	〃	2,300
	廊下表示灯(復旧ボタン付)	〃	1,300		液化石油ガス用検知器	床上～上端	250
	身障表示ランプ	〃	1,500		都市ガス用検知器（軽質）	天井～上端	150
	スイッチ	〃	1,100		〃（重質）	床上～上端	250

~~表１「完成書類」　引き渡し時には下記の書類を提出する。~~　※完成書類は建築による。

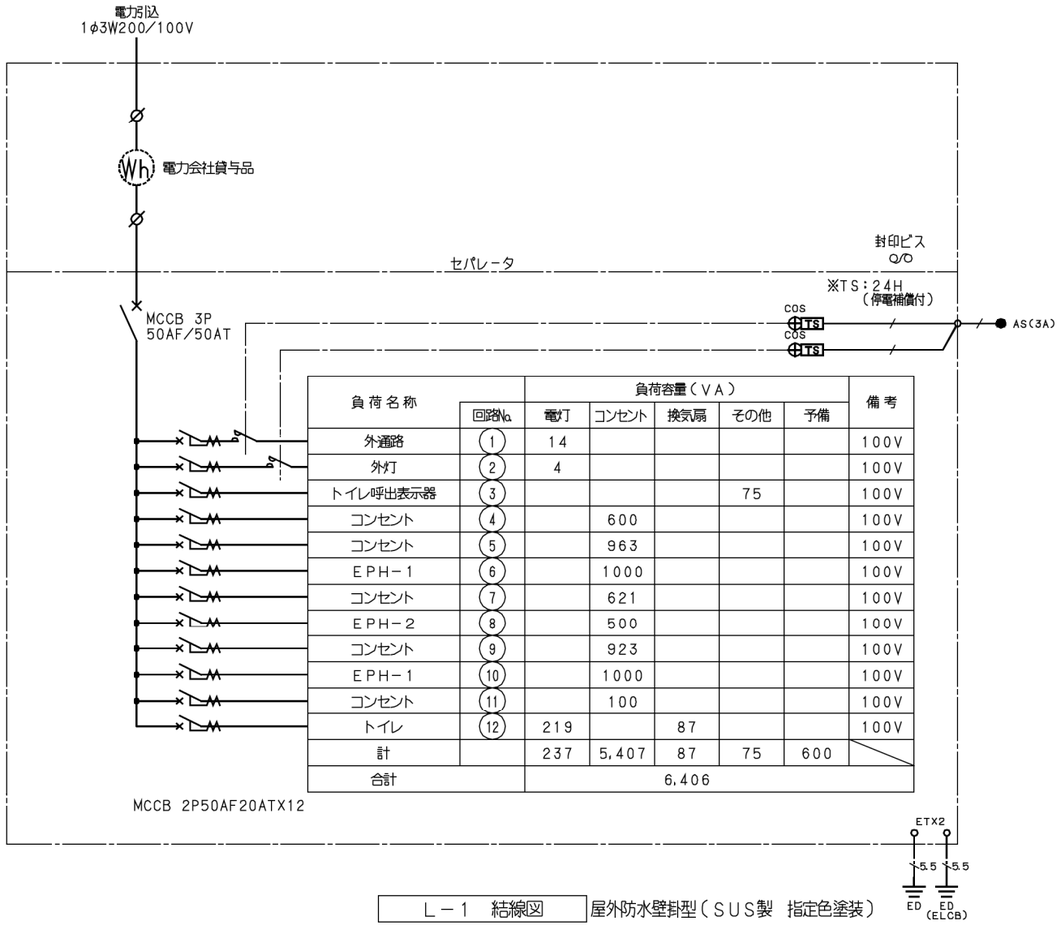
名称	完成書類	部数	名称	完成書類	部数
1　完成調書	営繕工事完成引渡要領（平成１３年４月１日版）	1部	9　取扱説明書 ①保守に関する案内書 ②機器別取扱説明書 ③緊急連絡先一覧 ④各種保証書	Ａ４版：黒表紙金文字製本 （2　完成図書と合本可）	1部
2　完成図書	Ａ４版：黒表紙金文字製本 （機器完成図，取扱説明書と合本可。ただし，厚さが８０mmを越える場合は分冊とする。）	1部	10　管理の手引き ①工事概要書 ②機器完成図 ③機器別取扱説明書 ④保守に関する案内書 ⑤緊急連絡先一覧表	Ａ４版：チューブ式ファイル	1部
3　完成原図	Ａ１版は三つ折りケース収納 Ａ２版は二つ折りケース収納	1組			
4　完成図	青焼製本 Ａ１版又はＡ２版の二つ折り	1部			
5　完成図(縮小)	青焼縮小製本 Ａ３版二つ折り うち１部は設備課保管	2部	11　工事写真 ①施工写真	Ａ４版：チューブ式ファイル （着手前，施工状況，完成の各写真）	1部
6　完成図(電子データ)	JWW又はDXF形式のCADデータ及びPDF形式	CD 2枚	②完成写真	Ａ４版：ペーパーファイル 完成届に添付	1部
7　施工図	青焼製本 Ａ１版又はＡ２版の二つ折り （施工図の枚数が少ない場合は，4　完成図と合本可）	1部	12　工事に関する書類 ①施工計画書 ②施工要領書 ③承諾書・確認書 ④協議書 ⑤打合せ議事録 ⑥工事週報又は日報 ⑦安全に関する書類 ⑧廃棄物管理票の写し	Ａ４版：チューブ式ファイル	1部
8　機器完成図 ①機器別完成図 ②機材材質証明書 ③機材検査成績書 ④工場試験成績書 ⑤工場立会検査成績書 ⑥現場据付試験成績書 ⑦総合試運転成績書	Ａ４版：黒表紙金文字製本 （2　完成図書と合本可）	1部			

注記：機器参考図について

本図面中で，機器の品質・グレードを規定する目的で機器の寸法形状や諸元を参考図として記載している。

これらのものについては，その品質・性能が図面と同等品もしくはそれ以上のものを使用するものとする。

工事名	平成28年度　花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ）建設工事	図面番号
図面名	電気設備工事特記仕様書　　縮尺 N/S	Ｅ－０１



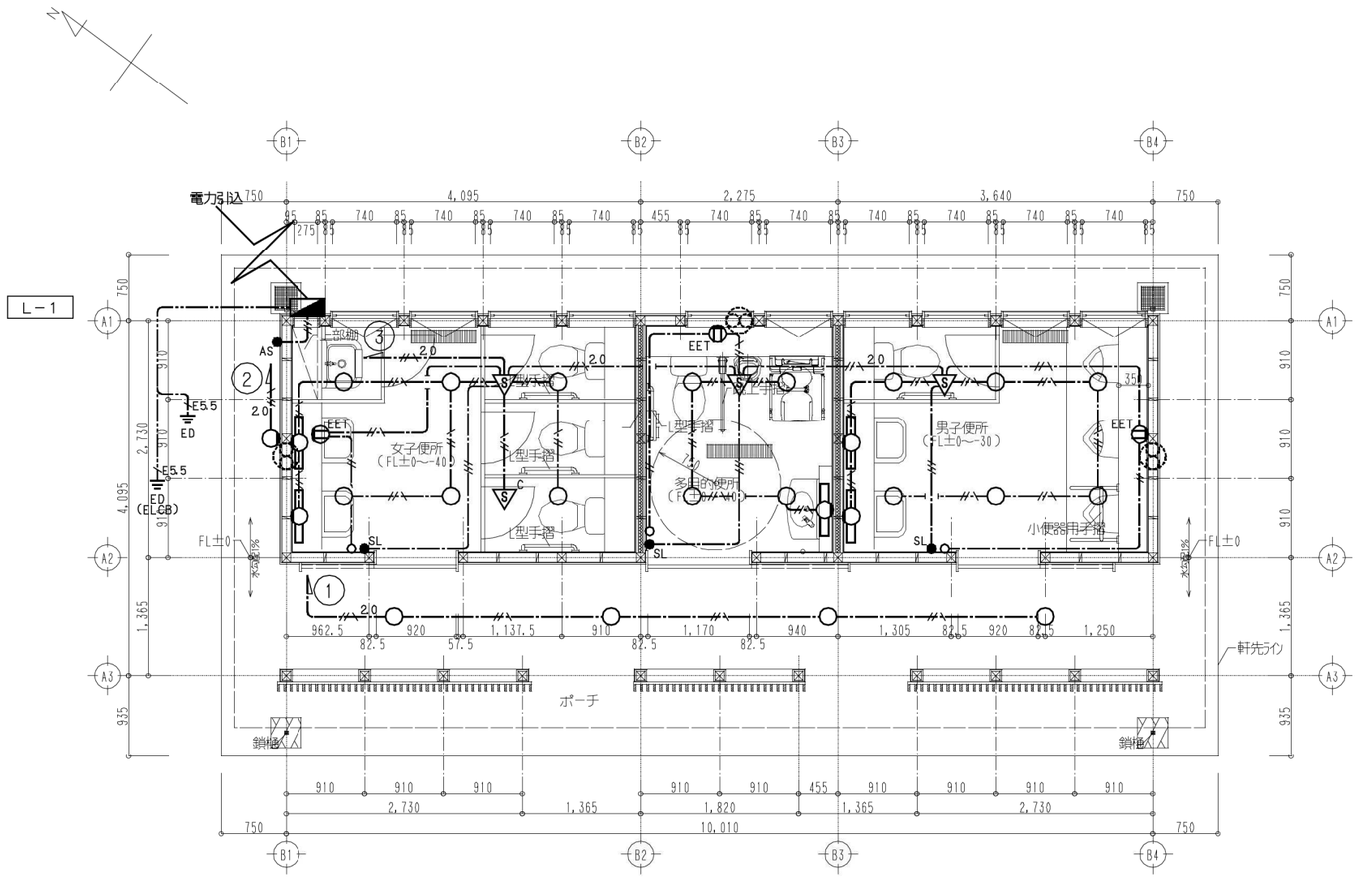
負荷名称	回路No.	負荷容量（VA） 電灯	コンセント	換気扇	その他	予備	備考
外通路	1	14					100V
外灯	2	4					100V
トイレ呼出表示器	3				75		100V
コンセント	4		600				100V
コンセント	5		963				100V
EPH−1	6		1000				100V
コンセント	7		621				100V
EPH−2	8		500				100V
コンセント	9		923				100V
EPH−1	10		1000				100V
コンセント	11		100				100V
トイレ	12	219		87			100V
計		237	5,407	87	75	600	
合計		6,406					

L−1　結線図　屋外防水壁掛型（SUS製　指定色塗装）

照明器具姿図

A	LED　15形直管蛍光灯1灯相当	D	LEDポーチライト　40形電球1灯器具相当
器具光束840lm、消費電力9．5W、電圧100V Ra83、昼白色（5000K） 壁面・天井面取付専用、拡散タイプ 両面化粧タイプ カバー：プラスチック（乳白） パナソニック　LGB85042LE1同等品		電球色（2700K）、Ra80 器具光束115lm、消費電力3．4W、電圧100V 防雨型、天井直付型・壁直付型、ネジ込み方式 枠：プラスチック（シルバーメタリック） カバー：アクリル（乳白）	パナソニック　LGW85071F同等品
B	軒下用LEDシーリングライト　100形用		
LEDソケッタブル別売 電圧100〜242V 本体：アルミダイカスト（ホワイトつや消し仕上） パネル：アクリル（透明つや消し） 天井面取付専用 パナソニック　NNN54540W同等品			
C	LEDブラケット　40形電球1灯器具相当		
電球色（2700K）、Ra80 器具光束253lm、消費電力3．4W、電圧100V 壁面・天井面取付専用 カバー：ガラス（乳白） 本体：プラスチック（ホワイト） カバーキャッチ付、ネジ込み方式、防湿型・防雨型 W=116　H=116　出しろ171 パナソニック　LGW85014WK同等品			

工事名	平成28年度　花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ）建設工事	図面番号
図面名	盤結線図・照明器具姿図	縮尺 N/S
		E − 02



1階 平面図 1/30

外壁	
D	1

女子トイレ	
A	2
B	6

多目的トイレ	
A	1
B	4

男子トイレ	
A	2
B	6

外通路	
C	4

FC 1
1φ100V
0.035kW

FC 2
1φ100V
0.017kW

FC 1
1φ100V
0.035kW

機器凡例

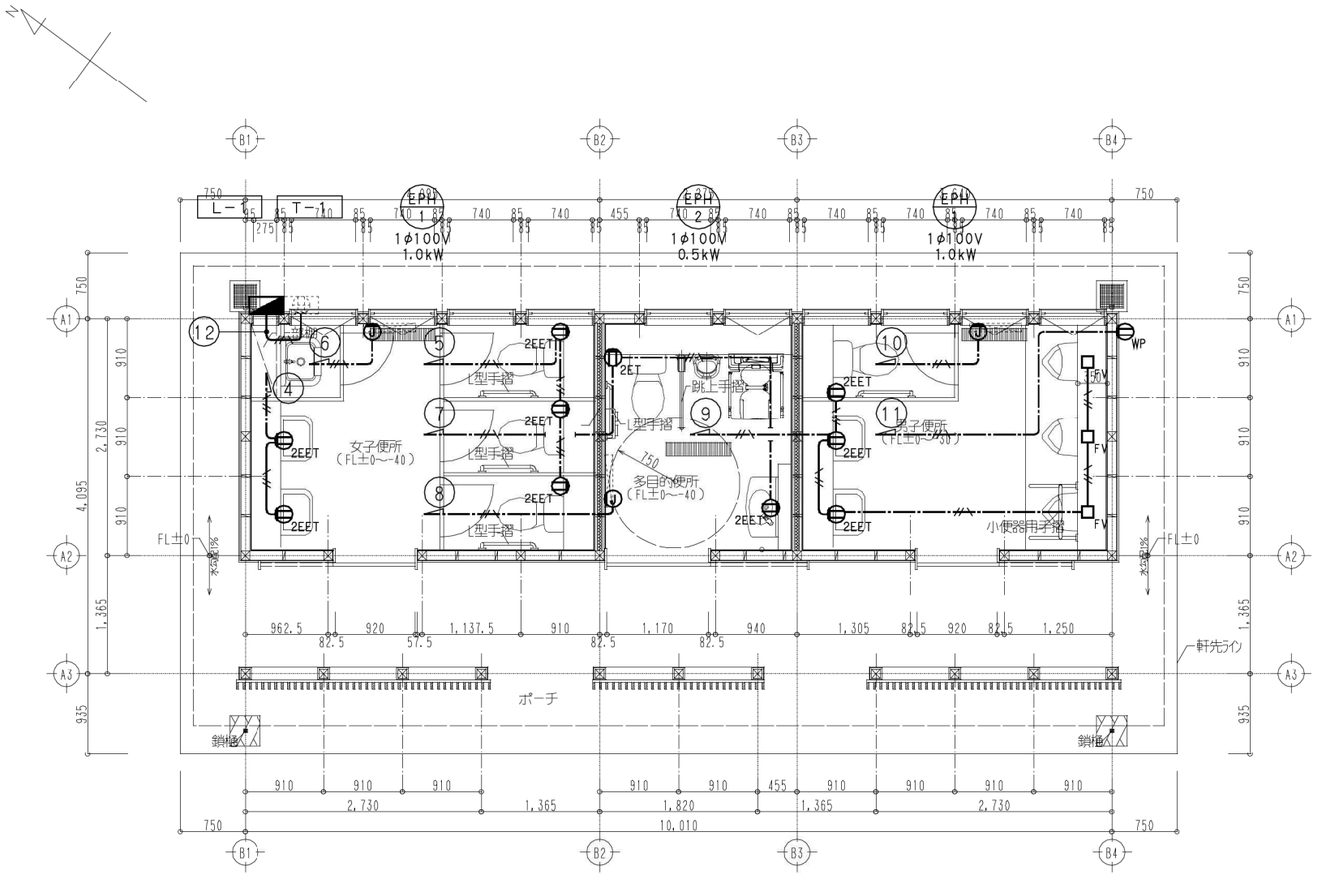
記号	名　称	内　容
S	人感センサー	親機
S C	人感センサー	子機
● SL	操作スイッチ	切－自動－連携入
○	埋込スイッチ	１Ｐ１５ＡＸ１（ＰＬ付）
● AS	自動点滅器	１００Ｖ　３Ａ　電子式
EET	埋込コンセント	２Ｐ１５ＡＸ１　ＥＥＴ付
	※スイッチ、コンセントプレートはＳＵＳとする。	

注　記　※特記なき配線は下記とする。

配線凡例	ケーブル種別	保護管
2.0	EM－EEF2.0－3C	PF22
	EM－EEF1.6－2C	PF16
	EM－EEF1.6－3C	PF22
	EM－EEF1.6－3C	PF22
配線種別		
	天井ころがし配線	

※　二重天井内はケーブルころがし配線とし、壁立上げ・引下げ部分は適合電線管にて保護すること。

工事名	平成28年度　花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ）建設工事		図面番号
図面名	電灯設備図	縮尺 1/50	E － 03



1階 平面図 1/30

機器凡例

記号	名　称	内　容
2EET	埋込コンセント	2P15A×2　EET付
WP	埋込コンセント（WP）	2P15A×2　EET・扉付
	※スイッチ、コンセントプレートはSUSとする。	

注　記　※特記なき配線は下記とする。

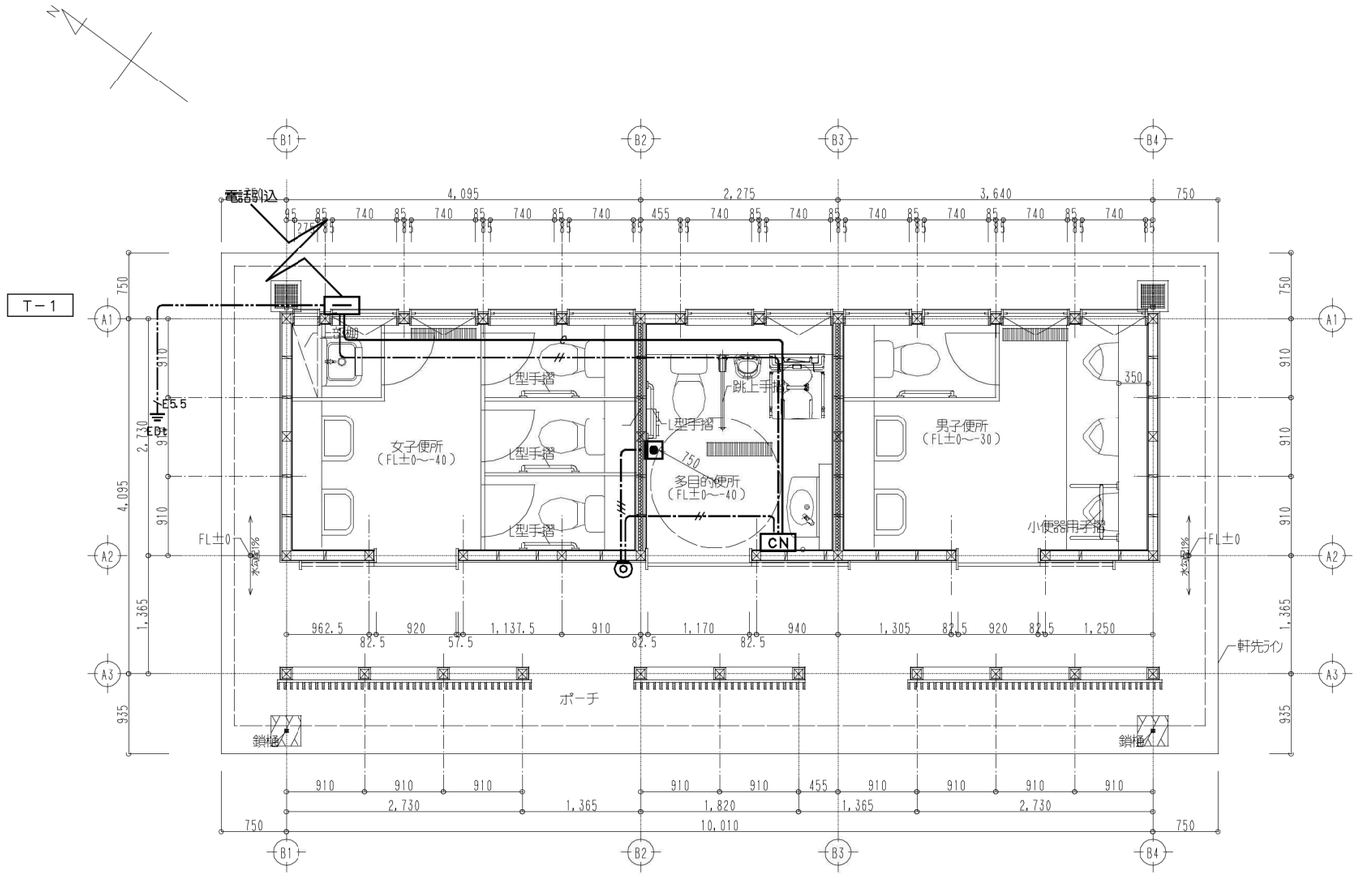
配線凡例	ケーブル種別	保護管
	EM-EEF2.0-3C	PF22
	EM-IE2.0×2　E2.0	PF16
配線種別		
	天井ころがし配線	
	隠蔽配管配線	

※　二重天井内はケーブルころがし配線とし、壁立上げ・引下げ部分は適合電線管にて保護すること。

工事名	平成28年度　花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ）建設工事		図面番号
図面名	コンセント設備図	縮尺 1/50	E－04

端子盤表

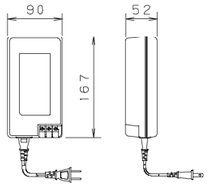
盤名称	誘導支援設備	接地端子	露出コンセント	備考
T－1	電源アダプタースペース 自動通報装置　スペース 木板付	EDt	2P15AEX2	概算寸法400X500X150 屋外防水壁掛型（SUS製　指定色塗装）



1階 平面図 1/30

PS	電源アダプター

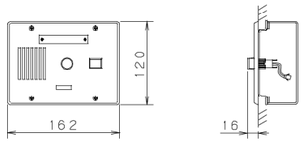
PS-1225A同等品



電源電圧	AC100V 50/60Hz
入力容量	75VA
出力電圧	DC12V
出力電流	2.5A
形　状	据置・壁取付（専用金具）両用
材　質	難燃性樹脂

CN	トイレ呼出表示器（移報接点付）

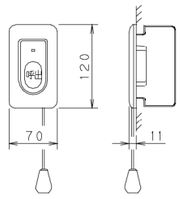
CN-1A34/A-D同等品



電源電圧	DC12V（電源アダプターから供給）
形　状	壁埋込型（JIS3個用スイッチボックス）
材　質	ステンレス t0.8
窓　数	1窓
表示方式	断続ブザー音と表示窓点灯

●	呼出ボタン（引きひも付）

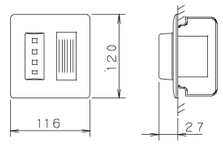
NBR-7HWA同等品



形　状	壁埋込型（JIS1個用スイッチボックス）
材　質	自己消火性樹脂
備　考	引きひも式、押ボタン式両用

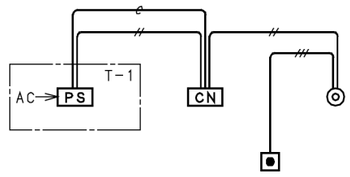
◎	ブザー付廊下灯

NR-BZLA27L/A同等品



形　状	壁埋込型（JIS2個用スイッチボックス）
材　質	ステンレス
備　考	ブザー付

系統図



特記なき配線は下記とする。

―//―	EM-AE1.2-2C保護管（PF16）
―///―	EM-AE1.2-3C保護管（PF16）
―e―	導入線　保護管（PF16）

工事名	平成28年度　花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ）建設工事		図面番号
図面名	誘導支援設備図	縮尺 1/50	E－05

機 械 設 備 工 事 特 記 仕 様 書

Ⅰ. 工事概要

1. 工事名称　平成28年度　花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ）建設工事

2. 工事場所　※建築図による

3. 建物概要

建物名称	構造	階数	延床面積(㎡)	建築面積(㎡)	消防法施行令別表第一による用途区分	備考
公衆トイレ	W造	1階	27.32(㎡)	40.99(㎡)	15項	

4. 工事種目（⊙印のついたものを適用する。）

工事種目 ＼ 建設別及び屋外	公衆トイレ							屋外
・空気調和設備								
⊙換気設備	新設一式							
・排煙設備								
・自動制御設備								
⊙衛生器具設備	新設一式							
⊙給水設備	新設一式							新設一式
⊙排水設備	新設一式							新設一式
・給湯設備								
・消火設備								
・厨房機器設備								
・ガス設備								
・さく井設備								
・浄化槽設備								
・昇降機設備								
・その他工事								

5. 指定部分　※ なし　・ あり　（工　期：平成　年　月　日）　（対象部分：　）
6. 概成工期　※ なし　・ あり　（工　期：平成　年　月　日）
6. 設備概要　（⊙印のついたものは、主要方式を示す）

方式	設備概要	
空気調和方式等	・ 空気調和	・ 全空気方式　・ ファンコイルユニット，ダクト併用方式　・ パッケージ方式
	・ 温風暖房	・ 全空気方式　・ ファンコンベクター，ダクト併用方式
	・ 直接暖房	・ 温水暖房　・
自動制御方式	・ 電気式　・ 電子式　・ デジタル式　・ 空気式　・ 中央監視制御	
給水方式	⊙ 水道直結方式　・ 高置タンク方式　・ タンクレスブースター方式　・	
排水方式	建物内の汚水及び雑排水 ⊙ 分流式　・ 合流式） 建物外の汚水及び雑排水（・ 分流式 ⊙ 合流式） 放流先　汚水 ⊙ 下水道直放流　・ 浄化槽） 雑排水 ⊙ 下水道直放流　・ 浄化槽　・ 側溝　・ 別途桝）	
給湯方式	⊙ 局所式　・ 中央式	
消火設備方式	・ 屋内消火栓　（・ 湿式　・ 乾式）　・ 連結送水管　・ 屋外消火栓 ・ スプリンクラー　（・ 湿式　・ 乾式）　・ 不活性ガス消火　・ 泡消化 ・ 粉末消火　・ 連結散水　・ フード等用簡易自動消火	
ガス設備方式	・ 都市ガス　種別（13A）　kJ／m3（N）（供給圧力　Pa）　・ 液化石油ガス	

Ⅱ. 特記仕様書

1. 一般事項　（1）特記仕様書及び図面に記載されていない事項は，すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編　平成２５年版）」（以下「標準仕様書」という。），同部設備・環境課監修の「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編　平成２５年版）」（以下「標準図という。），及び国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「機械設備工事監理指針（平成２５年版）」による。

（2）電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合，電気設備工事及び建築工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。なお，電気設備工事の工事仕様書は（ ／ ）図，建築工事の工事仕様書は（ ／ ）図による。

2. 特記事項　（1）項目は番号に⊙印の付いたものを適用する。
（2）特記事項は，⊙印の付いたものを適用する。⊙印の付かない場合は，※印の付いたものを適用する。
⊙印と※印の付いた場合は，共に適用するものとする。

一般共通事項

項目	特記事項
① 適用基準等	⊙ 営繕工事写真撮影要領・同解説　設備工事編（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　平成２４年度版） ⊙ 建設工事執行規則（昭和３９年３月宮城県規則第９号） ⊙ 宮城県建設工事元請・下請関係適正化要綱（平成２７年４月１日施行） ・ 宮城県建築工事写真撮影要領（宮城県土木部制定　平成１２年版）
② 機材等	※ 本工事に使用する機材等は，設計図書に規定するもの，またはこれらと同等のものとする。ただし，これらと同等のものとする場合は，監督職員の承諾を受けるものとする。 ※ 本工事に使用する材料の選定及び施工に当たっては，「県有施設のシックハウスマニュアル」に留意し，揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。 ※ 使用する材料のホルムアルデヒド仕様は，日本工業規格及び日本農林規格のＦ☆☆☆☆規格品，壁装材料協会規格適合品または同等品，化学物質等製品安全データシート等にホルマリン不使用が明示されたものとする。
③ 機材の品質・性能証明	本工事着手前に主要機材メーカーリスト及び機器製作図を提出し，監督職員の承諾を受ける。 また，設備機材は，設計図書に定める品質及び性能を有することの証明資料又は外部機関等が発行する資料等のの写しを監督職員に提出して，承諾を受ける。なお，標準仕様書に規定される製作図，試験成績表等を含む。
④ 保険	本工事着手前に工事目的物及び工事材料等を，本工事完了後引渡し期日まで，火災保険及びその他の保険に付し，写しを監督職員に提出のこと。
5. 雇用	本工事は，公共職業安定所の紹介する者の雇い入れに努めること。
⑥ 施工計画書および施工図等	工事の着手に先立ち，工事の総合的な計画をまとめた総合施工計画書を作成し，監督職員に提出する。 工事の施工に先立ち，工種別施工要領書および施工図等を作成し，監督職員の承諾を受ける。 また，県が実施する「公共事業環境マネジメントシステム」の対象工事においては，環境配慮計画（実施）書を作成し，監督職員に提出する。
⑦ 工事実績情報の登録	請負額が５００万円以上の場合は，工事実績情報に登録する。 受注時，変更時及び完成時にあらかじめ監督職員の確認を受け，登録手続きを行い，工事カルテの受領証を監督職員に提出のこと。
8. 手続	工事の着手，施工，完成にあたり，関係官公署その他の関係機関への必要な届出手続等を遅滞なく行う。 なお，当該手続きに係わる費用は，請負者の負担とする。
⑨ 事故報告	施工中に事故が発生した場合には，直ちに監督職員に通報するとともに，別に指示する「事故報告書」を指示する期日までに監督職員に提出する。
10. 電気保安技術者	※ 適用する　・ 適用しない
⑪ 技能士の適用	本工事に下記の当該職種別技能士（・1級・2級）を適用させる。（資格証の写しを提出する） ・ 配管（配管工事）　・ 建築板金（ダクト製作及び取付け）　・ 熱絶縁施工（保温工事） ・ 冷凍空気調和機器施工（チリングユニット，パッケージ形空気調和機の据付及び調整）
⑫ 足場等	・ 別契約の関係請負者が定置したものは無償で使用できる。　・ 本工事で設置 枠組足場を設ける場合は，「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成２１年４月改訂）」によるものとし，二段手すり及び幅木の機能を有するものでなければならない。
⑬ 監督職員事務所	※ 設けない　・ 設ける（　号・・・建築工事仕様書）
⑭ 工事用電力，水，その他	本工事に必要な工事用電力，水及び諸手続などの費用はすべて引渡しまで請負者の負担とする。
15. 工事用仮設物	構内に作ることが　※ できる　・ できない
⑯ 残土処理	・ 構外搬出　※ 構内指示の場所に敷き均し　⊙ 構内指示の場所にたい積
17. 発生材の処理	（1）建設リサイクル法の規定に基づく通知義務等の該当　・ なし　・ あり（　） （2）フロンガス回収破壊法の規定に基づく措置の該当　・ なし　・ あり（　） （3）引渡しを要するもの　※ なし　・ あり（　） （4）廃棄物は，「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等の関係法令を遵守し，場外搬出の上，適切に処分すること。 （ア）特別管理産業廃棄物　※ なし　・ あり　（　） （イ）特定建設資材廃棄物の再資源化等を行う施設 ・ コンクリート（　） ・ コンクリート及び鉄から成る建設資材（　） ・ 木材（　） ・ アスファルトコンクリート（　） （ウ）その他発生材の処分を行う施設 ・ コンクリートガラ等の安定型の産業廃棄物（　） ・ 木くず等の管理型の産業廃棄物（　） 建設リサイクル法 ・ 対象工事 落札が決定した業者は，分別解体等省令で定める様式第１号別表１～３のうち当該工事に該当する別表及び工程表を作成し，契約締結前に，契約担当者等に説明書を提出するものとする。また，特定建設資材廃棄物の再資源化等が完了したときは，建設リサイクル法第１８条に基づいて書面により報告すること。 ・ 対象外工事
⑱ 総合調整	※ 本工事において下記の項目の総合調整を行い，報告書を提出する。　・ 別途 総合調整の項目 ・ 風量調整　⊙ 水量調整　・ 室内外空気の温湿度測定 ・ 室内気流及びじんあいの測定　・ 騒音の測定　⊙ 初期運転状態の記録 ⊙ 末端水栓の水質測定　・ し尿浄化槽放流水質の測定 ⊙ 機器の絶縁抵抗の測定　⊙ 水圧調整 測定箇所は，監督職員の指示による。
⑲ 容量等の表示	(1)機器類の能力，容量等は指示された数値以上とする。 (2)電動機出力，燃料消費量及び圧力損失は，原則として表示された数値以下とする。
⑳ 耐震措置	機器，配管，ダクト等は耐震を考慮し堅固に据え付け，取付け又は支持を行う。 耐震措置の計算及び施工方法は，次に掲げる事項以外すべて建築設備耐震設計・施工指針（国土交通省国土技術政策総合研究所・独立法人建築研究所監修２０１４年版）による。

設計用標準水平震度（Ks）

設置場所	特定の施設 重要機器	特定の施設 一般機器	一般の施設 重要機器	一般の施設 一般機器
上層階、屋上及び塔屋	2.0（2.0）	1.5（2.0）	1.5（2.0）	1.0（1.5）
中層階	1.5（1.5）	1.0（1.5）	1.0（1.5）	0.6（1.0）
一階及び地下層	1.0（1.0）	0.6（1.0）	0.6（1.0）	0.4（0.6）

注（1）設置場所の区分は標準仕様書による。　注（2）（ ）内の数値は防震支持の機器の場合に適用する。
（2）本工事の施設は ⊙ 一般の施設　・ 特定の施設）とする。
（3）地域係数は1.0とする。
（4）100kg以下の軽量な機器（標準仕様書の適用を受けるものは除く）においても耐震を考慮し，据付又は取付を行うものとするが，前記指針の方法によらなくてもよい。
（5）重要機器類（高置タンク，受水タンクは機器表による。）
（6）昇降機のつり合おもりブロックの脱落防止は，十分な強度を有する方法で固定し，水平鉛直方向の地震力に対して，つり合おもりが枠から脱落しないようにした構造とすること。

項目	特記事項
㉑ 弁等のサイズ	特記されていない弁等のサイズは，機器付属品を除き接続配管のサイズと同じとする。
㉒ 電線類	本工事では環境配慮の観点から，原則としてEMケーブルを使用するものとする。なお，標準仕様書第６編通信・情報設備工事　第１章　機材　第１節　電線類等　1.1.1　電線類等　表1.1.1電線類に次の種類を追加する。（EM－CEES，EM－UTP，EM－MEES，EM－EBT）
23. 溶接部の非破壊検査	対象配管系統　・ 冷温水　・ 冷却水　・ 消火（水用）　・ 油　・ ガス 検査の種類　・ 浸透探傷検査（PT）又は磁粉探傷検査（MT）　・ 放射線浸透検査（RT）
24. はつり	既存のコンクリート部の床，壁の配管貫通部等の穴明けは原則としてダイヤモンドカッターによる。
㉕ 支持及び固定	(1) 標準仕様書以外の天吊り機器の支持は，標準仕様書第３編2.1.13（b）に準ずる。 (2) 横走り主ダクト・主管の振れ止めは端部も行うこと。
㉖ 支持金物・固定金具	(1) ポンプ・屋外機器のアンカーボルトのナット及び屋外の配管・ダクトに使用する支持金物はステンレス製（SUS304）とし，ポンプ・屋外機器のアンカーボルトのナットにはナットキャップ（樹脂製）を取り付ける。 (2) 振動を伴う機器の支持金物のナットはダブルナットとする。 (3) 冷水及び冷温水管の吊バンド等の支持部は、合成樹脂製の支持受けを使用する。
㉗ 埋戻し土・盛土	図面に特記のない場合は下記によるほか共通仕様書第２編による。ただし，各工事種目で別に指定されたものは除く。 ⊙ 根切り土の中の良質土（ただしヒューム管以外の管の周囲は山砂の類）　⊙ 山砂の類
㉘ 地中埋設標及び埋設表示用テープ	地中埋設標及び埋設用テープは，下記により屋外埋設部分に布設する。なお，地中埋設標の設置場所は図示によるほか，屋外埋設管の分岐及び曲がり部に設置する。 (1)給水管　⊙ 地中埋設標　⊙ 埋設用表示テープ (2)ガス管　・ 地中埋設標　・ 埋設用表示テープ (3)油管　・ 地中埋設標　・ 埋設用表示テープ (4)消火管　・ 地中埋設標　・ 埋設用表示テープ
㉙ 保温	・ 主機械室は下記の室とし，他は各階機械室とする。 主機械室： ・ ダクトの保温の外装は下記による。内装は（・ ロックウール ⊙ グラスウール）

区分	場所	外装
屋内露出	倉庫・書庫	⊙ アルミガラスクロス　・
屋内露出	各階機械室	⊙ アルミガラスクロス　・
屋内露出	主機械室	⊙ アルミガラスクロス　・
屋内露出	居室・廊下など	⊙ カラー亜鉛鉄板　・
屋内隠ぺい，PS内		⊙ アルミガラスクロス
屋外露出，多湿箇所（　）		⊙ ステンレス鋼板

⊙ 配管の保温の外装は下記による。内装は（・ ロックウール ⊙ グラスウール　・ ポリスチレンフォーム）

区分	場所	外装
屋内露出	倉庫・書庫	⊙ アルミガラスクロス　・
屋内露出	各階機械室	⊙ アルミガラスクロス　・
屋内露出	主機械室	⊙ アルミガラスクロス　・
屋内露出	居室・廊下など	⊙ 合成樹脂製カバー　・
屋内隠ぺい，PS内		⊙ アルミガラスクロス
屋外露出，多湿箇所（　）		⊙ ステンレス鋼板　・着色アスファルトプライマー ・ アスファルトプライマー

項目	特記事項
㉚ 塗装	（1）下記部位に使用する，外面めっき電線管の露出配管には塗装を施す。 ※ 屋外露出　※ 居室 （2）保温を行わない居室・便所・給湯室及び屋外の露出配管（鋼管）には塗装を行う。
㉛ 防食処理	土中埋設の鋼管（ステンレス鋼管及び外面被覆鋼管は除く）及び金属製継手類（砲金製弁・継手を含む）にはペトロラタム系防食テープ及びプラスチックテープによる防食処理を行う。（埋設配管は原則として，防食処理不要の管材とする。）
㉜ 山留め	切取り面にその箇所の土質に見合った勾配を保って掘削できる場合を除き，掘削の深さが1.5mを超える場合には，山留めを行うものとする。
33. 舗装工事	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の建築工事標準仕様書２２章（舗装工事）及び同監理指針（舗装工事）による。
34. 他工事との取り合い	図面に特記なき場合は，表「工事区分表」による。
35. 予備品等	ヒューズ（温度ヒューズも含む）及び表示灯は予備品として，２０%納入する（種別ごと最低１個）。
36. 施工条件	別添の施工条件明示書による。
37. 三相誘導電動機	省エネ法の特定機器の対象となる機器はJIS C 4034-30:2011のIE3（プレミアム効率）に相当する機器を導入すること。

空気調和・冷房・暖房設備

1. 設計温湿度

	外気 温度(DB)	外気 湿度(RH)	屋内 一般系統 温度(DB)	屋内 一般系統 湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	コンピューター室系統 温度(DB)	コンピューター室系統 湿度(RH)
夏期	℃	%	26℃	50%	℃	%	24℃	45%
冬季	℃	%	22℃	40%	℃	%	24℃	45%

項目	特記事項
2. ばい煙濃度計	取付箇所は図示による。
3. 煙突	※ 別途　・ 本工事（鋼板厚　mm、高さ　m以上）
4. 煙道	※ 煙道径300mm以下は鋼板厚3.2mm，300mmを超えるものは4.5mmとする。　・ 図示による。 （煙道径が400mmを超えるものには，掃除口に蝶番を取り付ける。）
5. ダクトの区分	低圧とする（高圧1及び高圧2の部位は図示による。）
6. 長方形ダクトの工法	・ アングルフランジ工法　・ コーナーボルト工法（・ 共板　・ スライド）
7. 風量測定口	取付け場所は図示による。取付面は監督職員の指示による。
8. チャンバ	(1)内貼りを施すチャンバーの表示寸法は外法を示す。 (2)空気調和機に取付けるサプライチャンバー及びレタンチャンバーで消音内貼りしたチャンバーには，点検口を設ける。なお点検口の大きさは図示による。 (3)外壁に面するガラリに直接取り付けるチャンバー及びホッパーは雨水の滞留のないように施工する。
9. 防煙ダンパ	(1)復帰方式　※ 遠隔式（電気式（定格入力DC24V，0.7A以下） (2)復帰動作　※ 順送り
10. 配管材料	(1) 冷温水管　※ 配管用炭素鋼鋼管（白）　・ (2) 冷却水管　※ 配管用炭素鋼鋼管（白）　・ (3) 蒸気管（給気管）　※ 配管用炭素鋼鋼管（黒）　・ （還水管）　※ 圧力配管用炭素鋼鋼管（Sch40） (4) 油管，油用通気管（一般）　※ 配管用炭素鋼鋼管（黒）　・ （土中）　※ ポリエチレン外面被覆鋼管 (5) 膨張管，空気抜き管，膨張タンクよりボイラ等への給水管　※ 配管用炭素鋼鋼管　・ (6) 空調用排水管　※ 配管用炭素鋼鋼管（白）　・ (7) 冷媒管　※ 断熱材被覆銅管（製造者標準品）　・ 銅管
11. 弁類	※ JIS又はJV5K　・ JIS又はJV10K ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。
12. 鋼管用伸縮管継手	※ ベローズ形　・ スリーブ形
13. 温度計	※ 共通仕様書，標準図による他，図示した箇所に取り付ける。（配管用はL形，ダクト用は円形） ・ 空気調和機，温風暖房機まわりの給気ダクト，還気ダクト及び外気ダクト ・ 冷温水ヘッダー（往）及び冷温水ヘッダーの各還り管 ・ パッケージ形空気調和機の冷却水及び温水の出入口
14. 瞬間流量計	※ 着脱可能形（※ 全数　・ 図示による） 着脱可能形の場合，その指示部（・ 40A用　個　・ 100A用　個　・ 250A用　個）を付属する。 ・ 固定形（止水コック付）　・ 測定用タッピング（32mmピトー管流量計用）
15. オイルタンク	（1）オイルタンク本体は図示による。 （2）遠隔油用指示計　※ 取付ける　・ 取付けない （3）計量尺は，青銅製，黄銅製又はアルミ製とし，100リットル実測目盛刻印とする。計量口は錠付とする。
16. 積算油量計	図示の箇所に取付ける（熱源機器等）。
17. 注油口及び指示ボックス	標準図（機材　6　）による。 ・ 単独形　・ 共用形（・ ローリーアース付）
18. 消音内貼り	(1) 施工箇所は図示による。 (2) 内貼りチャンバー類の寸法表示は，外形寸法とする。 (3) 吹出口に接続するチャンバーの消音内貼りは別図による。
19. 保温	(1)建物内の空気抜き管の保温は空気抜き弁までとし（空気抜き弁も含む），仕様は冷温水管の項による。 (2)屋外露出配管の保温は，給水設備の項による。 (3)外気取り入れダクト及びチャンバーボックスの保温　※ 要（全熱交換器の給気ダクトを含む）　・ 不要 (4)排気ダクトの外壁開放部より1m程度保温する。（チャンバーボックスを含む） (5)冷媒管（断熱材被覆銅管）の保温外装 屋内露出部　・ 保温化粧ケース（樹脂製）　・ 外装なし　・ 屋外　⊙ 保温化粧ケース（鋼板製）　・ (6)高圧蒸気管及びヘッダーの保温厚は　mmとする。
20. 電気工事の範囲	(1)地震感知器の配管配線　※ 別途　・ 本工事 (2)防煙ダンパと連動制御器迄の配管配線及び連動制御盤から煙感知器迄の配線配管は ※ 別途　・ 本工事
㉑ 塗装	(1) 屋内露出裸ダクトの塗装（居室を除く）は　※ 行わない　・ 行う (2) 屋内露出冷却水配管の塗装（居室は除く）は ※ 行わない　・ 行う

換気設備

項目	特記事項
① 準拠事項	［ 空気調和　・ 冷房　・ 暖房設備 ］の当該事項に準ずる。 ⊙ 5 ⊙ 6 ⊙ 7 ⊙ 9 ⊙ 18 ⊙ 21
2. 開放形湯沸器排気フード	※ 別途　・ 本工事　・既設
3. 厨房用排気ダクト	※ 亜鉛鉄板　・ ステンレス鋼版（SUS304）（板厚は高圧ダクトによる）
4. 厨房用排気ダクト工法	※ アングルフランジ工法　・ コーナーボルト工法（共板フランジ又はスライドオンフランジ）
5. 厨房用排気フード	(1)フード周囲の天幕（フード面から天井面まで）　※ 取り付ける　・ 取り付けない (2)フードコック　※ 取り付ける　・ 取り付けない (3)材質（天幕とも）　※ ステンレス鋼板（SUS430又はSUS304）
⑥ 多湿箇所の排気ダクト	次の系統のダクトのシールは，標準図（施工45，46）のNシール＋Aシール＋Bシールとし，水抜き管を設ける。 （　）

排煙設備

項目	特記事項
1. ダクト	・ 亜鉛鉄板製　・ 鋼板製（1.6mm以上）
2. 排煙口の形式	・ 可動羽根（スリット共）　・ 可動パネル
3. 排煙口開放装置	・ ワイヤー式　・ 電気式（遠隔操作機能　・ 要　・ 不要）
4. 排煙風量測定方式	建築設協定期検査業務指導書（（財）日本建築設備安全センター）の排煙風量の検査方式に準ずる。

自動制御設備

項目	特記事項
1. 中央監視制御	中央監視制御装置の構成機能は別紙による。
2. 計装工事の配線	（1）屋外・屋内露出の配線は，図面に特記のない限り金属管配線とする。 （2）天井内隠ぺいの配線は，図示に特記がなければケーブル配線とする。

衛生器具設備

項目	特記事項
① 大便器洗浄弁	・ 洗浄タンク方式　・ 洗浄弁方式（不凍結節水弁付）
② 便器洗浄用タンク	※ 手洗なし　⊙ 手洗付
③ 小便器自動洗浄	個別感知方式とする。（⊙ 小便器一体型　・ 小便器分離型）
④ 器具付属水栓	固定こま式（節水こま式）とする。
⑤ 自動水栓	※ 電源供給方式（※ AC100V）　・ 乾電池　・自己給電
⑥ 温水洗浄便座加熱方式	・ 瞬間式　⊙ 貯湯式
7. 大便器耐火カバー	設ける（ピット内を除く）

給水設備

項目	特記事項
① 量水器	(1)親メーター　※ 措用　・ 買取り　（隔測メーター　・ 有　⊙ 無） (2)子メーター　※ 買取り　（隔測メーター　・ 有　・ 無）
② 量水器桝	(1)親メーター用　※ 水道事業者の指定品　・ 標準図（機材57） (2)子メーター用　※ 標準図（機材57）　・ 水道事業者の指定品
③ 配管材料	(1)一般用 ・ ステンレス鋼管（拡管） ・ 塩ビライニング鋼管　（・VA　・VB） ⊙ ポリ粉体ライニング鋼管（・PA ⊙PB） (2)土間配管用（さや管内） ⊙ ポリエチレン管 ・ 塩ビライニング鋼管（VD） ・ ポリ粉体ライニング鋼管（PD） (3)屋外土中用 ・ ステンレス鋼管（SUS316拡管） ・ 塩ビライニング鋼管（VD） ・ ポリ粉体ライニング鋼管（PD） ・ ビニル管（JIS K 6742）（VP） ・ 〃 （HIVP） ⊙ ポリエチレン管 ・ 水道用ゴム輪形硬質塩化ビニル管
④ 不凍水栓柱	化粧ケーシング（・ アルミ合金製　⊙ 合成樹脂製 ）
⑤ 弁類	(1)水道直結部分 ※ JIS又はJV10K　・ 水道事業所の規定による　K (2)その他の部分 ※ JIS又はJV5K　・ JIS又はJV10K ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。
⑥ 給水栓	(1)屋内（※ 一般水栓　・ 耐寒水栓 ）　(2)屋外（※ 耐寒水栓　・ 一般水栓 ） 湯沸室，台所，厨房用水栓は泡沫式とする。　耐寒水栓はJWWAの認証品とする。
⑦ 埋設深さ	(1)一般敷地内（ 0.45　m以上）　(2)敷地内車両道路（ 0.6　m以上） (3)公道部分（※ 水道事業者及び道路管理者規定による ）
⑧ 保温	(1)量水器桝内の保温を行う。 (2)屋外露出配管（弁フランジを含む）は，標準仕様書第2編（表2.3.6　e2・（ハ））とし厚さは呼び径25mm以下は50mm，呼び径32mm以上は40mmとする。
⑨ 埋設弁開閉用ハンドル	本工事に　※ 含む（水道事業者管理用以外の弁操作用）　・ 含まない
⑩ 水道加入金等	水道加入金　⊙ 要（⊙ 本工事　・ 別途 ）　・ 不要 ・ その他（　）
⑪ ステンレス管の接合方法	(1)呼び径60SU以下　SAS322（一般配管用ステンレス鋼管の管継手性能基準）を満足した継手による接合 (2)呼び径75SU以上　・ 溶接接合　⊙ ハウジング形管継手による接合　・ フランジ接合
⑫ その他	給水管の最小口径は20mmとする。ただし，器具接続部分を除く。

排水設備

項目	特記事項
① 配管材料	(1)屋内汚水管 ・ 耐火二層管 ・ 排水用鉛管 ⊙ ビニル管（VP） (2)屋内雑排水管 ・ 耐火二層管 ・ 排水用塩ビライニング鋼管 ⊙ ビニル管（VP） (3)屋外土中汚水，雑排水管 ・ ビニル管（VP） ⊙ ビニル管（VU） ・ ビニル管（再生VU） (4)土間配管用 ・ 排水用塩ビライニング鋼管 ⊙ ビニル管（VU） (5)通気管 ・ 耐火二層管 ⊙ ビニル管（VP） (6)ポンプアップ排水管 ・ ポリ粉体ライニング鋼管（PD） 台所流し等の床上露出部分の排水管は、ビニル管でもよい。
② 排水桝	⊙ 桝リストは図面番号（　） (1)材料　・ RC　⊙ 硬質塩化ビニル　・ ポリプロピレン　・ SC (2)ふた　・鋳鉄製（・ MHA　・ MHB　・ T8A　） ⊙樹脂製 (3)規格　・ 下水道協会（JSWAS）　・ 排水設備用樹脂製桝協会（HMS） ・ 市町村別基準（・ 有　・ 無 ）
3. グリース阻集器	・FRP製（　L）⊙SUS製（　L）　詳細は図示。
4. 満水試験継手	図示の箇所に取付け，満水試験を行うこと。
5. 試験	・ 衛生器具などの取付完了後，排水試験又は通水試験を行う。 ・ 衛生器具などの取付完了後，煙試験を行う。
6. 放流負担金等	・ 不要　・ 要（・ 別途工事　・ 本工事 ）
7. 基礎材	※ 再生クラッシャーラン

給湯設備

項目	特記事項
1. 配管材料	・ ステンレス鋼管（SUS304拡管）　・ 耐熱性ライニング鋼管　・ 銅管　・ 被覆銅管 ・ 保温付被覆銅管　<膨張管及び補給水タンクよりボイラー等への補給水管を含む。>
2. 弁類	給水設備の当該事項による。
3. 湯沸器の排気筒	厚さ0.5mm以上のステンレス鋼板製とする。
4. 保温	湯沸器の給排気筒（二重管）のいんぺい部保温を行う。（h・(ｲ)・X）
5. ステンレス管の接合方法	(1)呼び径60SU以下　SAS322（一般配管用ステンレス鋼管の管継手性能基準）を満足した継手による接合 (2)呼び径75SU以上　・ 溶接接合　・ ハウジング形管継手による接合　・ フランジ接合

消火設備

項目	特記事項
1. 配管材料	(1)一般 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（Sch40） (2)地中埋設部 ・ 外面被覆鋼管（SGP－VS） ・ 〃（SGP－PS） ・ 〃（STPG－370VS） ・ 〃（STPG－370PS） (3)二酸化炭素用 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（継目無管）（Sch80）
2. 屋内消火栓種別	・ 易操作性1号消火栓　・ 2号消火栓　・ 広範囲型2号消火栓
3. 消火栓開閉弁	・ JIS10K　・ JIS20K
4. 保温	(1)屋外露出管については給水管に準ずる。 (2)充水タンクの保温　・ 施工しない　・ 施工する (3)消火配管の保温　屋内消火栓　・ 施工しない　・ 施工する スプリンクラー　・ 施工しない　・ 施工する
5. 消火器類	(1)消火器　種別　（ ABC 10号　）

厨房機器設備

項目	特記事項
1. 厨房機器類	(1) 図示による（材質などは共通仕様書による）。ただし，寸法は参考とする。 (2) 厨房機器据付要領は，標準図施工74による。

ガス設備

項目	特記事項
1. 配管材料	(1)一般 ※ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ ガス事業者の規定による ・ ・ (2)地中埋設部 ※ ポリエチレン被覆鋼管 ・ ガス事業者の規定による ・ ガス用ポリエチレン管 ・
2. 都市ガス	(1)ガスメーター 親メーターはガス事業者の設置，子メーターは本工事 (2)引込み負担金　・ 不要　・ 要（・ 別途工事　・ 本工事 ）
3. 液化石油ガス	(1)ガスボンベ　※ 借用　・ 買い取り　（・ 10kg　・ 20kg　・ 50kg　本） (2)ガスメーター　親メーターはガス事業者の設置，子メーターは本工事とする。 (3)集合装置　・ 標準図（施工72）による（　本組） (4)転倒防止等　・ 標準図（施工73）｛・（a）　・（b）｝　・ ボルト，チェーン等はSUS製とする。 ・ 容器固定具をGL＋300に追加設置する。
4. ガス漏れ警報器	図示の場所に取付ける　（・ 分離形　・ 一体形 ）　・ 別途電気工事 外部出力端子　（・ あり　・ なし ）
5. 埋設深さ	(1)一般敷地内（ 0.45　m以上）　(2)敷地内車両道路（ 0.6　m以上） (3)公道（ガス供給事業者及び道路管理者規定による）
6. その他	配管工事は，原則としてガス供給事業者の責任施工とする。　供給事業者名（　）

~~表1「完成書類」　本工事終了後下記の書類を提出すること。~~　※完成書類は建築による。

名称	完成書類	部数	名称	完成書類	部数
1 完成調書	営繕工事完成引渡要領（平成13年4月1日版）（作成は，主たる請負業者が，他の工事および監督員の協力を得て取りまとめる。）	1部	7 工事写真 ①工事施工写真	A4版 チューブ式ファイル 工事施工写真は，履行写真（着手前写真と完了写真）並びに施工状況写真とで構成される。	1部
			②完成写真	A4版 ペーパーファイル 完成届に添付	1部
2 完成図 ①黒表紙金文字製本	A4版 （4　機器完成図，5　取扱説明書とまとめて1冊にしてもよいが，厚さ80mmを越える場合は分冊とする。）	1部			
②青焼き二つ折り製本	A1版またはA2版の二つ折り	1部	8 工事週報	A4版 チューブ式ファイル	1部
③青焼き二つ折り製本（縮小）	A4版（A3版二つ折り） 1部は設備課保管	2部	9 工事打ち合わせ議事録	A4版 チューブ式ファイル	1部
④原図	三つ折りケース収納	1部			
⑤完成図書電子データ	JWW又はDXF形式のCADデータもしくはPDF形式	CD1枚	10 工事に関する承諾確認書 ①施工計画書 ②施工要領書 ③確認書・承諾書 ④協議書 ⑤安全に関する書類 ⑥建設廃棄物マニフェスト	A4版 チューブ式ファイル	1式
3 施工図 ①青焼き二つ折り製本	A1版またはA2版の二つ折り （施工図の枚数が少ない場合は，完成図の二つ折り製本と合本可）	1部			
②原図	三つ折りケース収納	1部			
4 機器完成図	A4版 黒表紙金文字製本 （2 完成図と合本可）	1部	11 各種保証書	A4版 チューブ式ファイル	1部
5 取扱説明書 ①保守に関する案内書 ②機器別取扱説明書 ③緊急連絡先一覧	A4版 黒表紙金文字製本 （2 完成図と合本可）	1部	12 その他 ①機器試験成績書 ・機材材質証明書 ・機材検査試験報告書 ・工場検査報告書 ・工場立会検査報告書		1部
6 管理の手引き ①工事概要書 ②機器完成図 ③機器別取扱説明書 ④保守に関する案内書 ⑤緊急連絡先一覧表	A4版 チューブ式ファイル	1部	②現場試験成績書 ・工事別試験報告書 ・総合運転および試験報告書		

注記：機器及びシステム参考図について
本図面中で，機器又はシステムの品質・グレードを規定する目的で，対象品の寸法形状，諸元及びシステム構成等を参考図として記載している。
これらのものについては，その品質・性能が図面と同等品もしくはそれ以上のものを使用するものとする。

工事名	平成28年度　花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ）建設工事		図面番号
図面名	機械設備工事特記仕様書	縮尺 N/S	M － 01

機　器　表

記号	機器名称	台数	仕様	電源 φ	電源 V	電源 kW	設置場所	備考
EPH-1	電気式ﾊﾟﾈﾙﾋｰﾀｰ	2	型式　：壁掛形　　ステンレス製	1	100	1.0	女子トイレ	
			能力　：暖房能力　1.0 kW　　暖房能力				男子トイレ	
			付属品　：サーモスタット、いたずら防止カバー、保護カバー、取付金具、他付属品一式					
EPH-2	電気式ﾊﾟﾈﾙﾋｰﾀｰ	1	型式　：壁掛形　　ステンレス製	1	100	0.5	多目的トイレ	
			能力　：暖房能力　0.5 kW　　暖房能力					
			付属品　：サーモスタット、いたずら防止カバー、保護カバー、取付金具、他付属品一式					
FC-1	有圧扇	2	型式　：壁付扇　　電気式シャッター付き	1	100	0.035	女子トイレ	
			能力　：25cm　　×400m3/h　　×20Pa				男子トイレ	
			付属品　：取付枠、ウエザーカバー（SUS製）、他付属品一式					
FC-2	換気扇	1	型式　：壁付扇　　電気式シャッター付き	1	100	0.017	多目的トイレ	
			能力　：20cm　　×200m3/h　　×20Pa					
			付属品　：取付枠、ウエザーカバー（SUS製）、他付属品一式					

器　具　表

名称	形式・参考型番		摘　　要	合計	女子トイレ	多目的トイレ	男子トイレ	屋外						
洋風大便器	CES959P	TOTO	温水洗浄便器一体形便器（1φ100V 321W）、エコリモコン、紙巻器（YH701）、横引管継手、他付属品一式	5	3	1	1							
小便器	CES900J	TOTO	個別感知（1φ100V　0.5W）	3			3							
洗面器	L250	TOTO	壁掛洗面器、自動水栓一体形電気温水器（1φ100V　300W）、壁排水トラップ、他付属品一式	4	2		2							
洗面器	L260	TOTO	壁掛洗面器、自動水栓一体形電気温水器（1φ100V　300W）、壁排水トラップ、他付属品一式	1		1								
掃除流し	SK22A	TOTO	バック付掃除用流し、リムカバー、壁排水トラップ、バックハンガー、給水栓、止水栓、ゴム栓、他付属品一式	1	1									
化粧鏡	YM545FE	TOTO	450ｘ600、耐食鏡、盗難防止用	4	2		2							
化粧鏡			600ｘ800、耐食鏡、盗難防止用	1		1								
表示板				8	3	1	4							
ベビーチェア	YKA15	TOTO		1		1								
ベビーシート	YKA24	TOTO		1		1								
伸縮式不凍水栓柱		竹村	キー付き水栓、SUS製BOX、固定金具、浸透マスカバーセット	1				1						
手すり			建築工事											

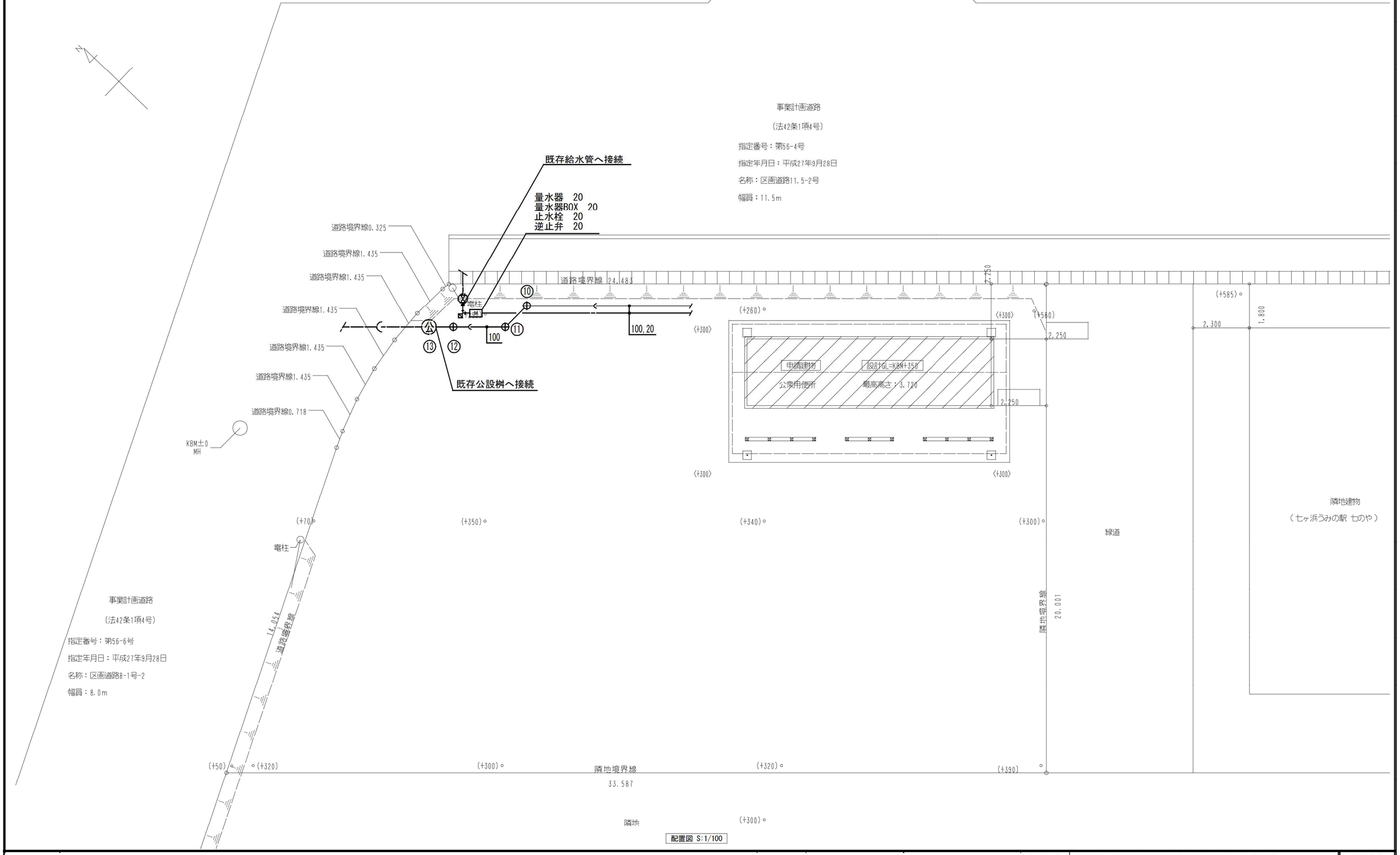
※　洗面器・手洗器・シンク等には止水栓を見込むこと。

汚水桝リスト

45YSは+30mmとする。

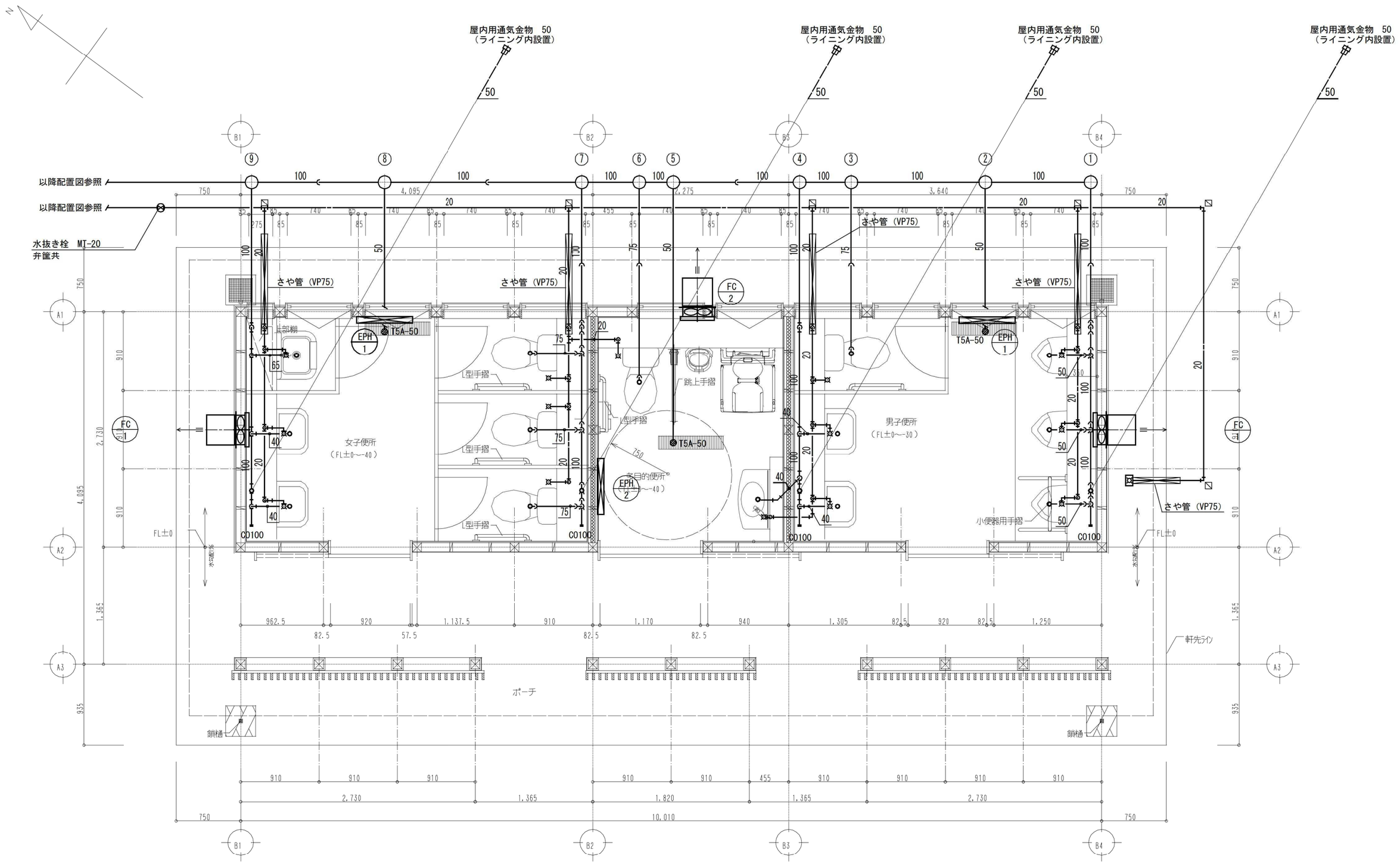
記号	種類	地盤高	口径	桝深さ	ＧＬからの管底深さ	泥ため	蓋	備考
①	汚水桝	0	100　－　200　×	500	500	－	塩ビ製	小口径塩ビ桝　90L
②	汚水桝	0	100　－　200　×	520	520	－	塩ビ製	小口径塩ビ桝　90Y
③	汚水桝	0	100　－　200　×	570	570	－	塩ビ製	小口径塩ビ桝　45YS
④	汚水桝	0	100　－　200　×	580	580	－	塩ビ製	小口径塩ビ桝　90Y
⑤	汚水桝	0	100　－　200　×	600	600	－	塩ビ製	小口径塩ビ桝　90Y
⑥	汚水桝	0	100　－　200　×	640	640	－	塩ビ製	小口径塩ビ桝　45YS
⑦	汚水桝	0	100　－　200　×	680	680	－	塩ビ製	小口径塩ビ桝　45YS
⑧	汚水桝	0	100　－　200　×	710	710	－	塩ビ製	小口径塩ビ桝　90Y
⑨	汚水桝	0	100　－　200　×	730	730	－	塩ビ製	小口径塩ビ桝　90Y
⑩	汚水桝	0	100　－　200　×	830	830	－	塩ビ製	小口径塩ビ桝　45L
⑪	汚水桝	0	100　－　200　×	850	850	－	塩ビ製	小口径塩ビ桝　45L
⑫	汚水桝	0	100　－　200　×	870-1490	870-1490	－	塩ビ製	小口径塩ビ桝　DR
⑬	汚水桝	0	600　φ　×	1500	1500	－	指定品	公設桝

工　事　名	平成28年度　花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ）建設工事		図面番号
図　面　名	機器表・器具表・桝表	縮　尺 N/S	M － 02



配置図 S:1/100

工 事 名	平成28年度 花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ）建設工事		図 面 番 号
図 面 名	給排水衛生設備 配置図	縮 尺 1/100	M － 03



1階 平面図 S:1/30

工 事 名	平成28年度 花渕浜地区被災施設復旧整備事業（公衆用トイレ）建設工事		図 面 番 号
図 面 名	換気・給排水衛生設備 平面詳細図	縮 尺 1/30	M － 04